

女性と男性がともに暮らしやすい
豊中市をつくるためのアンケート調査
結果報告書

平成23年(2011年)3月
豊中市



目 次

． 調査の概要	1
1． 調査の目的	3
2． 調査の設計	3
3． 回収状況	3
4． 報告書の見方	4
5． 標本誤差	4
． 回答者の属性	5
1． 性別	7
2． 年齢	7
3． 配偶者・パートナーの有無	8
4． 同居している家族	9
5． 末子の年齢	10
6． 職業	11
7． 雇用状態	13
8． 配偶者・パートナーの職業	15
9． 配偶者・パートナーの雇用状態	17
． 調査結果のまとめ	19
． 調査結果の分析	31
1． 日常生活や社会全般について	33
2． 家庭生活について	36
3． 子どもの教育について	55
4． 地域活動について	61
5． 高齢期の生活について	66
6． 仕事について	70
7． 男女の人権について	95
8． 男女共同参画社会の実現について	113
． 調査結果からみた課題	119
． 調査票	137

. 調査の概要

1. 調査の目的

市民の働く場や家庭生活における意識及び実態や、日常生活、教育、人権など男女共同参画の推進に対する意識を明らかにし、今後の施策を推進するための基礎資料とする。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

住民基本台帳および外国人登録原票から無作為抽出した満20歳以上の男女市民各1,500人。
(調査基準日平成22年(2010年)10月1日)

(2) 調査方法

対象者に調査票を郵送で配付し、郵送で回収した。
なお途中、はがきによる督促を1回実施した。

(3) 調査期間

平成22年(2010年)10月12日から10月31日

(4) 調査内容

1. 日常生活や社会全般について
2. 家庭生活について
3. 子どもの教育について
4. 地域活動について
5. 高齢期の生活について
6. 仕事について
7. 男女の人権について
8. 男女共同参画社会の実現について

3. 回収状況

配付数	回収数	有効回収数				有効回収率
		女性	男性	その他	不明	
3,000 票	1,293 票	1,291 票				43.0%
		690 票	581 票	1 票	19 票	
		53.4%	45.0%	0.1%	1.5%	

4 . 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（%）は、全て各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を100.0%として表した。
- (5) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (6) 表の単位は、2段の場合、上段が実数、下段が構成比（%）、1段の場合、構成比（%）である。

5 . 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95%の場合）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし

N = 母集団数 女性：168,008
男性：149,993

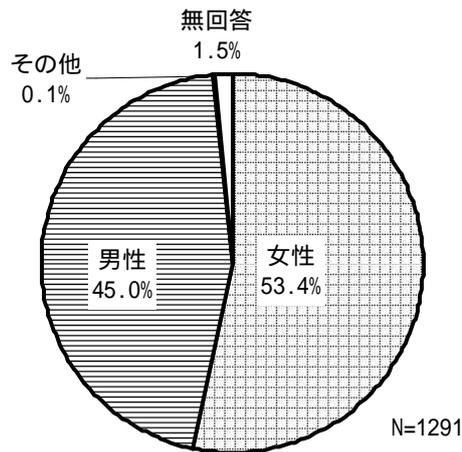
n = 標本数 女性：690
男性：581

P = 標本測定値（回答率：43.0%）

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±3.7	±4.1
45%または55%	±3.7	±4.0
40%または60%	±3.6	±4.0
35%または65%	±3.6	±3.9
30%または70%	±3.4	±3.7
25%または75%	±3.2	±3.5
20%または80%	±3.0	±3.2
15%または85%	±2.7	±2.9
10%または90%	±2.2	±2.4
5%または95%	±1.6	±1.8

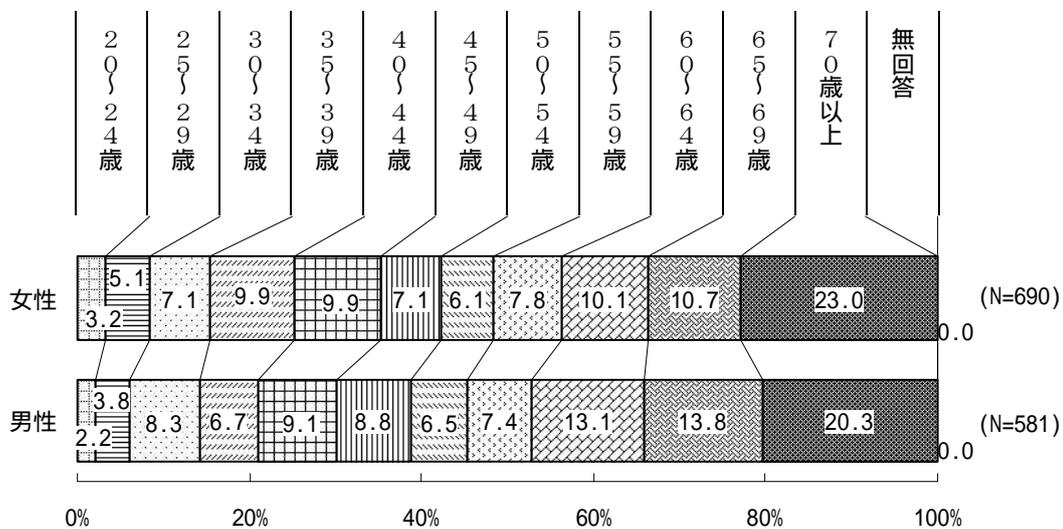
. 回答者の属性

1. 性別



回答者の性別は、「女性」53.4%、「男性」45.0%で女性が過半数を占める。

2. 年齢



回答者の年代は、女性では70歳以上、男性では60歳代の割合が最も高い。女性では、60歳代と70歳以上が20%を超え、ついで40歳代と30歳代がそれぞれ17.0%となっている。男性では60歳代と70歳以上が20%を超え、ついで40歳代が17.9%で続いている。

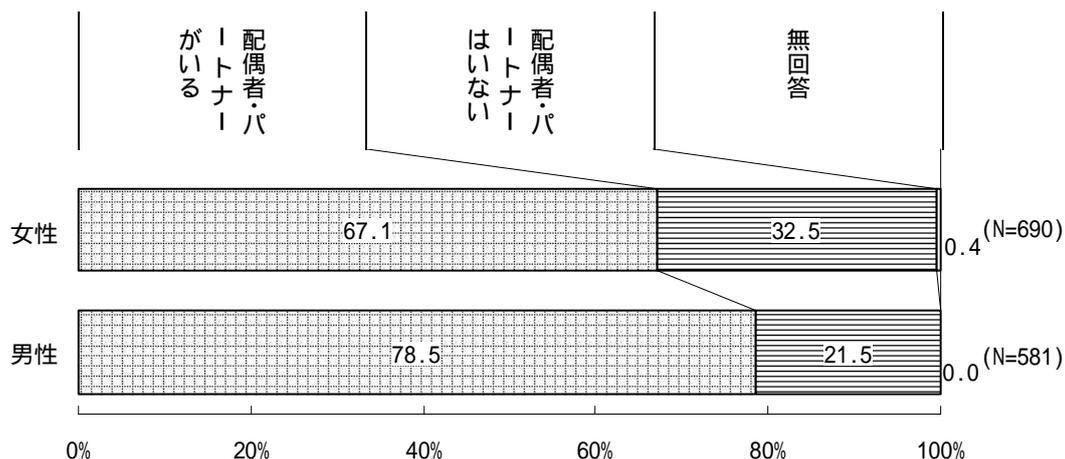
男性は女性と比べて、50歳代以下の割合が低く、60歳代以上の割合が高い。

本市の母集団と比較すると、本調査では女性で40~44歳と55歳以上の占める割合が、男性で60歳以上の占める割合が母集団より高い。男女とも40歳未満の割合が母集団よりも低い。調査の結果では、全体を対象とした場合、男女ともに60歳以上の意識がより多く反映されていることを考慮する必要がある。

【母集団の性・年齢階級別人口構成比】(平成22年(2010年)10月1日現在)

	全体	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60歳~64歳	65~69歳	70歳以上
女性	168,008	5.8	6.6	8.0	10.1	9.3	8.1	6.6	7.1	9.3	8.5	20.5
男性	149,993	6.3	7.0	8.5	10.8	10.3	8.8	7.2	7.6	9.6	8.0	16.0

3. 配偶者・パートナーの有無



【性別】

女性では「配偶者・パートナーがいる」が67.1%、「配偶者・パートナーはいない」が32.5%である。男性では、「配偶者・パートナーがいる」が78.5%、「配偶者・パートナーはいない」が21.5%で、女性と比べて「配偶者・パートナーがいる」割合は高い。

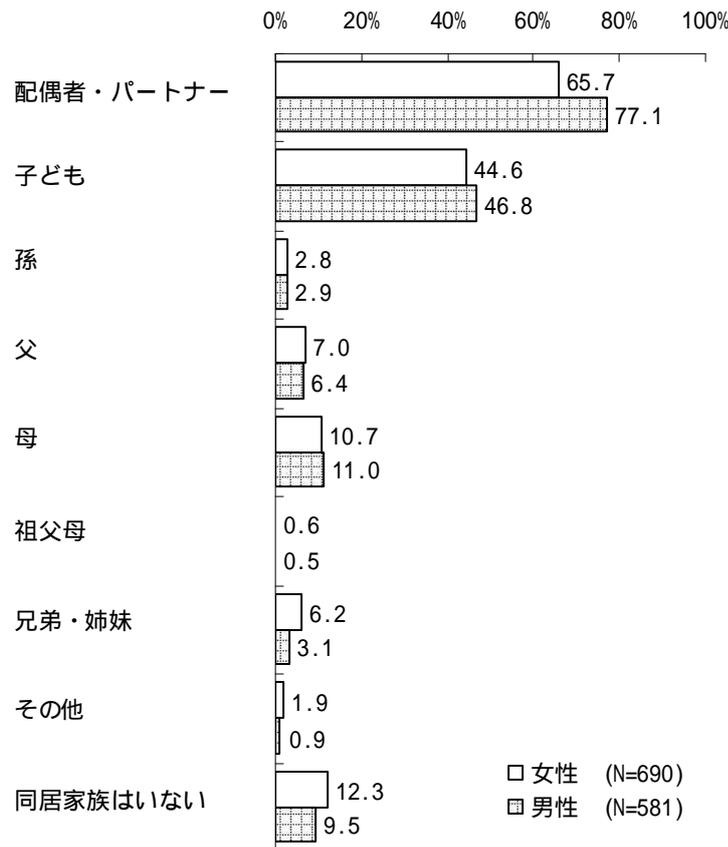
【性・年代別】

女性は、20歳代では「配偶者・パートナーはいない」が過半数を占めるものの、30～50歳代では「配偶者・パートナーがいる」が70%を超え、50歳代で85.4%と最も高い割合になっている。60歳代以降は「配偶者・パートナーがいる」の割合が減少し、70歳代で50.9%である。男性は、20歳代では「配偶者・パートナーはいない」が80.0%となっているが、30歳代以降は「配偶者・パートナーがいる」が75%を超え、70歳以上では86.4%と最も高くなっている。

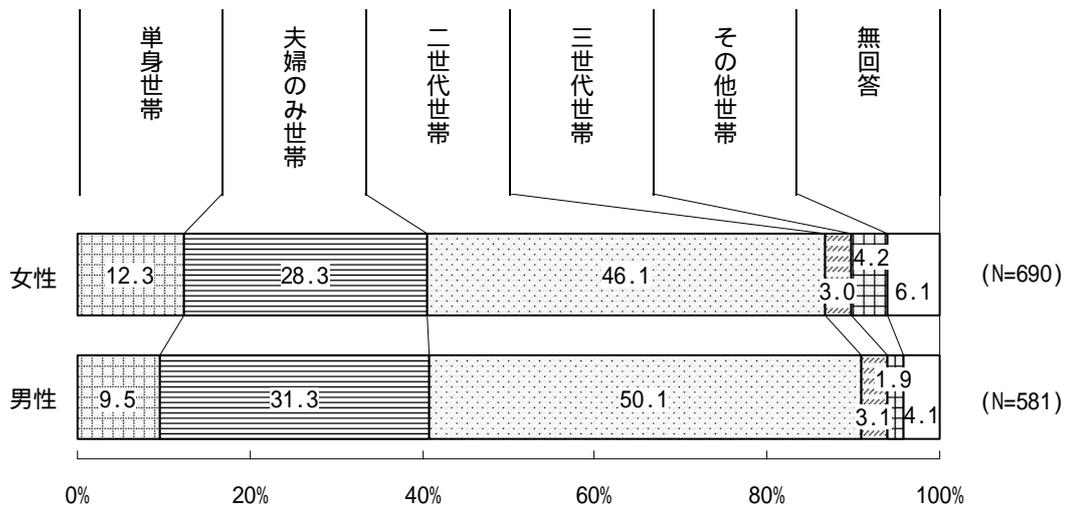
【性・年代別】 配偶者・パートナーの有無

		全体	配偶者・パートナーがいる	配偶者・パートナーはいない	無回答
全体	上段/実数	1291	934	351	6
	下段/%	100.0	72.3	27.2	0.5
女性	20歳代	57	24	32	1
		100.0	42.1	56.1	1.8
	30歳代	117	93	23	1
		100.0	79.5	19.7	0.9
	40歳代	117	83	34	-
		100.0	70.9	29.1	-
	50歳代	96	82	14	-
	100.0	85.4	14.6	-	
男性	60歳代	144	100	44	-
		100.0	69.4	30.6	-
	70歳以上	159	81	77	1
		100.0	50.9	48.4	0.6
	20歳代	35	7	28	-
		100.0	20.0	80.0	-
女性	30歳代	87	66	21	-
		100.0	75.9	24.1	-
	40歳代	104	84	20	-
		100.0	80.8	19.2	-
	50歳代	81	64	17	-
		100.0	79.0	21.0	-
男性	60歳代	156	133	23	-
		100.0	85.3	14.7	-
女性	70歳以上	118	102	16	-
		100.0	86.4	13.6	-

4. 同居している家族



(家族構成)



【性別】

同居している家族は、「配偶者・パートナー」が最も高く、女性 65.7%、男性 77.1%を占める。次に「子ども」が女性 44.6%、男性 46.8%となっている。

家族構成は、男女とも「二世代世帯」が50%前後を占める。次に「夫婦のみ世帯」が女性 28.3%、男性 31.3%、「単身世帯」が女性 12.3%、男性 9.5%となっている。

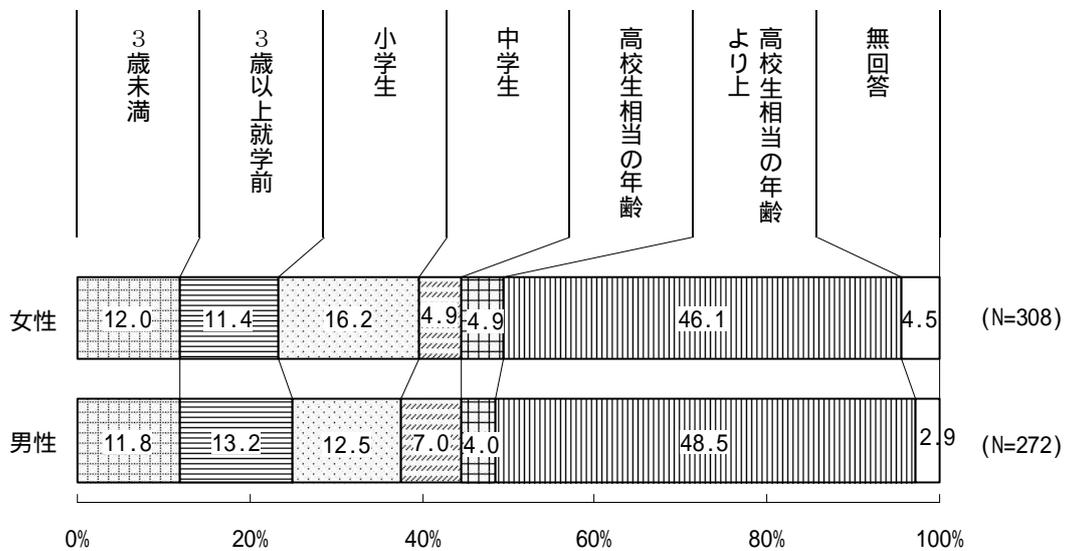
【性・年代別】

「単身世帯」は、女性では70歳以上が22.6%と最も高く、男性では20歳代が31.4%と最も高い。

【性・年代別】 家族構成

		全体	単身世帯	夫婦のみ世帯	二世代世帯	三世代世帯	その他世帯	無回答
全体 上段/実数		1291	141	389	614	39	41	67
下段/%		100.0	10.9	30.1	47.6	3.0	3.2	5.2
女性	20歳代	57	6	13	31	1	4	2
		100.0	10.5	22.8	54.4	1.8	7.0	3.5
	30歳代	117	6	22	82	3	-	4
		100.0	5.1	18.8	70.1	2.6	-	3.4
	40歳代	117	13	16	72	3	6	7
		100.0	11.1	13.7	61.5	2.6	5.1	6.0
	50歳代	96	5	25	54	3	2	7
	100.0	5.2	26.0	56.3	3.1	2.1	7.3	
60歳代	144	19	61	44	6	5	9	
	100.0	13.2	42.4	30.6	4.2	3.5	6.3	
70歳以上	159	36	58	35	5	12	13	
	100.0	22.6	36.5	22.0	3.1	7.5	8.2	
男性	20歳代	35	11	3	18	-	2	1
		100.0	31.4	8.6	51.4	-	5.7	2.9
	30歳代	87	10	18	54	-	-	5
		100.0	11.5	20.7	62.1	-	-	5.7
	40歳代	104	8	14	75	3	2	2
		100.0	7.7	13.5	72.1	2.9	1.9	1.9
	50歳代	81	9	19	45	3	4	1
	100.0	11.1	23.5	55.6	3.7	4.9	1.2	
60歳代	156	9	61	65	9	2	10	
	100.0	5.8	39.1	41.7	5.8	1.3	6.4	
70歳以上	118	8	67	34	3	1	5	
	100.0	6.8	56.8	28.8	2.5	0.8	4.2	

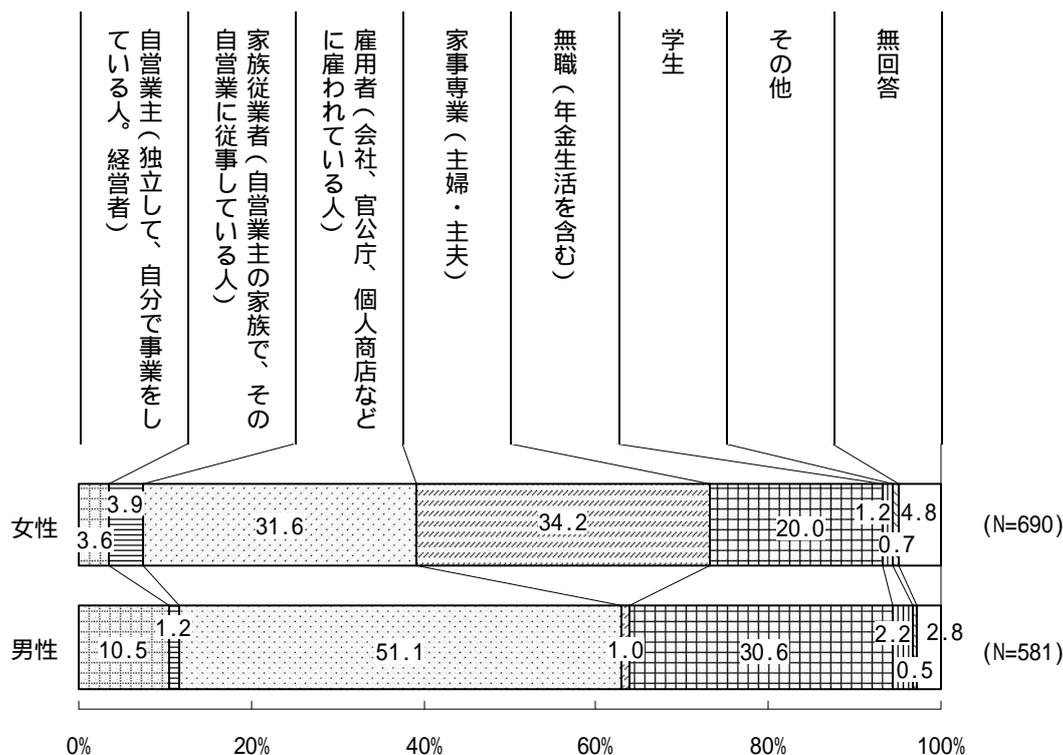
5. 末子の年齢



【性別】

子どもと同居していると回答した人の一番下の子どもは、男女ともに「高校生相当の年齢より上」が40%を超える。女性では「小学生」(16.2%)、「3歳未満」(12.0%)、男性では「3歳以上就学前」(13.2%)、「小学生」(12.5%)と続いている。

6. 職業



【性別】

女性の就業状況をみると、「家事専業(主婦・主夫)」が34.2%と最も高い。「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」(31.6%)、「自営業主(独立して、自分で事業をしている人。経営者)」(3.6%)と「家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している人)」(3.9%)を含めると、就業している女性は39.1%となっている。また「無職(年金生活を含む)」は20.0%を占める。

男性では、「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」が半数以上を占め、「無職(年金生活を含む)」が30.6%、「自営業主(独立して、自分で事業をしている人。経営者)」が10.5%となっている。

【性・年代別】

女性は、20歳代～30歳代では「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」が過半数を占め、一方で30歳代～60歳代では「家事専業(主婦・主夫)」が30%以上である。

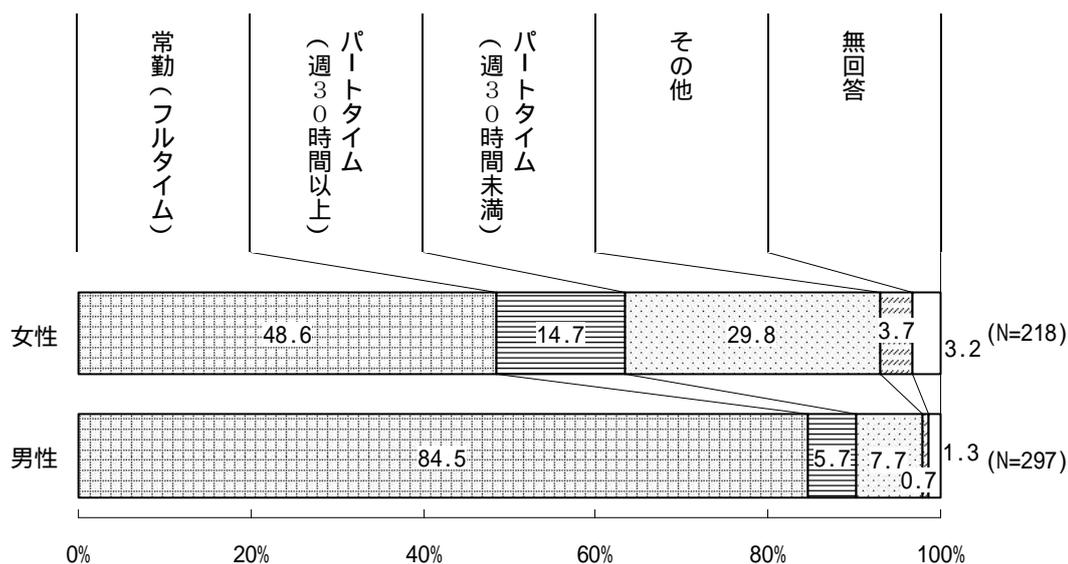
男性では20歳代は「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」が54.3%、「学生」が37.1%、30歳代は「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」が80%以上、40歳代・50歳代で70%以上を占める。

男女とも70歳以上は「無職(年金生活を含む)」の割合が最も高い。

【性・年代別】 職業

		全体	経営者 (自営業主(独立して、自 分で事業をしている人。)	家族従業員(自営業主の 家族で、その自営業に従 事している人)	雇用者(会社、官公庁、 個人商店などに雇われ ている人)	家事専業(主婦・主夫)	無職(年金生活を含む)	学生	その他	無回答
全体	上段/実数	1291	88	34	523	246	321	21	8	50
	下段/%	100.0	6.8	2.6	40.5	19.1	24.9	1.6	0.6	3.9
女性	20歳代	57 100.0	- -	1 1.8	30 52.6	13 22.8	3 5.3	8 14.0	- -	2 3.5
	30歳代	117 100.0	4 3.4	1 0.9	60 51.3	46 39.3	3 2.6	- -	1 0.9	2 1.7
	40歳代	117 100.0	- -	8 6.8	57 48.7	40 34.2	8 6.8	- -	2 1.7	2 1.7
	50歳代	96 100.0	4 4.2	4 4.2	41 42.7	38 39.6	4 4.2	- -	1 1.0	4 4.2
	60歳代	144 100.0	10 6.9	8 5.6	25 17.4	60 41.7	32 22.2	- -	- -	9 6.3
	70歳以上	159 100.0	7 4.4	5 3.1	5 3.1	39 24.5	88 55.3	- -	1 0.6	14 8.8
	男性	20歳代	35 100.0	- -	- -	19 54.3	- -	3 8.6	13 37.1	- -
30歳代		87 100.0	4 4.6	3 3.4	72 82.8	- -	6 6.9	- -	- -	2 2.3
40歳代		104 100.0	14 13.5	2 1.9	81 77.9	- -	6 5.8	- -	- -	1 1.0
50歳代		81 100.0	10 12.3	- -	63 77.8	- -	7 8.6	- -	- -	1 1.2
60歳代		156 100.0	25 16.0	2 1.3	57 36.5	2 1.3	65 41.7	- -	1 0.6	4 2.6
70歳以上		118 100.0	8 6.8	- -	5 4.2	4 3.4	91 77.1	- -	2 1.7	8 6.8

7. 雇用状態



【性別】

「雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」と回答した人の雇用状態をみると、男女ともに、「常勤(フルタイム)」が最も高い割合を占めるものの、女性(48.6%)は男性(84.5%)と比べると35.9ポイント低い。

女性では「パートタイム(週30時間未満)」が29.8%、「パートタイム(週30時間以上)」が14.7%であり、合わせると44.5%で「常勤(フルタイム)」とほぼ同じ割合である。

【性・年代別】

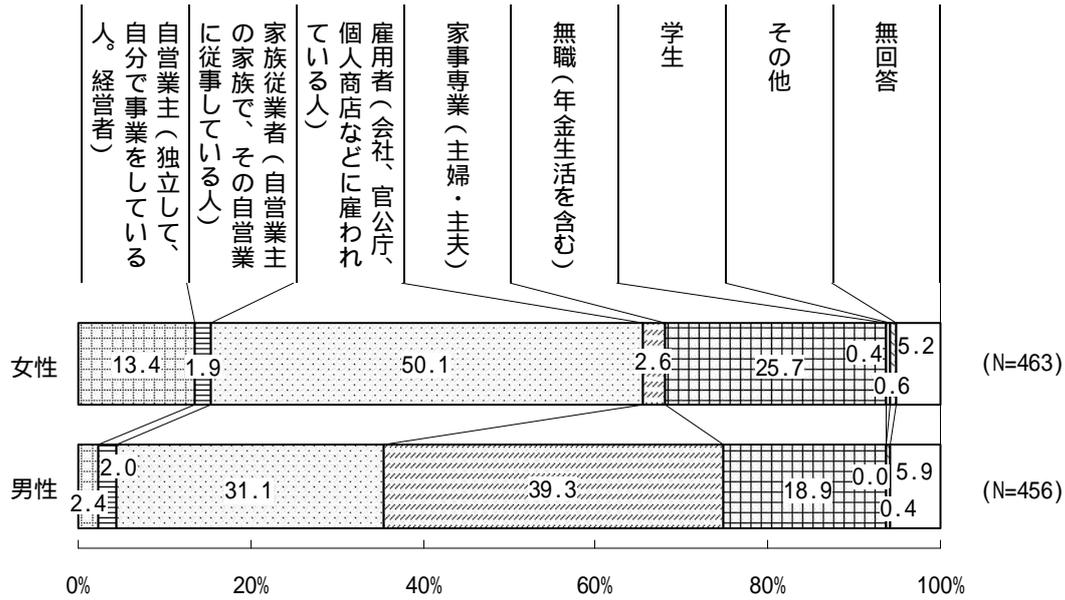
女性では、「常勤(フルタイム)」の割合が20歳代で最も高く66.7%であり、年代が上がるにつれその割合は低くなっている。30歳代~50歳代では、「パートタイム(週30時間未満)」の割合が30%前後となっている。

男性は、20歳代~40歳代までは「常勤(フルタイム)」が90%を超えており、50歳代で88.9%、60歳代で56.1%を占める。

【性・年代別】 雇用状態

		全体	常勤 (フルタイム)	パートタイム (週30時間以上)	パートタイム (週30時間未満)	その他	無回答
全体 上段/実数		523	363	49	89	10	12
下段/%		100.0	69.4	9.4	17.0	1.9	2.3
女性	20歳代	30 100.0	20 66.7	6 20.0	4 13.3	- -	- -
	30歳代	60 100.0	32 53.3	4 6.7	19 31.7	2 3.3	3 5.0
	40歳代	57 100.0	29 50.9	9 15.8	17 29.8	2 3.5	- -
	50歳代	41 100.0	20 48.8	6 14.6	12 29.3	1 2.4	2 4.9
	60歳代	25 100.0	3 12.0	6 24.0	11 44.0	3 12.0	2 8.0
	70歳以上	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	- -	- -
男性	20歳代	19 100.0	18 94.7	1 5.3	- -	- -	- -
	30歳代	72 100.0	67 93.1	1 1.4	4 5.6	- -	- -
	40歳代	81 100.0	77 95.1	2 2.5	2 2.5	- -	- -
	50歳代	63 100.0	56 88.9	4 6.3	1 1.6	- -	2 3.2
	60歳代	57 100.0	32 56.1	8 14.0	14 24.6	1 1.8	2 3.5
	70歳以上	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	- -

8. 配偶者・パートナーの職業



【性別】

配偶者・パートナーの職業をみると、女性では「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」の割合が最も高く 50.1%である。ついで「無職（年金生活を含む）」（25.7%）、「自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）」（13.4%）となっている。

男性では「家事専業（主婦・主夫）」が最も高く 39.3%、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」（31.1%）、「無職（年金生活を含む）」（18.9%）と続く。

【性・本人の職業別】

女性本人が「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」の場合、配偶者・パートナーも「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」は 73.8%であるのに対して、男性本人が「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」の場合は、配偶者・パートナーは「家事専業（主婦・主夫）」が 48.0%、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」は 45.1%である。

【性・本人の職業別】 配偶者・パートナーの職業（女性） (%)

	全体（実数）	配偶者・パートナー								
		無職（年金生活を含む）	学生	その他	無回答	家事専業（主婦・主夫）	雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）	家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している人）	自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）	
女性										
本人	全体	463	13.4	1.9	50.1	2.6	25.7	0.4	0.6	5.2
	自営業主・家族従業者	35	57.1	5.7	20.0	2.9	8.6	-	2.9	2.9
	雇用者	130	9.2	-	73.8	2.3	11.5	-	0.8	2.3
	家事専業・無職	275	9.1	2.2	45.1	2.9	34.9	0.4	-	5.5
	その他	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-

【性・本人の職業別】 配偶者・パートナーの職業（男性） (%)

男性	全体（実数）	配偶者・パートナー								
		経営者（ 自分で事業をしている人）	自営業主（独立して、 自営業者）	家族従業員（自営業主の 家族で、その自営業に従 事している人）	家族従業員（自営業主の 家族で、その自営業に従 事している人）	個人商店などに雇われて いる人）	雇用者（会社、官公庁、 個人商店などに雇われて いる人）	家事専業（主婦・主夫）	無職（年金生活を含む）	学生
本人	全体	456	2.4	2.0	31.1	39.3	18.9	-	0.4	5.9
	自営業主・家族従業者	62	8.1	14.5	25.8	41.9	4.8	-	1.6	3.2
	雇用者	244	2.0	-	45.1	48.0	2.5	-	-	2.5
	家事専業・無職	138	0.7	-	10.1	26.1	54.3	-	-	8.7
	その他	2	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-

本人の職業で、件数0は省略

【性・年代別】

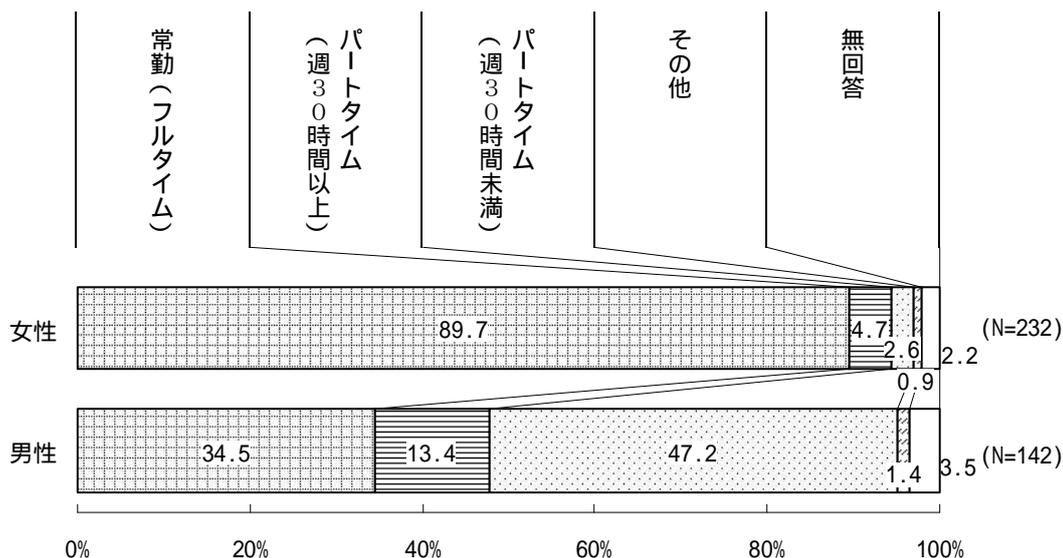
女性の配偶者・パートナーの職業は、20歳代～50歳代では約60～80%が「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」であり、特に30歳代では82.8%で最も高い。

男性の場合は、20歳代と30歳代では「家事専業（主婦・主夫）」が半数以上を占める。50歳代では54.7%が「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」であり最も高い。

【性・年代別】 配偶者・パートナーの職業

	全体	経営者（ 自分で事業をしている人）	自営業主（独立して、 自営業者）	家族従業員（自営業主の 家族で、その自営業に従 事している人）	家族従業員（自営業主の 家族で、その自営業に従 事している人）	個人商店などに雇われて いる人）	雇用者（会社、官公庁、 個人商店などに雇われて いる人）	家事専業（主婦・主夫）	無職（年金生活を含む）	学生	その他	無回答
全体	934	73	18	379	194	211	2	5	52			
	100.0	7.8	1.9	40.6	20.8	22.6	0.2	0.5	5.6			
女性	20歳代	24	4	1	15	-	1	-	3			
		100.0	16.7	4.2	62.5	-	4.2	-	12.5			
	30歳代	93	8	2	77	3	2	-	1			
		100.0	8.6	2.2	82.8	3.2	2.2	-	1.1			
	40歳代	83	15	2	60	-	2	1	2			
		100.0	18.1	2.4	72.3	-	2.4	1.2	2.4			
	50歳代	82	13	2	52	-	12	-	3			
	100.0	15.9	2.4	63.4	-	14.6	-	3.7				
男性	60歳代	100	16	1	26	4	51	-	2			
		100.0	16.0	1.0	26.0	4.0	51.0	-	2.0			
	70歳以上	81	6	1	2	5	52	-	15			
		100.0	7.4	1.2	2.5	6.2	64.2	-	18.5			
	20歳代	7	-	-	3	4	-	-	-			
		100.0	-	-	42.9	57.1	-	-	-			
	30歳代	66	-	-	31	35	-	-	-			
	100.0	-	-	47.0	53.0	-	-	-				
40歳代	84	3	-	38	41	1	-	1				
	100.0	3.6	-	45.2	48.8	1.2	-	1.2				
50歳代	64	3	3	35	21	1	-	1				
	100.0	4.7	4.7	54.7	32.8	1.6	-	1.6				
60歳代	133	3	4	32	53	30	-	-				
	100.0	2.3	3.0	24.1	39.8	22.6	-	-				
70歳以上	102	2	2	3	25	54	-	1				
	100.0	2.0	2.0	2.9	24.5	52.9	-	1.0				

9. 配偶者・パートナーの雇用状態



【性別】

配偶者・パートナーが「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」の場合の雇用状態は、女性では「常勤（フルタイム）」が約90%を占める。男性では「パートタイム（週30時間未満）」が47.2%と最も高く、「パートタイム（週30時間以上）」（13.4%）と合わせると60.6%を占め、「常勤（フルタイム）」は34.5%にとどまっている。

【性・年代別】

女性の20歳代～50歳代では、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」である配偶者・パートナーの90%以上が「常勤（フルタイム）」である。

男性の20歳代～30歳代では、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」である配偶者・パートナーは「常勤（フルタイム）」が最も高く（66.7%、48.4%）、40歳代と60歳代～70歳以上では「パートタイム（週30時間未満）」が半数以上である。

【性・年代別】 配偶者・パートナーの雇用状態

		全体	常勤 (フルタイム)	パートタイム (週30時間以上)	パートタイム (週30時間未満)	その他	無回答
全体	上段/実数	379	260	31	74	4	10
	下段/%	100.0	68.6	8.2	19.5	1.1	2.6
女性	20歳代	15 100.0	14 93.3	- -	- -	1 6.7	- -
	30歳代	77 100.0	76 98.7	- -	- -	- -	1 1.3
	40歳代	60 100.0	57 95.0	2 3.3	- -	- -	1 1.7
	50歳代	52 100.0	48 92.3	1 1.9	3 5.8	- -	- -
	60歳代	26 100.0	13 50.0	8 30.8	2 7.7	1 3.8	2 7.7
	70歳以上	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	1 50.0
	男性	20歳代	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -	- -
30歳代		31 100.0	15 48.4	4 12.9	10 32.3	1 3.2	1 3.2
40歳代		38 100.0	12 31.6	4 10.5	22 57.9	- -	- -
50歳代		35 100.0	15 42.9	4 11.4	15 42.9	- -	1 2.9
60歳代		32 100.0	4 12.5	6 18.8	18 56.3	1 3.1	3 9.4
70歳以上		3 100.0	1 33.3	- -	2 66.7	- -	- -

. 調査結果のまとめ

1. 日常生活や社会全般について

(1) 日常生活や社会全般についての考え方〔問6〕(P.33~35)

性別役割分担やジェンダーに関する意識を問う設問では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『肯定派』の割合は、男女ともに「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」が最も高く80%を超える。

女性では、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(80.7%)、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(63.3%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(59.2%)、「育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」(54.9%)と続く。

男性では、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(86.2%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(78.5%)、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(77.6%)と続く。

『肯定派』が女性よりも男性が高い項目は、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」が最も高く22.9ポイント、ついで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(19.3ポイント)、「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」(17.8ポイント)、「育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」(7.4ポイント)と、性別間の意識の違いが大きい。

『肯定派』が男性よりも女性が高い項目は、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(3.1ポイント)、「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」(1.1ポイント)と、前者に比べると小さい。(P.33 図1-1)

2. 家庭生活について

(1) 家庭での分担〔問7〕(P.36~43)

理想の家庭生活の分担において、「生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー(男性)」の割合が抜きんでて高く、女性63.8%、男性70.2%である。「家計の管理」、「日常の家事」は、男女とも「主に妻・パートナー(女性)」が最も高く、それぞれ50%を超えている。男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高いのは、「高齢者、病人の介護・看護」(女性76.5%、男性70.7%)である。性別で差がみられるのは「育児」であり、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く57.1%、男性では「主に妻・パートナー(女性)」が最も高く46.5%である。

配偶者・パートナーがいる人の、現実での家庭生活の分担において、男女とも「主に夫・パートナー(男性)」が最も高いのは、「生活費を得る」(女性75.6%、男性76.8%)である。男女とも「主に妻・パートナー(女性)」が最も高いのは、「家計の管理」(女性68.9%、男性64.0%)、「日常の家事」(女性81.0%、男性77.0%)、「育児」(女性59.2%、男性56.8%)である。性別で差がみられるのは「高齢者、病人の介護・看護」であり、「該当しない」を除いた中で女性では「主に妻・パートナー(女性)」が30.5%と最も高く、男性では「夫婦・カップルで同じくらい」が25.9%と最も高い。

家庭生活での分担において、理想は「夫婦・カップルで同じくらい」としながらも、現実には「主に夫・パートナー(男性)」あるいは「主に妻・パートナー(女性)」に偏っている。理想と現実で、「夫婦・カップルで同じくらい」の差が大きいものは、「高齢者、病人の介護・看護」において

女性は理想 76.5% / 現実 24.8%、男性は理想 70.7% / 現実 25.9%である。

(P.36 図 2 - 1、P.40 図 2 - 2)

(2) 各分野での男女平等感〔問 8〕(P.44~48)

社会の様々な分野における男女平等感について、「平等になっている」の割合は、男女ともに「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」が最も高く半数を超える(女性 53.0%、男性 61.1%)。全ての項目で「平等になっている」は、男性の方が女性よりも高い割合となっている。差が大きいのは、「家庭生活で」(17.1ポイント)、「法律や制度で」(16.1ポイント)、「政治の場で」(15.2ポイント)、「職場で」(10.0ポイント)である。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』の割合は、男女ともに「社会通念・慣習・しきたりで」が最も高く、女性 72.1%、男性 66.8%である。

女性では、「職場で」(67.0%)、「政治の場で」(65.1%)、「家庭生活で」(59.6%)、「法律や制度で」(37.7%)、「地域活動の場で」(31.7%)、「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」(11.8%)と続く。

男性では、「職場で」(58.0%)、「政治の場で」(52.5%)、「家庭生活で」(48.7%)、「地域活動の場で」(30.5%)、「法律や制度で」(26.5%)、「学校教育の場」(8.1%)と続く。

「社会全体で」は、女性は 70.2%、男性は 61.1%が『男性優遇』と回答している。

全ての項目で『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっている。性別で差が大きいのは、「政治の場で」(12.6ポイント)、「法律や制度で」(11.2ポイント)、「家庭生活で」(10.9ポイント)、「職場で」(9.0ポイント)である。(P.44 図 2 - 3)

(3) 性別役割分担意識について〔問 9〕(P.49~54)

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成派』の割合は、女性では 56.4%、男性では 71.7%を占める。「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した『反対派』の割合は、女性では 32.0%、男性では 19.7%を占める。(P.49 図 2 - 4)

『賛成派』の理由は、女性では「子どもの成長にとってよいと思うから」が 51.2%と最も高く、ついで、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」(43.7%)、「個人的にそうありたいと思うから」(32.4%)と続く。男性では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が 53.2%と最も高く、ついで「子どもの成長にとってよいと思うから」(45.8%)、「個人的にそうありたいと思うから」(29.0%)と続く。性別による差が大きいのは、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」で男性の方が 9.5ポイント高く、「子どもの成長にとってよいと思うから」で女性の方が 5.4ポイント高い。(P.51 図 2 - 5)

『反対派』の理由は、男女ともに「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が最も高く、女性 84.6%、男性 75.4%である。

性別による差が大きいのは、「男女平等に反すると思うから」で男性の方が 11.2ポイント高い。「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」、「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」は女性の方が高く、それぞれ 10.1ポイント、9.2ポイント高い。(P.53 図 2 - 6)

3 . 子どもの教育について

(1) 子どもに望む生き方〔問 10〕(P.55～57)

子どもに将来どのような生き方をしてほしいかを問う設問では、「人間性豊かな生活をする」、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」、「社会に貢献する」、「本人の個性や才能を生かした生活をする」、「本人の意思に任せる」の項目で、男女ともに「女子・男子の両方に」の割合が80%を超えている。「社会的な地位を得る」、「経済的に自立した生活をする」では、「特に男子に」の割合が比較的高く、「社会的な地位を得る」では、女性 25.2%・男性 28.6%、「経済的に自立した生活をする」では、女性 13.9%・男性 18.4%である。(P.55 図3 - 1)

(2) 学校、特に小・中学校で進めてほしい男女平等の取り組み〔問 11〕(P.58～60)

学校、特に小・中学校で進めてほしい男女平等の取り組みについて、男女ともに「男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」が最も高い(女性 75.8%、男性 79.0%)。女性では、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(70.0%)、「男女で協力して家事ができるようにする」(57.2%)と続く。男性では、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(67.3%)、「人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる」(49.1%)と続く。

性別による差があるのは、「男女で協力して家事ができるようにする」、「こころとからだを大切に、年齢に応じた性教育を行う」で、女性の方がそれぞれ 14.7 ポイント、8.1 ポイント高い。そのほかの項目については、大差がない。(P.58 図3 - 2)

4 . 地域活動について

(1) 地域活動の参加状況〔問 12〕(P.61～65)

「参加した、参加している」地域活動において、男女ともに「自治会・町内会の活動」が最も高い(女性 47.5%、男性 35.1%)。女性では、「PTAや子ども会の活動」(40.8%)、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(36.0%)と続く。男性では、「PTAや子ども会の活動」(24.4%)、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(24.4%)と続く。

「参加したことがない、今後も参加したくない」地域活動において、男女ともに「民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動」が最も高く過半数を占める(女性 50.1%、男性 52.0%)。

「参加したことがない、今後は参加したい」地域活動において、女性では、「NPO(非営利団体)やボランティアの活動」が最も高く(32.0%)、ついで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(30.0%)である。男性では、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く(39.6%)、ついで「NPO(非営利団体)やボランティアの活動」(35.5%)である。(P.61 図4 - 1)

「今後は(も)活動したくない」理由として、女性では、「人間関係がわずらわしいから」が25.6%と最も高く、ついで「参加するきっかけがないから」(23.8%)、「あまり関心がないから」(23.6%)と続く。男性では、「仕事が忙しいから」が34.4%と最も高く、ついで「参加するきっかけがないか

ら」(27.3%)、「人間関係がわずらわしいから」(26.0%)と続く。

性別による差が大きいのは、「仕事が忙しいから」では男性の方が12.0ポイント、「家事・育児・介護で忙しいから」では女性の方が11.7ポイント高い。(P.64 図4 - 2)

5 . 高齢期の生活について

(1) 高齢期の生活の不安〔問13〕(P.66~67)

高齢期の生活で不安に思っていることとして、男女ともに「健康で過ごせるか」が最も高い(女性67.4%、男性68.2%)。ついで「経済的にやっていけるか」、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」、「一人になったときの身の回りのこと」、「一人になったときの孤独」と続く。(P.66 図5 - 1)

(2) 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと〔問14〕(P.68~69)

高齢期にやってみたいこととして、男女ともに「趣味の活動やスポーツ、旅行」が最も高い(女性70.7%、男性70.9%)。ついで「孫など家族との団らん」、「夫婦・カップルでの団らん」が続く。(P.68 図5 - 2)

6 . 仕事について

(1) 就労経験の有無〔問15〕(P.70)

雇用されて働いた経験は、「ある」が女性では84.2%、男性では90.4%となっており、男性の方がやや高い。(P.70 図6 - 1)

(2) 雇用の場における男女平等感〔問16〕(P.71~74)

雇用されて働いた経験のある人に職場での男女平等についてたずねたところ、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、男女とも「昇進・昇格、管理職への登用」が最も高く、女性72.4%、男性69.8%である。ついで、女性では、「昇給や賃金水準」(63.0%)、「仕事の内容、仕事の分担」(50.7%)、「採用・募集」(49.4%)と続く。男性では、「昇給や賃金水準」(61.3%)、「採用・募集」(56.0%)、「仕事の内容、仕事の分担」(53.3%)と続く。

「採用・募集」、「仕事の内容、仕事の分担」以外の項目で、『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっており、「働き続けやすい雰囲気」では9.7ポイントの差がある。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合計した『女性優遇』は、男女とも「育児・介護休暇のとりやすさ」が最も高く、女性41.2%、男性47.7%である。ついで、女性では、「仕事の内容、仕事の分担」(7.9%)、「採用・募集」(5.1%)と続く。男性では、「仕事の内容、仕事の分担」(10.7%)、「働き続けやすい雰囲気」(4.9%)と続く。「平等になっている」の割合は、男女ともに「研修の機会や内容」が最も高く、女性41.8%、男性47.8%である。(P.71 図6 - 2)

(3) 1日のうちで仕事や家事・育児・介護等をしている平均時間〔問17〕(P.75～79)

【仕事】

平日

平日における仕事をしている平均時間は、男女ともに「8時間～10時間未満」が最も高く、約30%を占める(女性30.7%、男性33.7%)。女性では、「6時間～8時間未満」(19.6%)、「4時間～6時間未満」(15.6%)、「10時間～12時間未満」(12.6%)と続く。男性では、「12時間以上」(20.8%)、「10時間～12時間未満」(20.5%)と続く。(P.75 図6-3)

休日

休日における仕事をしている平均時間は、男女ともに「なし」が最も高く、半数近くを占める(女性50.0%、男性49.3%)。ついで「4時間未満」(女性18.5%、男性21.6%)である。(P.75 図6-4)

【家事・育児・介護等】

平日

平日における家事・育児・介護等をしている平均時間は、女性では、「2時間～3時間未満」が17.0%と最も高く、ついで「1時間～2時間未満」(15.9%)、「5時間以上」(15.2%)と続く。男性では、「ほとんどない」が41.4%と最も高く、ついで「30分未満」(18.4%)、「30分～1時間未満」(18.1%)と続く。(P.76 図6-5)

休日

休日における家事・育児・介護等をしている平均時間は、女性では、「5時間以上」が21.5%と最も高く、ついで「2時間～3時間未満」(14.4%)、「3時間～4時間未満」(14.4%)と続く。男性では、「ほとんどない」が25.5%と最も高く、ついで「30分～1時間未満」(15.3%)、「1時間～2時間未満」(14.5%)と続く。(P.76 図6-6)

(4) 希望する暮らし方/現実の生活〔問18、19〕(P.80～86)

「仕事と家庭生活をともに優先したい」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計を、『仕事と他の活動を両立させたい』割合とする。

「希望する暮らし方」として、女性では「家庭生活を優先したい」が29.3%で最も高く、ついで「仕事と家庭生活をともに優先したい」(25.4%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(14.3%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(12.8%)と続く。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、41.7%となっている。

男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が32.2%で最も高く、ついで「家庭生活を優先したい」(22.9%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(13.9%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(8.3%)と続く。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、49.5%である。(P.80 図6-7)

「仕事と家庭生活をともに優先している」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」の合計を、『仕事と他の活動を両立している』割合とする。

「現実の生活」として、女性では「家庭生活を優先している」が42.9%で最も高く、ついで「仕事を優先している」(15.8%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(14.2%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(9.6%)と続く。『仕事と他の活動を両立している』割合は、19.8%となっている。男性では「仕事を優先している」が34.3%で最も高く、ついで「仕事と家庭生活を

ともに優先している」(21.5%)、「家庭生活を優先している」(20.0%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(7.7%)と続く。『仕事と他の活動を両立している』割合は、26.7%となっている。(P.83 図6 - 8)

(5) 働いていない理由〔問20〕(P.87~88)

「働いていない理由」として、女性では「家事や育児をしている」が21.5%で最も高く、ついで「健康上の問題」(14.9%)、「働く必要がない」(13.6%)と続く。男性では「定年退職した」が44.7%で最も高く、ついで「健康上の問題」(12.2%)と続く。(P.87 図6 - 9)

(6) 就労の希望/仕事につく上での不安〔問21〕(P.89~92)

「今後、収入を得る仕事につきたいか」について、男女ともに「仕事につきたいと思わない」が最も高く30%以上を占める。一方、「ぜひ仕事につきたい」、「できれば仕事につきたい」を合わせると、男女とも約35%が就労を希望している。(P.89 図6 - 10)

「仕事につく上で困ったことや不安」について、男女とも「年齢制限」が最も高く半数近くを占める。女性では、「家事、育児、介護との両立ができるか」(44.7%)、「自分の健康状態や体力」(37.9%)、「自分のしたい仕事につけるか」(34.8%)と続く。男性では、「自分のしたい仕事につけるか」(47.1%)、「自分の健康状態や体力」(44.3%)、「自分の資格や能力が通用するか」(30.0%)と続く。(P.91 図6 - 11)

(7) 働く上で大切なこと〔問22〕(P.93~94)

「働き続ける、働き始めたいときに大切なこと」について、女性では、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が57.0%で最も高く、ついで「男女が協力して家事や育児・介護などをすること」(54.8%)、「介護、育児休業制度がとりやすい職場の雰囲気があること」(44.8%)、「厚生年金など社会保障が整っていること」(41.3%)と続く。男性では、「厚生年金など社会保障が整っていること」が53.7%で最も高く、ついで「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」(49.9%)、「男女が協力して家事や育児・介護などをすること」(34.4%)、「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること」(29.6%)と続く。(P.93 図6 - 12)

7. 男女の人権について

(1) DV に対する認識〔問23〕(P.95~99)

「DVに対する認識」について、男女ともに半数以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識しているものは、「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」、「ものを投げつけられる」、「押したり、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる」、「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」、「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」、「あなたの意に反して性的な行為を強要される」であり、身体的な暴力である。

ほとんどの項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。特に男性よりも女性の方が高いものは、「あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝

手におろされる」(11.0ポイント)、「『だれのおかげで、お前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(14.5ポイント)、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(10.4ポイント)である。

男女ともに「暴力の場合とそうでない場合がある」が高いものは、「何を言っても長期間無視される」、「大声でどなられる」である。

「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」、「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」について、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高いが、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が最も高く、性別でDVに対する認識の違いがみられる。(P.95 図7 - 1)

(2) D の経験〔問23〕(P.100~103)

「DVの経験」について、「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」を合計した『経験あり』は、男女ともに「大声でどなられる」が最も高く、女性43.9%、男性29.7%である。ついで高いのは、男女ともに「何を言っても長期間無視される」で、女性17.6%、男性23.4%である。

以下は性別によって『経験あり』の順位は大きく異なる。女性では、「『だれのおかげで、お前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(16.7%)、「ものを投げつけられる」(15.8%)、「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」(13.4%)、「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」(12.6%)、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(12.0%)、「あなたの意に反して性的な行為を強要される」(10.4%)が10%以上である。「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」、「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」を『経験あり』と回答している女性がそれぞれ5.3%(37人)、2.1%(15人)、2.3%(16人)いる。男性では、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(12.4%)、「ものを投げつけられる」(12.3%)が10%以上である。男性よりも女性の方が、様々な暴力を多く経験している。(P.100 図7 - 2)

(3) D の相談状況〔問24、25〕(P.104~106)

DVの項目について『経験あり』と回答した人のうち、「相談しようと思わなかった」人は女性39.7%、男性57.9%である。

相談した人の相談先についてみると、「家族や親族」が最も高い(女性21.1%、男性8.8%)。次に「友人・知人」が女性18.7%、男性6.3%で続いている。「相談したかったが、しなかった」と回答している人は女性6.8%、男性5.0%である。(P.104 図7 - 3)

「相談しなかった、しようと思わなかった」理由について、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、半数を超え(女性54.8%、男性59.6%)、ついで「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性37.3%、男性47.0%)が続く。

性別で差がみられるのは、「相手の行為は愛情表現だと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」で男性の方がそれぞれ10.4ポイント、9.7ポイント高く、「相談してもむだだと思ったから」は女性の方が6.6ポイント高い。(P.106 図7 - 4)

(4) セクシュアル・ハラスメントの認識〔問26〕(P.107)

「セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうか」について、男女ともに「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」、「故意に身体にふれられる」、「着替え中の更衣室に、異性に入られる」の項目を、60%以上がセクシュアル・ハラスメントにあたるとしている。

「からだをじろじろ見られる」では、女性が男性よりも7.2ポイント高い。一方「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」では、男性が女性よりも5.4ポイント高い。(P.107 図7-5)

(5) セクシュアル・ハラスメントの経験(職場、学校、地域)〔問26〕(P.108~112)

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が17.2%で最も高い。ついで「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(15.9%)、「故意に身体にふれられる」(14.3%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(12.0%)である。男性では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が6.7%で最も高いが、いずれの項目も10%に満たない。(P.108 図7-6)

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女とも少ないが、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が男女ともに最も高く、女性は5.2%、男性は4.3%となっている。(P.109 図7-7)

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性は「故意に身体にふれられる」が最も高く3.3%、男性は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く2.1%である。(P.110 図7-8)

8. 男女共同参画社会の実現について

(1) 男女共同参画社会の推進のために市が力を入れていくべきこと〔問27〕(P.113~115)

「市が今後力を入れていくべきこと」について、女性では「高齢者の施設や介護サービスを充実する」が61.6%と最も高く、ついで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(61.0%)、「保育の施設・サービスを充実する」(58.4%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(58.3%)と続く。男性では、「保育の施設・サービスを充実する」と「高齢者の施設や介護サービスを充実する」が56.8%と最も高く、ついで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(54.7%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(53.2%)と続く。(P.113 図8-1)

(2) 男女共同参画社会をつくるために自分自身ができること〔問28〕(P.116~117)

男女共同参画社会をつくるために、「自分自身に何ができるか」について、男女とも「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」が最も高く60%を超える。女性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」(51.2%)、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(50.4%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(50.1%)と続く。男性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」(49.1%)、「自分の身

の回りのことができるよう生活面で自立する」(48.4%)、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(48.0%)と続く。

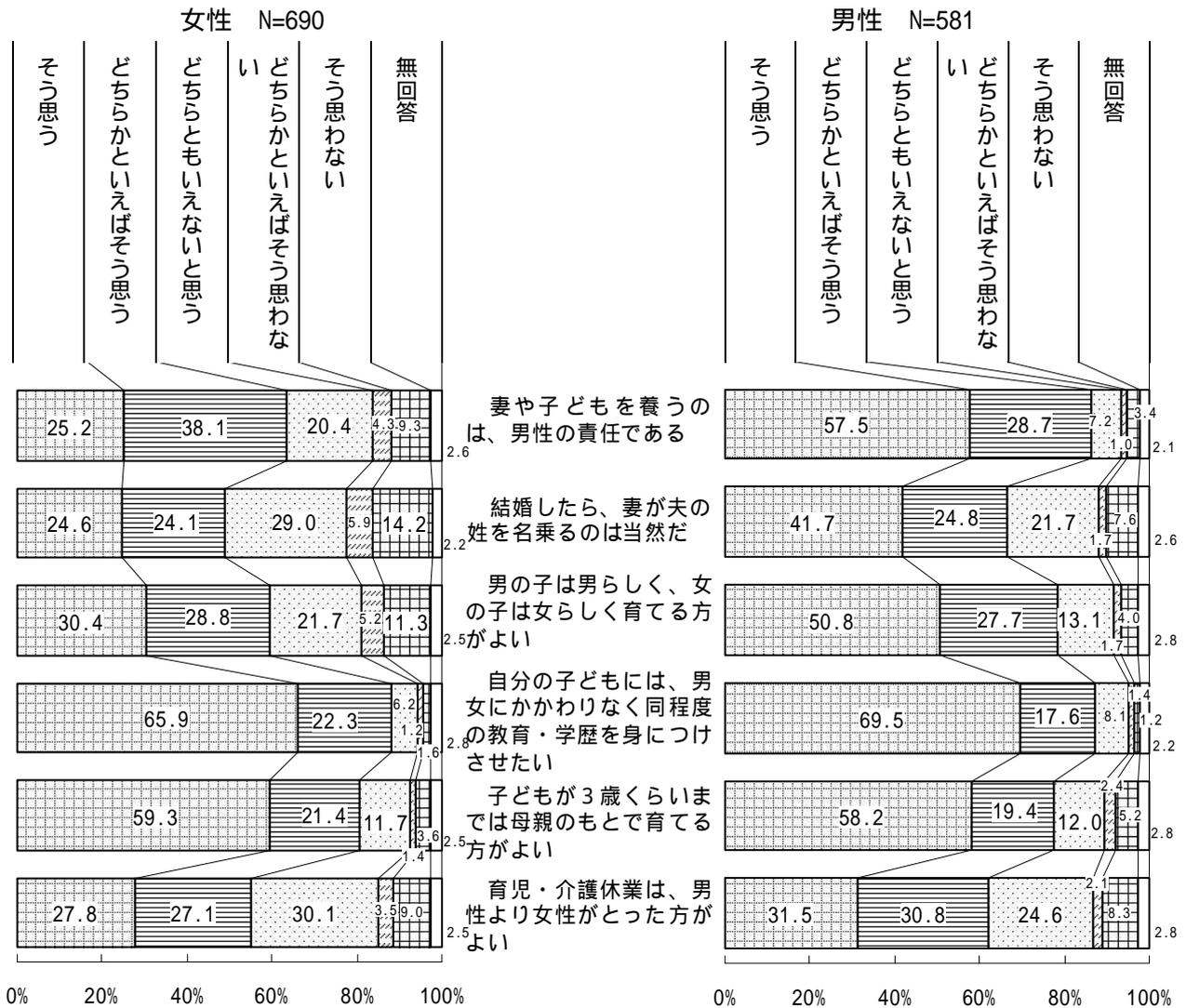
性別によって差がみられるのは、「男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする」(10.9 ポイント)、「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」(5.3 ポイント)で女性の方が男性より高くなっている。(P.116 図8 - 2)

・調査結果の分析

1. 日常生活や社会全般について

問6 あなたは、次の～の項目についてどのように思いますか。(は各項目にそれぞれに1つ)

【図1-1】日常生活や社会全般についての考え方



【性別】

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『肯定派』の割合は、男女ともに「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」が最も高く80%を超える(女性88.2%、男性87.1%)。

女性では、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(80.7%)、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(63.3%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(59.2%)、「育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」(54.9%)、「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」(48.7%)と続く。

男性では、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(86.2%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(78.5%)、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(77.6%)、「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」(66.5%)、「育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」(62.3%)と続く。

『肯定派』が女性よりも男性が高い項目は、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」が

最も高く 22.9 ポイント、ついで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(19.3 ポイント)、「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」(17.8 ポイント)、「育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」(7.4 ポイント)と、性別間の意識の違いが大きい。

『肯定派』が男性よりも女性が高い項目は、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(3.1 ポイント)、「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」(1.1 ポイント)と、前者に比べると小さい。

【性・年代別】

妻や子どもを養うのは、男性の責任である

女性では、『肯定派』が50歳代～60歳代で高く約70%を占め、30歳代は最も低く50.4%である。男性では、『肯定派』が40歳代～50歳代で高く90%以上を占め、20歳代は最も低く71.4%である。結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ

男女とも年代とともに『肯定派』は上昇し、70歳以上が最も高く、女性では67.3%、男性では76.3%である。

男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

男女とも年代とともに『肯定派』は概ね上昇し、女性70歳以上では77.4%、男性60歳代では83.9%である。

男性の50歳代以上では『肯定派』が80%を超える。

自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい

男性30歳代(78.1%)以外の男女各年代では、『肯定派』が80%を超える。

子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

男女とも40歳代以上では、『肯定派』が80%を超える。どの年代でも『肯定派』は男性よりも女性の方が高い。

育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい

女性では、『肯定派』は40歳代で最も低く38.4%である。その後は年代とともに上昇し、女性70歳以上では74.8%である。

30歳代以上ではどの年代でも『肯定派』は女性よりも男性の方が高い。

【表 1 - 1 性・年代別】 日常生活や社会全般についての考え方

	全体	妻や子どもを養うのは、男性の責任である			結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ			男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい			
		『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	954 73.9	185 14.3	120 9.3	735 56.9	330 25.6	194 15.0	877 67.9	230 17.8	149 11.6
女性	20歳代	57 100.0	34 59.6	12 21.1	11 19.3	18 31.6	24 42.1	15 26.3	21 36.8	21 36.8	15 26.3
	30歳代	117 100.0	59 50.4	34 29.1	23 19.6	39 33.3	43 36.8	35 29.9	53 45.3	36 30.8	27 23.0
	40歳代	117 100.0	70 59.8	30 25.6	17 14.5	42 35.9	42 35.9	32 27.3	55 47.0	35 29.9	26 22.2
	50歳代	96 100.0	68 70.8	18 18.8	10 10.4	41 42.7	35 36.5	20 20.8	57 59.4	21 21.9	17 17.7
	60歳代	144 100.0	100 69.5	24 16.7	15 10.5	89 61.8	35 24.3	18 12.5	100 69.5	27 18.8	14 9.7
	70歳以上	159 100.0	106 66.7	23 14.5	18 11.3	107 67.3	21 13.2	19 12.0	123 77.4	10 6.3	15 9.5
男性	20歳代	35 100.0	25 71.4	8 22.9	2 5.7	15 42.9	15 42.9	5 14.3	21 60.0	8 22.9	6 17.2
	30歳代	87 100.0	65 74.7	12 13.8	8 9.1	50 57.4	28 32.2	8 9.2	62 71.3	14 16.1	10 11.4
	40歳代	104 100.0	96 92.3	5 4.8	3 2.9	64 61.5	30 28.8	10 9.6	80 76.9	21 20.2	3 2.9
	50歳代	81 100.0	73 90.1	3 3.7	4 4.9	50 61.8	20 24.7	10 12.3	65 80.2	12 14.8	3 3.7
	60歳代	156 100.0	136 87.2	11 7.1	7 4.5	117 75.0	22 14.1	14 9.0	131 83.9	16 10.3	6 3.8
	70歳以上	118 100.0	106 89.8	3 2.5	2 1.6	90 76.3	11 9.3	7 5.9	97 82.2	5 4.2	5 4.2

	全体	自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい			子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい			育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい			
		『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	『肯定派』	『どちらともいえない』	『否定派』	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	1132 87.7	91 7.0	34 2.6	1025 79.4	152 11.8	79 6.2	754 58.4	356 27.6	146 11.3
女性	20歳代	57 100.0	49 86.0	8 14.0	-	40 70.2	15 26.3	2 3.5	23 40.4	19 33.3	14 24.5
	30歳代	117 100.0	101 86.3	8 6.8	8 6.8	78 66.7	25 21.4	14 12.0	51 43.5	43 36.8	23 19.7
	40歳代	117 100.0	103 88.0	10 8.5	3 2.6	99 84.6	12 10.3	6 5.2	45 38.4	51 43.6	21 18.0
	50歳代	96 100.0	91 94.8	3 3.1	2 2.1	81 84.4	11 11.5	4 4.1	49 51.0	39 40.6	8 8.4
	60歳代	144 100.0	130 90.3	8 5.6	2 1.4	123 85.4	12 8.3	5 3.5	92 63.9	36 25.0	11 7.7
	70歳以上	159 100.0	135 84.9	6 3.8	4 2.6	136 85.5	6 3.8	4 2.5	119 74.8	20 12.6	9 5.6
男性	20歳代	35 100.0	32 91.5	2 5.7	1 2.9	21 60.0	11 31.4	3 8.6	12 34.3	15 42.9	8 22.9
	30歳代	87 100.0	68 78.1	16 18.4	2 2.3	47 54.0	20 23.0	18 20.6	38 43.7	29 33.3	18 20.7
	40歳代	104 100.0	93 89.4	8 7.7	3 2.9	84 80.8	12 11.5	8 7.7	59 56.7	28 26.9	17 16.3
	50歳代	81 100.0	70 86.4	8 9.9	2 2.5	67 82.7	9 11.1	4 4.9	50 61.7	26 32.1	4 4.9
	60歳代	156 100.0	141 90.4	7 4.5	5 3.2	132 84.6	11 7.1	9 5.8	109 69.8	33 21.2	10 6.4
	70歳以上	118 100.0	102 86.4	6 5.1	2 1.7	100 84.8	7 5.9	2 1.6	94 79.7	12 10.2	3 2.5

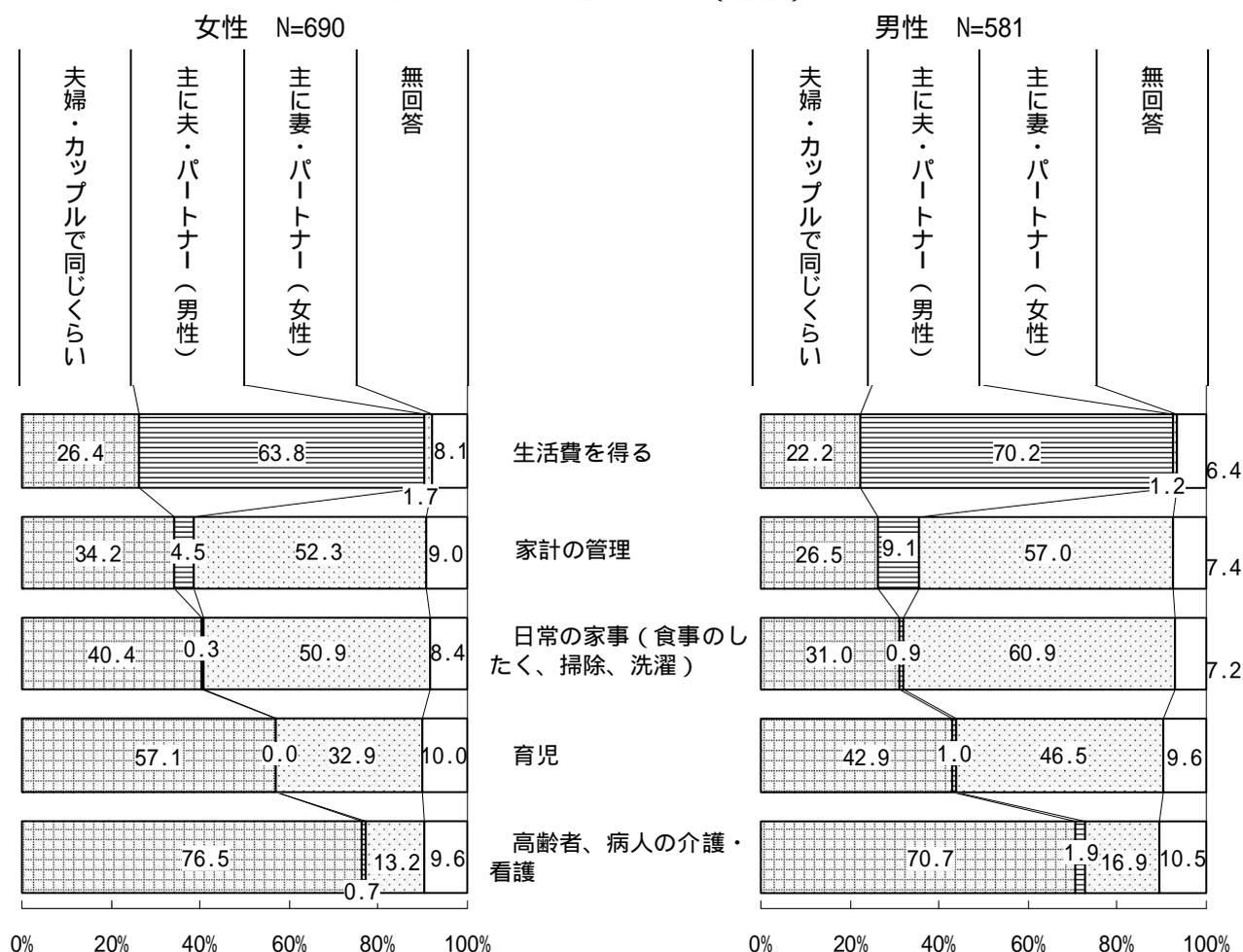
2. 家庭生活について

問7 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(~ の項目について、理想と現実それぞれ各項目に は1つ)

理想

【図2-1】家庭での分担（理想）



【性別】

理想の家庭生活の分担において、「生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー(男性)」の割合が抜きんでて高く、女性63.8%、男性70.2%である。「家計の管理」は、男女とも「主に妻・パートナー(女性)」が最も高く、女性52.3%、男性57.0%である。同様に、「日常の家事」は、男女とも「主に妻・パートナー(女性)」が最も高く、女性50.9%、男性60.9%である。男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高いのは、「高齢者、病人の介護・看護」(女性76.5%、男性70.7%)である。性別で差がみられるのは「育児」であり、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く57.1%、男性では「主に妻・パートナー(女性)」が最も高く46.5%である。

【性・年代別】

男性 20 歳代は、他の年代に比べて全ての項目において「夫婦・カップルで同じくらい」を理想とする割合が高い。

生活費を得る

男女ともどの年代も、「主に夫・パートナー（男性）」の割合が最も高いが、男女 20 歳代は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合も高く、「主に夫・パートナー（男性）」との差が小さい。

家計の管理

女性では 50 歳代以外の年代で、「主に妻・パートナー（女性）」の割合が高くなっている。50 歳代では「主に妻・パートナー（女性）」と「夫婦・カップルで同じくらい」が同程度である。

男性では、20 歳代は「夫婦・カップルで同じくらい」が 60.0%で高いものの、他の年代では「主に妻・パートナー（女性）」が 50%を超えている。

日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

他の年代はいずれも「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高いのに対して、女性 20 歳代、女性 50 歳代、男性 20 歳代は「夫婦・カップルで同じくらい」の方が上回る。

育児

男女とも年代が下がるにつれ「夫婦・カップルで同じくらい」は上昇し、20 歳代では女性 70.2%、男性 80.0%である。女性では 70 歳以上、男性では 50 歳代以上で、「夫婦・カップルで同じくらい」よりも「主に妻・パートナー（女性）」が高くなり逆転する。

高齢者、病人の介護・看護

他の年代よりも女性では 40 歳代、男性では 60 歳代が「主に妻・パートナー（女性）」が高い。

理想【表 2 - 1 性・年代別】 家庭での分担（理想）

		全体	生活費を得る			家計の管理			日常の家事				
			ら い で 同 じ く ら い	夫 婦 ・ カ ッ プ ル	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）	ら い で 同 じ く ら い	夫 婦 ・ カ ッ プ ル	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）	ら い で 同 じ く ら い	夫 婦 ・ カ ッ プ ル	性 ト ナ ー （ 男 ）
全体	上段/実数	1291	317	859	19	396	84	702	463	7	717		
	下段/%	100.0	24.6	66.5	1.5	30.7	6.5	54.4	35.9	0.5	55.5		
女性	20 歳代	57 100.0	22 38.6	34 59.6	-	19 33.3	4 7.0	33 57.9	35 61.4	-	21 36.8		
	30 歳代	117 100.0	42 35.9	71 60.7	-	45 38.5	3 2.6	66 56.4	56 47.9	-	58 49.6		
	40 歳代	117 100.0	31 26.5	81 69.2	1 0.9	42 35.9	4 3.4	65 55.6	56 47.9	-	58 49.6		
	50 歳代	96 100.0	30 31.3	60 62.5	1 1.0	44 45.8	7 7.3	39 40.6	47 49.0	1 1.0	42 43.8		
	60 歳代	144 100.0	28 19.4	102 70.8	3 2.1	49 34.0	5 3.5	79 54.9	52 36.1	-	81 56.3		
	70 歳以上	159 100.0	29 18.2	92 57.9	7 4.4	37 23.3	8 5.0	79 49.7	33 20.8	1 0.6	91 57.2		
	男性	20 歳代	35 100.0	14 40.0	20 57.1	-	21 60.0	2 5.7	11 31.4	20 57.1	-	14 40.0	
30 歳代		87 100.0	28 32.2	56 64.4	-	31 35.6	7 8.0	47 54.0	35 40.2	1 1.1	48 55.2		
40 歳代		104 100.0	27 26.0	74 71.2	1 1.0	33 31.7	12 11.5	57 54.8	32 30.8	1 1.0	67 64.4		
50 歳代		81 100.0	17 21.0	60 74.1	1 1.2	24 29.6	7 8.6	45 55.6	26 32.1	1 1.2	50 61.7		
60 歳代		156 100.0	29 18.6	116 74.4	3 1.9	29 18.6	15 9.6	100 64.1	40 25.6	-	106 67.9		
70 歳以上		118 100.0	14 11.9	82 69.5	2 1.7	16 13.6	10 8.5	71 60.2	27 22.9	2 1.7	69 58.5		

【表2 - 1 性・年代別】 家庭での分担（理想）

	全体 上段/実数 下段/%	育児			高齢者、病人の介護・看護			
		夫 婦・カ ップ ルで 同じ く	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 ）	夫 婦 ・ カ ップ ル で 同 じ く	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 ）	
全体	1291	651	6	504	952	16	192	
	100.0	50.4	0.5	39.0	73.7	1.2	14.9	
女性	20歳代	57	40	-	16	48	-	8
		100.0	70.2	-	28.1	84.2	-	14.0
	30歳代	117	82	-	32	100	1	13
		100.0	70.1	-	27.4	85.5	0.9	11.1
	40歳代	117	81	-	32	90	1	20
		100.0	69.2	-	27.4	76.9	0.9	17.1
男性	50歳代	96	65	-	24	74	1	14
		100.0	67.7	-	25.0	77.1	1.0	14.6
	60歳代	144	76	-	54	113	1	17
		100.0	52.8	-	37.5	78.5	0.7	11.8
	70歳以上	159	50	-	69	103	1	19
		100.0	31.4	-	43.4	64.8	0.6	11.9
女性	20歳代	35	28	-	6	31	1	2
		100.0	80.0	-	17.1	88.6	2.9	5.7
	30歳代	87	62	-	23	70	-	15
		100.0	71.3	-	26.4	80.5	-	17.2
	40歳代	104	53	3	42	75	2	19
		100.0	51.0	2.9	40.4	72.1	1.9	18.3
男性	50歳代	81	33	1	43	62	2	10
		100.0	40.7	1.2	53.1	76.5	2.5	12.3
	60歳代	156	48	1	93	100	2	37
		100.0	30.8	0.6	59.6	64.1	1.3	23.7
	70歳以上	118	25	1	63	73	4	15
		100.0	21.2	0.8	53.4	61.9	3.4	12.7

【表2 - 2 市前回調査との比較】 家庭での分担（理想）

(%)

		女性				男性			
		全体 (実数)	夫 婦・カ ップ ルで 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 男 性 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 性 ）	全体 (実数)	夫 婦 ・ カ ップ ル で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 男 性 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 性 ）
生活費を得る	本調査	690	26.4	63.8	1.7	581	22.2	70.2	1.2
	前回調査(豊中市 平成17年)	685	32.6	61.5	1.2	492	27.0	68.1	1.2
家計の管理	本調査	690	34.2	4.5	52.3	581	26.5	9.1	57.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	685	41.3	6.3	47.4	492	32.9	6.9	55.9
日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)	本調査	690	40.4	0.3	50.9	581	31.0	0.9	60.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	685	39.9	1.0	54.7	492	28.7	0.2	67.1
掃除	前回調査(豊中市 平成17年)	685	57.2	2.8	35.5	492	52.0	3.9	39.8
洗濯	前回調査(豊中市 平成17年)	685	41.5	1.0	52.8	492	35.6	2.4	57.7
育児	本調査	690	57.1	-	32.9	581	42.9	1.0	46.5
	前回調査(豊中市 平成17年)	685	71.2	0.6	21.6	492	57.7	1.8	34.1
高齢者、病人の介護・看護	本調査	690	76.5	0.7	13.2	581	70.7	1.9	16.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	685	81.9	0.9	10.8	492	70.9	3.3	18.7

本調査結果、市前回調査ともに「その他の人」「該当しない」は省略している

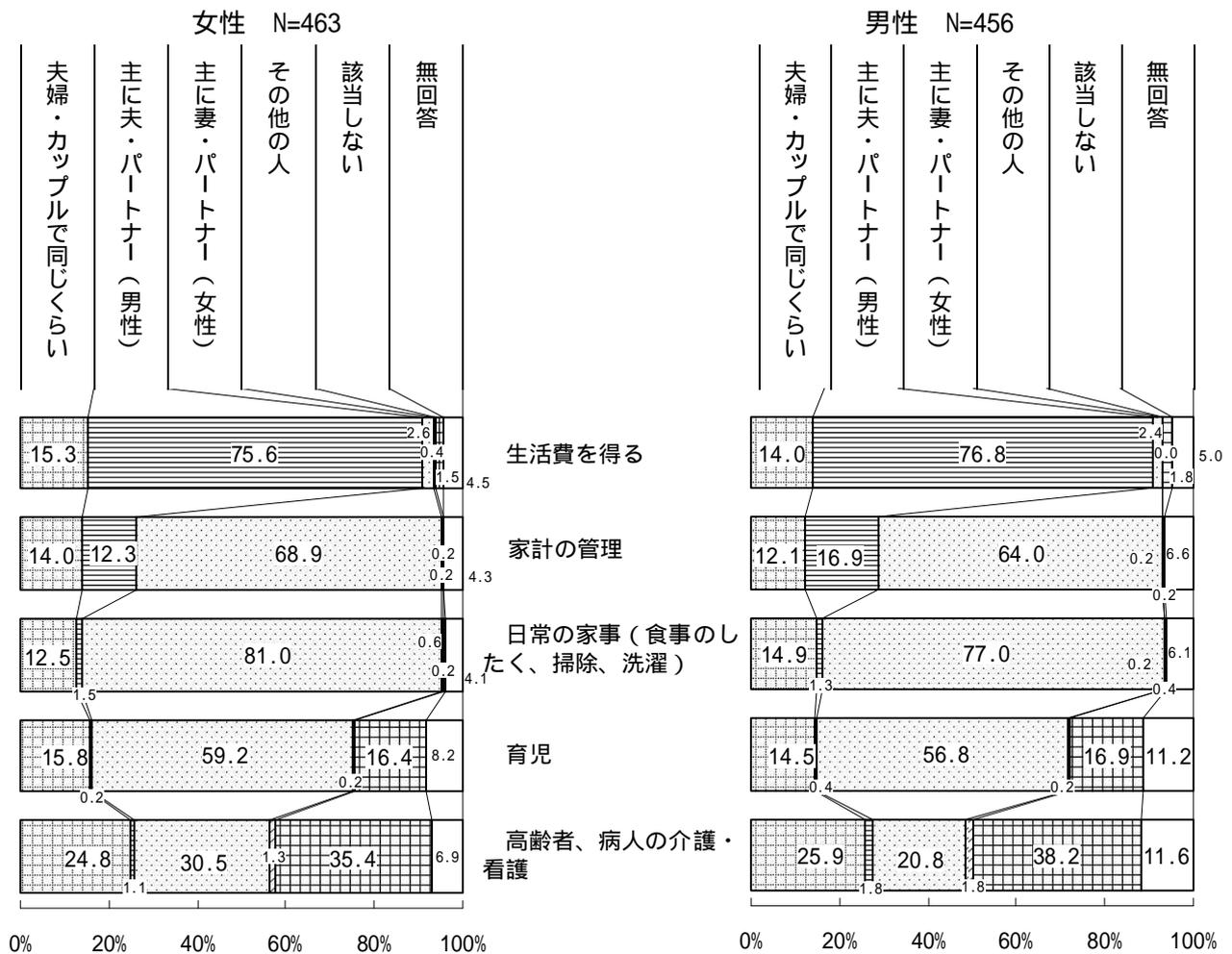
市前回調査（平成 17 年）と比較すると、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」が増加しているのは「生活費を得る」である。一方で男女ともに「主に妻・パートナー（女性）」が増加しているのは「家計の管理」、「日常の家事」、「育児」である。

「育児」では、「主に妻・パートナー（女性）」が女性では 11.3 ポイント、男性では 12.4 ポイント高くなっているのと同時に、「夫婦・カップルで同じくらい」が女性では 14.1 ポイント、男性では 14.8 ポイント低くなっている。

* 本調査の「日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」は、市前回調査の「食事のしたく」、「掃除」、「洗濯」の平均値と比較している。

現実

【図2-2】家庭での分担（現実）



【性別】

配偶者・パートナーがいる人の、現実での家庭生活の分担において、男女とも「主に夫・パートナー(男性)」が最も高いのは、「生活費を得る」(女性75.6%、男性76.8%)である。男女とも「主に妻・パートナー(女性)」が最も高いのは、「家計の管理」(女性68.9%、男性64.0%)、「日常の家事」(女性81.0%、男性77.0%)、「育児」(女性59.2%、男性56.8%)である。性別で差がみられるのは「高齢者、病人の介護・看護」であり、「該当しない」を除いた中で女性では「主に妻・パートナー(女性)」が30.5%と最も高く、男性では「夫婦・カップルで同じくらい」が25.9%と最も高い。

家庭生活での分担において、理想は「夫婦・カップルで同じくらい」としながらも、現実には「主に夫・パートナー(男性)」あるいは「主に妻・パートナー(女性)」に偏っている。理想と現実で、「夫婦・カップルで同じくらい」の差が大きいものは、「高齢者、病人の介護・看護」において女性は理想76.5% / 現実24.8%、男性は理想70.7% / 現実25.9%である。

【性・年代別】

生活費を得る

男女ともどの年代も、「主に夫・パートナー（男性）」の割合が最も高く、女性 30 歳代～50 歳代、男性 20 歳代と 40 歳代は 80%を超える。

家計の管理

男女ともどの年代も、「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高く、女性 20 歳代と 50 歳代～60 歳代、男性 40 歳代と 50 歳代は 70%を超える。

日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

男女ともどの年代も、「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高く、男女ともに 40 歳代以下は 80%を超えている。

育児

男女ともどの年代も、「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高く、女性 50 歳代は 70%を超える。

高齢者、病人の介護・看護

男女とも 60 歳代と 70 歳以上では、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が最も高く、30%を超える。女性 50 歳代では「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高く、46.3%である。

現実【表 2 - 3 性・年代別】 家庭での分担（現実）

	全体	生活費を得る			家計の管理			日常の家事			
		ら ル で 同 じ く	夫 婦 ・ カ ッ プ ル	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）	ら い 夫 婦 ・ カ ッ プ ル	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）	く ら い 夫 婦 で 同 じ	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）
全体	上段/実数 下段/%	934 100.0	137 14.7	712 76.2	23 2.5	123 13.2	136 14.6	620 66.4	128 13.7	14 1.5	737 78.9
女性	20 歳代	24 100.0	5 20.8	18 75.0	- -	3 12.5	4 16.7	17 70.8	2 8.3	1 4.2	20 83.3
	30 歳代	93 100.0	12 12.9	78 83.9	1 1.1	11 11.8	17 18.3	64 68.8	5 5.4	1 1.1	85 91.4
	40 歳代	83 100.0	13 15.7	68 81.9	1 1.2	16 19.3	8 9.6	56 67.5	8 9.6	1 1.2	71 85.5
	50 歳代	82 100.0	14 17.1	66 80.5	1 1.2	11 13.4	10 12.2	60 73.2	16 19.5	1 1.2	64 78.0
	60 歳代	100 100.0	12 12.0	75 75.0	5 5.0	11 11.0	13 13.0	70 70.0	15 15.0	3 3.0	77 77.0
	70 歳以上	81 100.0	15 18.5	45 55.6	4 4.9	13 16.0	5 6.2	52 64.2	12 14.8	- -	58 71.6
男性	20 歳代	7 100.0	- -	7 100.0	- -	1 14.3	2 28.6	4 57.1	- -	- -	7 100.0
	30 歳代	66 100.0	12 18.2	51 77.3	1 1.5	11 16.7	14 21.2	38 57.6	10 15.2	1 1.5	53 80.3
	40 歳代	84 100.0	9 10.7	74 88.1	- -	8 9.5	15 17.9	60 71.4	13 15.5	- -	69 82.1
	50 歳代	64 100.0	12 18.8	50 78.1	2 3.1	8 12.5	10 15.6	45 70.3	15 23.4	- -	48 75.0
	60 歳代	133 100.0	17 12.8	97 72.9	3 2.3	16 12.0	20 15.0	84 63.2	16 12.0	2 1.5	103 77.4
	70 歳以上	102 100.0	14 13.7	71 69.6	5 4.9	11 10.8	16 15.7	61 59.8	14 13.7	3 2.9	71 69.6

【表2 - 3 性・年代別】 家庭での分担（現実）

	全体 上段/実数 下段/%	育児			高齢者、病人の介護・看護			
		夫 婦・カ ップ ルで 同じ く	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 ）	夫 婦 ・ カ ップ ル で 同 じ く	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 ）	
全体	934	141	3	543	238	13	240	
	100.0	15.1	0.3	58.1	25.5	1.4	25.7	
女性	20歳代	24	4	7	1	-	1	
		100.0	16.7	-	29.2	4.2	4.2	
	30歳代	93	13	1	60	11	1	
		100.0	14.0	1.1	64.5	11.8	1.1	
	40歳代	83	14	-	56	17	1	
		100.0	16.9	-	67.5	20.5	1.2	
50歳代	82	14	-	58	22	2		
	100.0	17.1	-	70.7	26.8	2.4		
60歳代	100	18	-	51	32	-	30	
	100.0	18.0	-	51.0	32.0	-	30.0	
70歳以上	81	10	-	42	32	1	21	
	100.0	12.3	-	51.9	39.5	1.2	25.9	
男性	20歳代	7	2	3	1	-	-	
		100.0	28.6	-	42.9	14.3	-	
	30歳代	66	13	-	38	7	-	10
		100.0	19.7	-	57.6	10.6	-	15.2
	40歳代	84	15	1	56	11	1	20
		100.0	17.9	1.2	66.7	13.1	1.2	23.8
50歳代	64	11	-	37	18	2	15	
	100.0	17.2	-	57.8	28.1	3.1	23.4	
60歳代	133	17	1	77	44	2	31	
	100.0	12.8	0.8	57.9	33.1	1.5	23.3	
70歳以上	102	8	-	48	37	3	19	
	100.0	7.8	-	47.1	36.3	2.9	18.6	

【表2 - 4 市前回調査との比較】 家庭での分担（現実）

(%)

		女性				男性			
		全体 (実数)	夫 婦・カ ップ ルで 同 じ く ら い	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 男 性 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 性 ）	全体 (実数)	夫 婦 ・ カ ップ ル で 同 じ く ら い	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー （ 男 性 ）	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー （ 女 性 ）
生活費を得る	本調査	463	15.3	75.6	2.6	456	14.0	76.8	2.4
	前回調査(豊中市 平成17年)	383	12.8	74.4	3.7	327	12.8	75.8	3.1
家計の管理	本調査	463	14.0	12.3	68.9	456	12.1	16.9	64.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	383	15.4	9.1	67.4	327	11.0	13.1	67.9
日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)	本調査	463	12.5	1.5	81.0	456	14.9	1.3	77.0
食事のしたく	前回調査(豊中市 平成17年)	383	6.3	1.3	84.1	327	7.3	1.5	83.2
掃除	前回調査(豊中市 平成17年)	383	14.6	1.8	74.9	327	24.8	2.8	64.2
洗濯	前回調査(豊中市 平成17年)	383	7.0	1.0	82.8	327	8.9	3.7	78.9
育児	本調査	463	15.8	0.2	59.2	456	14.5	0.4	56.8
子どもの世話	前回調査(豊中市 平成17年)	383	19.3	0.5	57.7	327	21.7	1.2	52.3
高齢者、病人の介護・看護	本調査	463	24.8	1.1	30.5	456	25.9	1.8	20.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	383	23.8	0.8	35.5	327	25.7	1.2	35.8

本調査結果、市前回調査ともに「その他の人」「該当しない」は省略している

市前回調査（平成 17 年）と比較すると、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」が増加しているのは「生活費を得る」、「家計の管理」、「高齢者、病人の介護・看護」である。一方で男女ともに「主に妻・パートナー（女性）」が増加しているのは「日常の家事」、「育児」である。

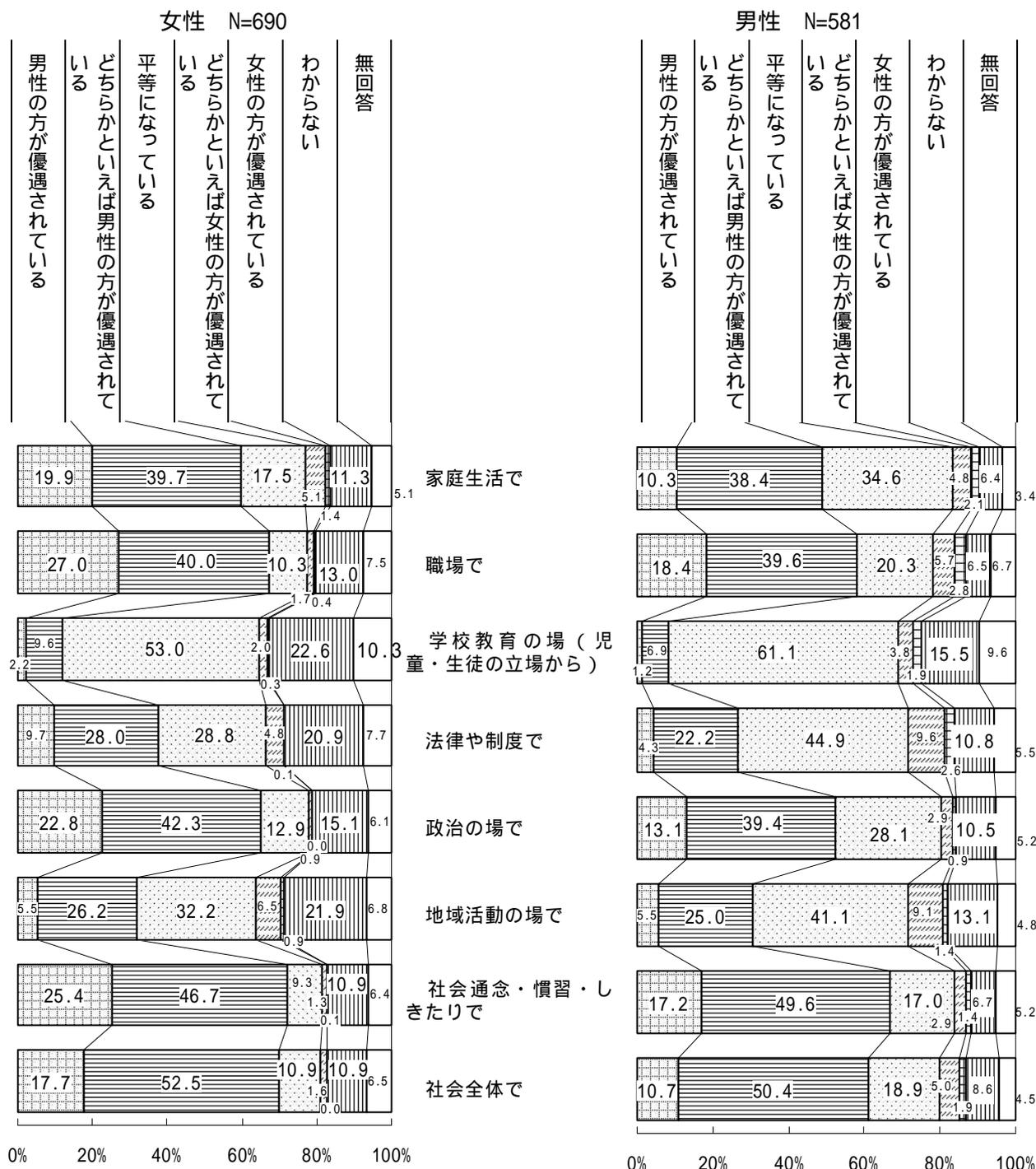
「育児」では、「主に妻・パートナー（女性）」が女性では 1.5 ポイント、男性では 4.5 ポイント高くなっているのと同時に、「夫婦・カップルで同じくらい」が女性では 3.5 ポイント、男性では 7.2 ポイント低くなっている。

「高齢者、病人の介護・看護」では、「主に妻・パートナー（女性）」が女性では 5.0 ポイント、男性では 15.0 ポイント低くなっている。

* 本調査の「日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」は、市前回調査の「食事のしたく」、「掃除」、「洗濯」の平均値と比較している。

問8 あなたは、一般的に、次の ~ の各分野で男女は平等になっていると思いますか。(は各項目にそれぞれに1つ)

【図2-3】各分野での男女平等感



【性別】

「平等になっている」の割合は、男女ともに「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」が最も高く、半数を超える(女性53.0%、男性61.1%)

全ての項目で「平等になっている」は、男性の方が女性よりも高い割合となっている。性別で差が大きいのは、「家庭生活で」(17.1ポイント)、「法律や制度で」(16.1ポイント)、「政治の場で」(15.2ポイント)、「職場で」(10.0ポイント)である。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』の割合は、男女ともに「社会通念・慣習・しきたりで」が最も高く、女性 72.1%、男性 66.8%である。

女性では、「職場で」(67.0%)、「政治の場で」(65.1%)、「家庭生活で」(59.6%)、「法律や制度で」(37.7%)、「地域活動の場で」(31.7%)、「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」(11.8%)と続く。

男性では、「職場で」(58.0%)、「政治の場で」(52.5%)、「家庭生活で」(48.7%)、「地域活動の場で」(30.5%)、「法律や制度で」(26.5%)、「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」(8.1%)と続く。

「社会全体で」は、女性は 70.2%、男性は 61.1%が『男性優遇』と回答している。

全ての項目で『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっている。性別で差が大きいのは、「政治の場で」(12.6ポイント)、「法律や制度で」(11.2ポイント)、「家庭生活で」(10.9ポイント)、「職場で」(9.0ポイント)である。

【性・年代別】

家庭生活で

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 31.6%で最も高く、その他の年代では 20%にも満たない。男性では 30 歳代が 49.4%で最も高く、20 歳代、40 歳代～60 歳代では 30%以上を占める。

職場で

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 21.1%で最も高く、60 歳代と 70 歳以上は 10%にも満たない。男性では 20 歳代～60 歳代では 20%前後を占め、特に 50 歳代が 28.4%と最も高い。学校教育の場(児童・生徒の立場から)

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 64.9%で最も高く、60 歳代と 70 歳以上は半数を下回っている。男性では 20 歳代～60 歳代で 60%以上を占め、50 歳代では最も高く 66.7%である。

法律や制度で

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 36.8%で最も高く、男性では 20 歳代が 28.6%で最も低い。

政治の場で

「平等になっている」の割合は、女性では 70 歳以上が 19.5%で最も高く、30 歳代～40 歳代では 10%にも満たない。男性では 60 歳代が 32.1%で最も高い。

地域活動の場で

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 49.1%で最も高く、男性では 30 歳代が 52.9%で最も高い。

社会通念・慣習・しきたりで

「平等になっている」の割合は、女性では 70 歳以上が 15.1%で最も高く、30 歳代～50 歳代では 10%にも満たない。男性では、年代による差はあまりみられない。

社会全体で

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 22.8%で最も高く、30 歳代～60 歳代では 10%にも満たない。男性では 70 歳以上が 25.4%で最も高い。

【表2-5 性・年代別】 各分野での男女平等感

	全体	家庭生活で				職場で				学校教育の場（児童・生徒の立場から）				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	704 54.5	328 25.4	87 6.7	116 9.0	811 62.8	192 14.9	65 5.1	129 10.0	132 10.2	730 56.5	49 3.8	249 19.3
女性	20歳代	57 100.0	27 47.3	18 31.6	4 7.1	8 14.0	40 70.2	12 21.1	2 3.5	2 3.5	6 10.5	37 64.9	1 1.8	12 21.1
	30歳代	117 100.0	65 55.6	22 18.8	10 8.5	15 12.8	91 77.8	12 10.3	4 3.4	7 6.0	19 16.3	60 51.3	5 4.3	27 23.1
	40歳代	117 100.0	65 55.6	19 16.2	9 7.7	24 20.5	74 63.3	17 14.5	4 3.4	21 17.9	8 6.9	71 60.7	3 2.6	33 28.2
	50歳代	96 100.0	67 69.8	13 13.5	4 4.1	8 8.3	71 74.0	10 10.4	2 2.1	10 10.4	12 12.5	59 61.5	2 2.1	19 19.8
	60歳代	144 100.0	98 68.0	18 12.5	7 4.9	12 8.3	96 66.7	6 4.2	2 1.4	26 18.1	18 12.5	65 45.1	4 2.8	37 25.7
	70歳以上	159 100.0	89 56.0	31 19.5	11 6.9	11 6.9	90 56.6	14 8.8	1 0.6	24 15.1	18 11.3	74 46.5	1 0.6	28 17.6
男性	20歳代	35 100.0	14 40.0	13 37.1	5 14.3	3 8.6	16 45.7	8 22.9	6 17.1	4 11.4	1 2.9	21 60.0	6 17.2	5 14.3
	30歳代	87 100.0	27 31.0	43 49.4	5 5.7	9 10.3	56 64.3	17 19.5	7 8.0	6 6.9	3 3.4	57 65.5	9 10.3	17 19.5
	40歳代	104 100.0	49 47.1	38 36.5	6 5.7	9 8.7	60 57.7	22 21.2	17 16.4	3 2.9	9 8.7	64 61.5	6 5.7	18 17.3
	50歳代	81 100.0	36 44.4	25 30.9	9 11.1	6 7.4	41 50.6	23 28.4	6 7.4	4 4.9	5 6.1	54 66.7	2 2.4	13 16.0
	60歳代	156 100.0	84 53.8	52 33.3	11 7.0	6 3.8	99 63.5	33 21.2	12 7.7	8 5.1	21 13.4	100 64.1	8 5.1	15 9.6
	70歳以上	118 100.0	73 61.9	30 25.4	4 3.3	4 3.4	65 55.0	15 12.7	1 0.8	13 11.0	8 6.8	59 50.0	2 1.6	22 18.6

	全体	法律や制度で				政治の場で				地域活動の場で				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	423 32.8	468 36.3	105 8.1	208 16.1	763 59.1	257 19.9	28 2.2	168 13.0	404 31.3	468 36.3	112 8.7	229 17.7
女性	20歳代	57 100.0	15 26.3	21 36.8	7 12.3	13 22.8	35 61.5	10 17.5	- -	11 19.3	9 15.8	28 49.1	4 7.0	15 26.3
	30歳代	117 100.0	50 42.8	26 22.2	7 6.0	30 25.6	79 67.5	9 7.7	1 0.9	24 20.5	33 28.2	42 35.9	7 6.0	31 26.5
	40歳代	117 100.0	50 42.7	28 23.9	9 7.7	29 24.8	84 71.8	10 8.5	2 1.7	20 17.1	32 27.3	30 25.6	15 12.8	39 33.3
	50歳代	96 100.0	39 40.6	34 35.4	3 3.1	18 18.8	77 80.3	10 10.4	- -	8 8.3	35 36.5	30 31.3	3 3.1	26 27.1
	60歳代	144 100.0	59 40.9	38 26.4	7 4.9	26 18.1	91 63.2	19 13.2	2 1.4	22 15.3	57 39.6	42 29.2	13 9.0	21 14.6
	70歳以上	159 100.0	47 29.5	52 32.7	1 0.6	28 17.6	83 52.2	31 19.5	1 0.6	19 11.9	53 33.3	50 31.4	9 5.6	19 11.9
男性	20歳代	35 100.0	9 25.7	10 28.6	10 28.6	5 14.3	17 48.5	10 28.6	- -	7 20.0	8 22.9	17 48.6	4 11.4	5 14.3
	30歳代	87 100.0	23 26.4	35 40.2	16 18.4	12 13.8	50 57.5	19 21.8	6 6.8	11 12.6	12 13.8	46 52.9	8 9.1	20 23.0
	40歳代	104 100.0	31 29.8	42 40.4	18 17.3	12 11.5	59 56.7	28 26.9	4 3.8	12 11.5	38 36.5	36 34.6	10 9.6	19 18.3
	50歳代	81 100.0	24 29.7	37 45.7	9 11.1	7 8.6	50 61.7	19 23.5	1 1.2	6 7.4	25 30.9	36 44.4	8 9.8	8 9.9
	60歳代	156 100.0	49 31.4	79 50.6	12 7.7	10 6.4	86 55.1	50 32.1	6 3.8	11 7.1	64 41.0	56 35.9	23 14.7	9 5.8
	70歳以上	118 100.0	18 15.2	58 49.2	6 5.1	17 14.4	43 36.5	37 31.4	5 4.2	14 11.9	30 25.4	48 40.7	8 6.7	15 12.7

【表2-5 性・年代別】 各分野での男女平等感

	全体	社会通念・慣習・しきたりで				社会全体で				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	897 69.5	166 12.9	35 2.7	116 9.0	851 65.9	189 14.6	51 4.0	127 9.8
女性	20歳代	57 100.0	36 63.1	8 14.0	1 1.8	11 19.3	34 59.7	13 22.8	2 3.5	7 12.3
	30歳代	117 100.0	92 78.7	6 5.1	- -	15 12.8	87 74.3	10 8.5	- -	16 13.7
	40歳代	117 100.0	94 80.3	8 6.8	4 3.4	10 8.5	88 75.3	10 8.5	6 5.1	13 11.1
	50歳代	96 100.0	80 83.3	3 3.1	- -	12 12.5	77 80.2	5 5.2	1 1.0	11 11.5
	60歳代	144 100.0	104 72.2	15 10.4	2 1.4	13 9.0	102 70.9	13 9.0	2 1.4	15 10.4
	70歳以上	159 100.0	91 57.3	24 15.1	3 1.9	14 8.8	96 60.3	24 15.1	- -	13 8.2
男性	20歳代	35 100.0	21 60.0	7 20.0	1 2.9	4 11.4	18 51.5	7 20.0	5 14.3	4 11.4
	30歳代	87 100.0	57 65.5	16 18.4	2 2.3	10 11.5	49 56.3	19 21.8	7 8.0	11 12.6
	40歳代	104 100.0	68 65.4	16 15.4	9 8.6	9 8.7	68 65.4	14 13.5	10 9.6	11 10.6
	50歳代	81 100.0	58 71.6	13 16.0	3 3.7	3 3.7	54 66.7	12 14.8	5 6.1	6 7.4
	60歳代	156 100.0	116 74.4	24 15.4	9 5.7	3 1.9	108 69.3	28 17.9	9 5.7	9 5.8
	70歳以上	118 100.0	68 57.6	23 19.5	1 0.8	10 8.5	58 49.1	30 25.4	4 3.3	9 7.6

【表2-6 市前回調査との比較】 各分野での男女平等感 (%)

	女性 (本調査 N=690・前回調査 N=685)						男性 (本調査 N=581・前回調査 N=492)					
	『男性優遇』		平等である		『女性優遇』		『男性優遇』		平等である		『女性優遇』	
	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22
家庭生活で	64.2	59.6	16.2	17.5	9.1	6.5	53.9	48.7	27.6	34.6	10.1	6.9
職場で	73.1	67.0	8.8	10.3	3.8	2.1	63.5	58.0	20.5	20.3	9.3	8.5
学校教育の場(児童・生徒の立場から)	11.8	11.8	47.0	53.0	6.1	2.3	10.5	8.1	57.1	61.1	8.3	5.7
法律や制度で	46.9	37.7	20.0	28.8	6.7	4.9	33.6	26.5	39.6	44.9	11.9	12.2
政治の場で	71.1	65.1	10.8	12.9	0.9	0.9	60.2	52.5	25.8	28.1	3.4	3.8
地域活動の場で	39.9	31.7	26.4	32.2	7.9	7.4	27.9	30.5	42.9	41.1	14.2	10.5
社会通念・慣習・しきたりで	80.7	72.1	7.2	9.3	1.7	1.4	74.8	66.8	13.2	17.0	3.8	4.3
社会全体で	77.3	70.2	8.3	10.9	2.6	1.6	65.9	61.1	18.5	18.9	7.9	6.9

右段：本調査結果 左段：市前回調査(豊中市 平成17年)
本調査結果、市前回調査ともに「わからない」は省略している

市前回調査(平成17年)と比較すると、女性では全ての項目において「平等である」が高くなっており、中でも「学校教育の場」(6.0ポイント)、「法律や制度で」(8.8ポイント)、「地域活動で」(5.8ポイント)で差が大きい。男性では、「平等である」が高くなっていて差が大きいのは、「家庭生活で」(7.0ポイント)である。

<参考>

【表2-7 大阪府調査】 各分野での男女平等感 (%)

	女性 (平成16年調査 N=238、平成21年調査 N=382)						男性 (平成16年調査 N=228、平成21年調査 N=298)					
	『男性優遇』		平等である		『女性優遇』		『男性優遇』		平等である		『女性優遇』	
	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21
家庭生活で	60.6	62.0	25.1	26.7	7.6	5.3	50.3	32.6	34.6	49.0	9.9	10.8
職場の中で	70.0	62.1	11.8	21.5	4.1	4.5	57.4	44.0	22.4	35.6	7.7	10.1
学校教育の場で	18.0	16.0	52.5	51.6	4.6	4.4	17.0	9.4	51.6	51.7	6.8	8.7
法律や制度の上で	53.2	50.0	23.9	27.2	4.9	7.8	35.3	25.5	40.7	45.0	12.5	10.8
政治の場で	79.1	77.7	9.1	9.2	0.7	1.3	70.8	50.0	17.3	26.8	1.6	3.4
地域活動の場で	43.4	40.1	31.0	30.4	5.1	7.9	34.9	21.8	42.9	40.9	9.3	11.7
社会通念・慣習・しきたりなどで	84.5	82.2	6.7	7.3	1.2	2.9	80.5	69.8	10.3	11.7	3.2	4.3
全体として	76.4	73.6	11.6	15.4	2.2	2.9	68.6	54.6	22.4	24.8	3.8	8.0

男女共同参画に関する府民意識調査(平成16年(2004年))

男女共同参画に関する府民意識調査(平成21年(2009年))

【表2-8 世論調査】 各分野での男女平等感 (%)

	女性 (平成16年調査 N=1,886、平成21年調査 N=1,730)						男性 (平成16年調査 N=1,616、平成21年調査 N=1,510)					
	『男性優遇』		平等である		『女性優遇』		『男性優遇』		平等である		『女性優遇』	
	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21	H16	H21
家庭生活	56.6	54.5	33.9	36.0	7.0	7.6	40.8	37.5	46.9	51.3	9.5	9.3
職場	62.8	65.2	20.6	20.4	2.9	3.4	55.5	58.6	30.2	29.0	5.8	7.6
学校教育の場	15.9	16.6	64.1	66.1	3.0	4.0	11.1	10.9	70.0	70.3	4.2	5.6
法律や制度の上	53.3	48.4	30.9	37.5	3.6	5.6	37.6	33.4	49.2	52.5	6.7	9.3
政治の場	77.0	77.1	14.2	16.1	0.9	1.7	66.0	65.8	26.1	26.6	1.8	2.6
自治会やNPOなどの地域活動の場		41.4		45.3		5.5		27.0		57.5		8.7
社会通念・慣習・しきたりなど	78.7	75.6	13.0	17.5	2.9	2.9	70.0	67.7	22.2	24.2	3.7	4.9
社会全体	79.7	77.6	14.9	18.0	2.9	2.4	67.1	64.6	26.1	29.2	5.0	5.0

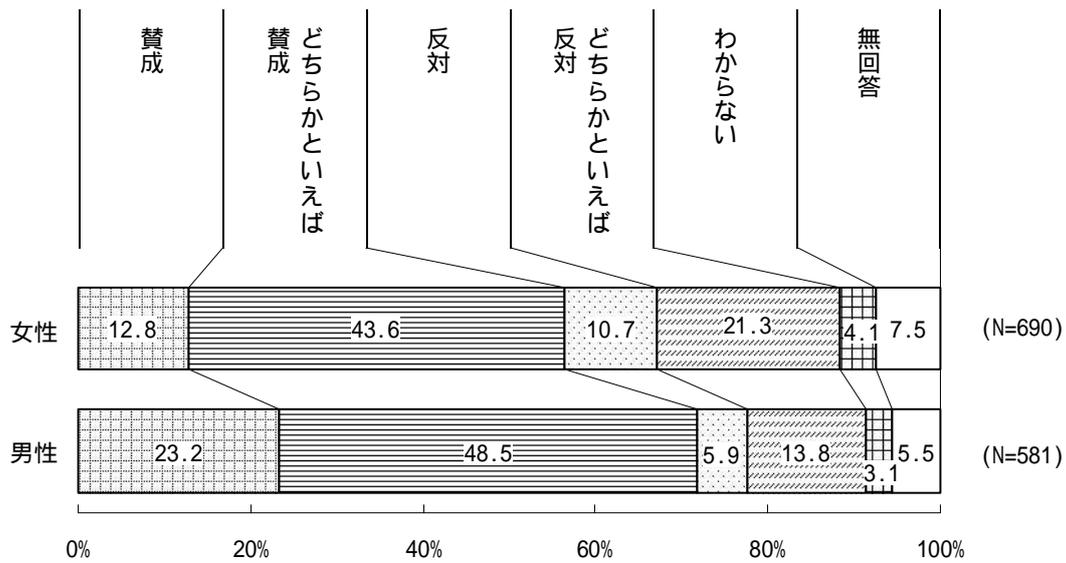
男女共同参画社会に関する世論調査(平成16年(2004年))

男女共同参画社会に関する世論調査(平成21年(2009年))

平成16年調査は「自治会やNPOなどの地域活動の場における男女の地位の平等感」の設問はなし

問9 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。
(は1つ)

【図2 - 4】性別役割分担意識について



【性別】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成派』の割合は、女性では56.4%、男性では71.7%を占める。

「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した『反対派』の割合は、女性では32.0%、男性では19.7%を占める。

【性・年代別】

女性では、『反対派』が20歳代で50.9%と最も高く、30歳代と50歳代では40%以上を占める。

男性では、『反対派』が20歳代で34.3%と最も高く、20歳代～40歳代では30%以上を占める。

『反対派』は、全ての年代で女性の方が男性よりも高い割合となっている。特に性別による差が大きいのは50歳代で、30.8ポイントである(女性46.9%、男性16.1%)。

【表 2 - 9 性・年代別】 性別役割分担意識について

		全体	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対	反対 どちらか といえ ば	わからない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	226 17.5	593 45.9	108 8.4	231 17.9	46 3.6	87 6.7
女性	20 歳代	57 100.0	5 8.8	18 31.6	9 15.8	20 35.1	1 1.8	4 7.0
	30 歳代	117 100.0	9 7.7	42 35.9	17 14.5	37 31.6	9 7.7	3 2.6
	40 歳代	117 100.0	6 5.1	57 48.7	15 12.8	31 26.5	5 4.3	3 2.6
	50 歳代	96 100.0	10 10.4	36 37.5	16 16.7	29 30.2	3 3.1	2 2.1
	60 歳代	144 100.0	24 16.7	71 49.3	11 7.6	18 12.5	6 4.2	14 9.7
	70 歳以上	159 100.0	34 21.4	77 48.4	6 3.8	12 7.5	4 2.5	26 16.4
男性	20 歳代	35 100.0	2 5.7	18 51.4	4 11.4	8 22.9	3 8.6	- -
	30 歳代	87 100.0	17 19.5	37 42.5	10 11.5	18 20.7	4 4.6	1 1.1
	40 歳代	104 100.0	15 14.4	49 47.1	9 8.7	23 22.1	6 5.8	2 1.9
	50 歳代	81 100.0	14 17.3	49 60.5	2 2.5	11 13.6	- -	5 6.2
	60 歳代	156 100.0	47 30.1	75 48.1	6 3.8	16 10.3	3 1.9	9 5.8
	70 歳以上	118 100.0	40 33.9	54 45.8	3 2.5	4 3.4	2 1.7	15 12.7

【表 2 - 10 市前回調査 / 大阪府調査 / 世論調査との比較】 性別役割分担意識について
(%)

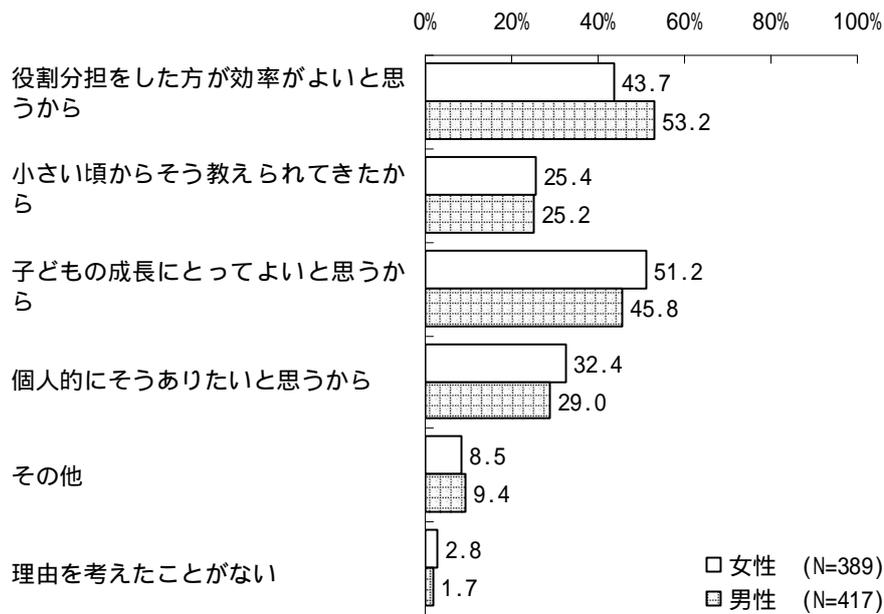
	女性					男性				
	全体 (実数)	賛成	どちらか といえ ば 賛成	反対	どちらか といえ ば 反対	全体 (実数)	賛成	どちらか といえ ば 賛成	反対	どちらか といえ ば 反対
本調査	690	12.8	43.6	10.7	21.3	581	23.2	48.5	5.9	13.8
前回調査(豊中市 平成 17 年)	685	7.6	20.4	29.8	12.1	492	15.9	32.5	18.5	10.6
男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	382	4.2	42.7	32.5	20.4	298	7.0	49.7	27.9	14.4
男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	1,730	9.5	27.8	26.6	32.0	1510	11.9	34.0	20.7	30.4

「わからない」は省略している

市前回調査(平成 17 年)・大阪府調査(平成 21 年)・世論調査(平成 21 年)と比較すると、男女ともに「賛成」について市前回調査・大阪府調査・世論調査を上回る。

問9 - 1 その理由は、以下のどれに近いですか。(はいいくつでも)

【図2 - 5】性別役割分担意識について賛成の理由



【性別】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成派』の理由は、女性では「子どもの成長にとってよいと思うから」が51.2%と最も高く、ついで、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」(43.7%)、「個人的にそうありたいと思うから」(32.4%)、「小さい頃からそう教えられてきたから」(25.4%)と続く。男性では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が53.2%と最も高く、ついで「子どもの成長にとってよいと思うから」(45.8%)、「個人的にそうありたいと思うから」(29.0%)、「小さい頃からそう教えられてきたから」(25.2%)と続く。

性別による差が大きいのは、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」で男性の方が9.5ポイント高く、「子どもの成長にとってよいと思うから」で女性の方が5.4ポイント高い。

【性・年代別】

女性では、60歳代で「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が年代間で最も高く52.6%である。20歳代と70歳以上では「小さい頃からそう教えられてきたから」がそれぞれ39.1%、34.2%と他の年代より高くなっている。

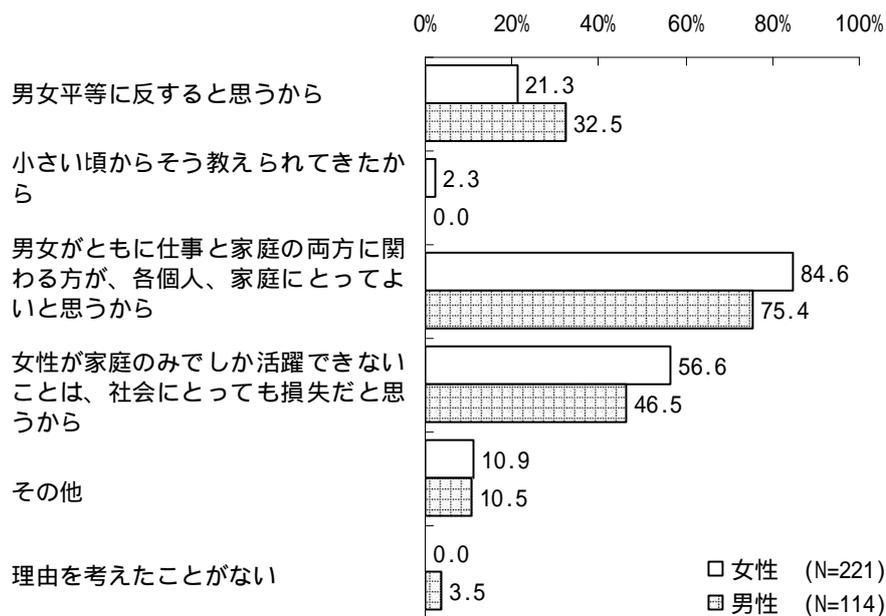
男性では、20歳代で「個人的にそうありたいと思うから」が年代間で最も高く40.0%である。40歳代と50歳代では「子どもの成長にとってよいと思うから」がそれぞれ50.0%、52.4%と他の年代より高くなっている。

【表2 - 11 性・年代別】 性別役割分担意識について賛成の理由

		全体	役割分担をした方が効率がよいと思うから	小さい頃からそう教えられてきたから	子どもの成長にとってよいと思うから	個人的にそうありたいと思うから	その他	理由を考えたことがない
全体	上段/実数 下段/%	819 100.0	396 48.4	209 25.5	394 48.1	250 30.5	73 8.9	18 2.2
女性	20歳代	23 100.0	10 43.5	9 39.1	12 52.2	7 30.4	3 13.0	- -
	30歳代	51 100.0	20 39.2	9 17.6	26 51.0	21 41.2	12 23.5	- -
	40歳代	63 100.0	21 33.3	7 11.1	29 46.0	21 33.3	7 11.1	4 6.3
	50歳代	46 100.0	18 39.1	11 23.9	19 41.3	18 39.1	2 4.3	1 2.2
	60歳代	95 100.0	50 52.6	25 26.3	54 56.8	25 26.3	5 5.3	2 2.1
	70歳以上	111 100.0	51 45.9	38 34.2	59 53.2	34 30.6	4 3.6	4 3.6
	男性	20歳代	20 100.0	10 50.0	3 15.0	8 40.0	8 40.0	3 15.0
30歳代		54 100.0	29 53.7	8 14.8	23 42.6	18 33.3	6 11.1	2 3.7
40歳代		64 100.0	34 53.1	10 15.6	32 50.0	17 26.6	10 15.6	1 1.6
50歳代		63 100.0	34 54.0	12 19.0	33 52.4	15 23.8	9 14.3	2 3.2
60歳代		122 100.0	65 53.3	34 27.9	55 45.1	40 32.8	3 2.5	2 1.6
70歳以上		94 100.0	50 53.2	38 40.4	40 42.6	23 24.5	8 8.5	- -

問9 - 2 その理由は、以下のどれに近いですか。(はいいくつでも)

【図2 - 6】性別役割分担意識について反対の理由



【性別】

「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した『反対派』の理由は、男女ともに「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が最も高く、女性 84.6%、男性 75.4%である。

性別による差が大きいのは、「男女平等に反すると思うから」で男性の方が 11.2 ポイント高い。「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」、「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」は女性の方が高く、それぞれ 10.1 ポイント、9.2 ポイント高い。

【性・年代別】

女性では、50歳代と60歳代で「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が他の年代に比べて高く、それぞれ64.4%、79.3%である。

男性では、20歳代と30歳代で「男女平等に反すると思うから」が他の年代に比べて高く、それぞれ41.7%、42.9%である。50歳代では、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が他の年代より高い。

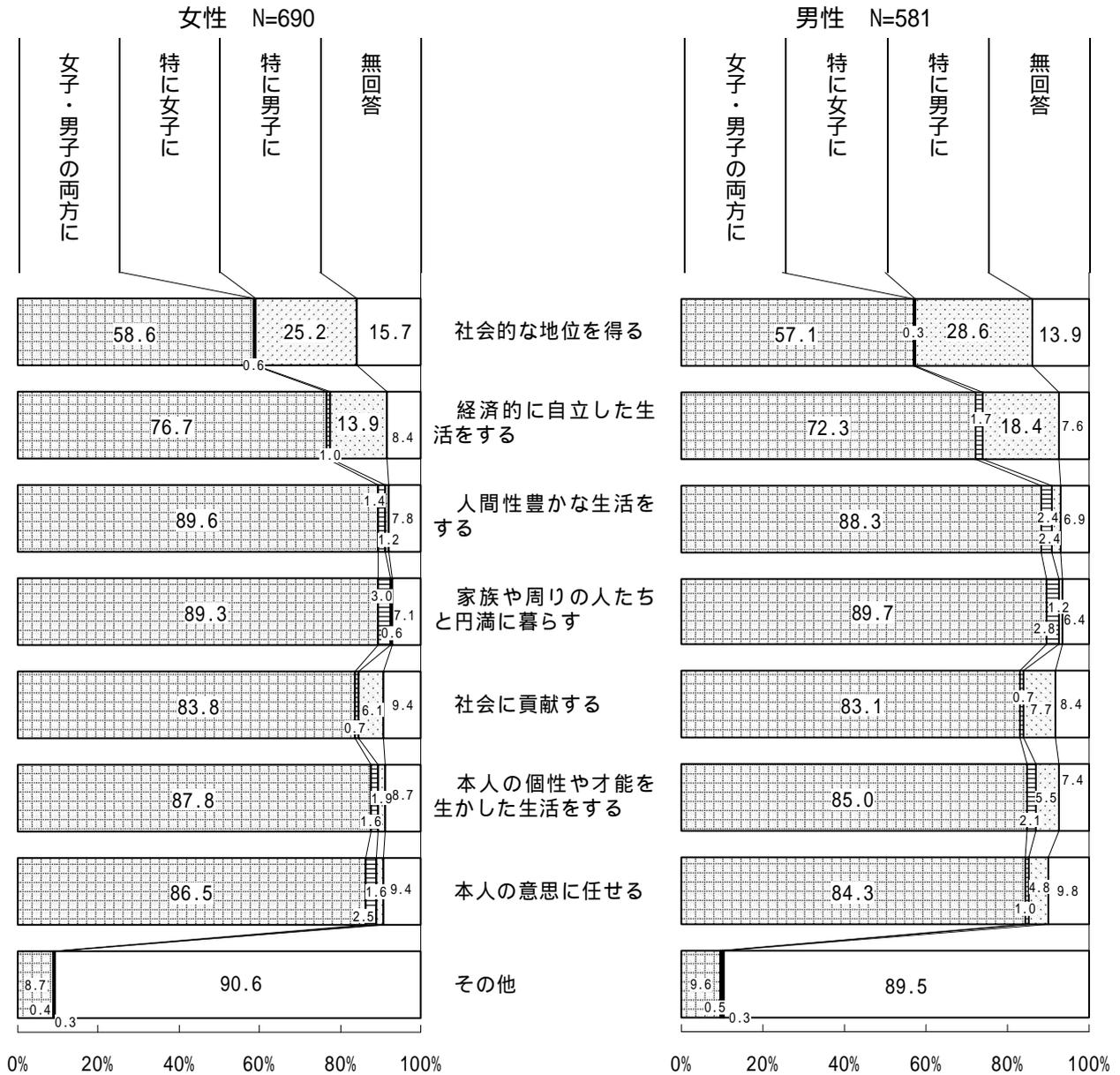
【表2-12 性・年代別】 性別役割分担意識について反対の理由

		全体	男女平等に反すると思うから	小さい頃から	男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから	女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから	その他	理由を考えたことがない
全体 上段/実数 下段/%		339 100.0	85 25.1	5 1.5	277 81.7	181 53.4	36 10.6	4 1.2
女性	20歳代	29 100.0	6 20.7	2 6.9	26 89.7	14 48.3	2 6.9	- -
	30歳代	54 100.0	13 24.1	1 1.9	48 88.9	30 55.6	6 11.1	- -
	40歳代	46 100.0	9 19.6	-	38 82.6	22 47.8	6 13.0	- -
	50歳代	45 100.0	12 26.7	2 4.4	35 77.8	29 64.4	5 11.1	- -
	60歳代	29 100.0	4 13.8	-	26 89.7	23 79.3	3 10.3	- -
	70歳以上	18 100.0	3 16.7	-	14 77.8	7 38.9	2 11.1	- -
男性	20歳代	12 100.0	5 41.7	-	9 75.0	5 41.7	3 25.0	1 8.3
	30歳代	28 100.0	12 42.9	-	22 78.6	10 35.7	4 14.3	- -
	40歳代	32 100.0	8 25.0	-	25 78.1	11 34.4	3 9.4	1 3.1
	50歳代	13 100.0	3 23.1	-	11 84.6	11 84.6	1 7.7	1 7.7
	60歳代	22 100.0	8 36.4	-	16 72.7	12 54.5	1 4.5	- -
	70歳以上	7 100.0	1 14.3	-	3 42.9	4 57.1	-	1 14.3

3. 子どもの教育について

問 10 自分に子ども（未成年）がいると仮定したら、あなたは、将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（は各項目にそれぞれ1つ）

【図3 - 1】子どもに望む生き方



【性別】

子どもにしてほしい将来の生き方において、「人間性豊かな生活をする」、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」、「社会に貢献する」、「本人の個性や才能を生かした生活をする」、「本人の意思に任せる」の項目で、男女ともに「女子・男子の両方に」の割合が80%を超えている。「社会的な地位を得る」（女性25.2%、男性28.6%）、「経済的に自立した生活をする」（女性13.9%、男性18.4%）では、「特に男子に」の割合が比較的高い。

【性・年代別】

社会的な地位を得る

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、男女とも 20 歳代～60 歳代で 50%を超え、特に女性では 20 歳代(73.7%)、男性では 50 歳代(71.6%)が最も高い。

経済的に自立した生活をする

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、女性では 20 歳代～50 歳代、男性では 20 歳代～40 歳代で 80%を超え、特に男女とも 20 歳代が最も高い(女性 93.0%、男性 85.7%)。

人間性豊かな生活をする

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、男女とも 20 歳代～60 歳代で 90%を超え、特に男女とも 20 歳代が最も高い(女性 100.0%、男性 94.3%)。

家族や周りの人たちと円満に暮らす

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、女性では 20 歳代～50 歳代、男性では 20 歳代～60 歳代で 90%を超え、特に女性では 30 歳代(96.6%)、男性では 20 歳代(100.0%)が最も高い。

社会に貢献する

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、男女とも 20 歳代～60 歳代で 80%を超え、特に女性では 40 歳代(92.3%)、男性では 20 歳代(91.4%)が最も高い。

本人の個性や才能を生かした生活をする

「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、男女とも 20 歳代～60 歳代で 80%を超え、特に男女とも 20 歳代が最も高い(女性 96.5%、男性 94.3%)。

本人の意思に任せる

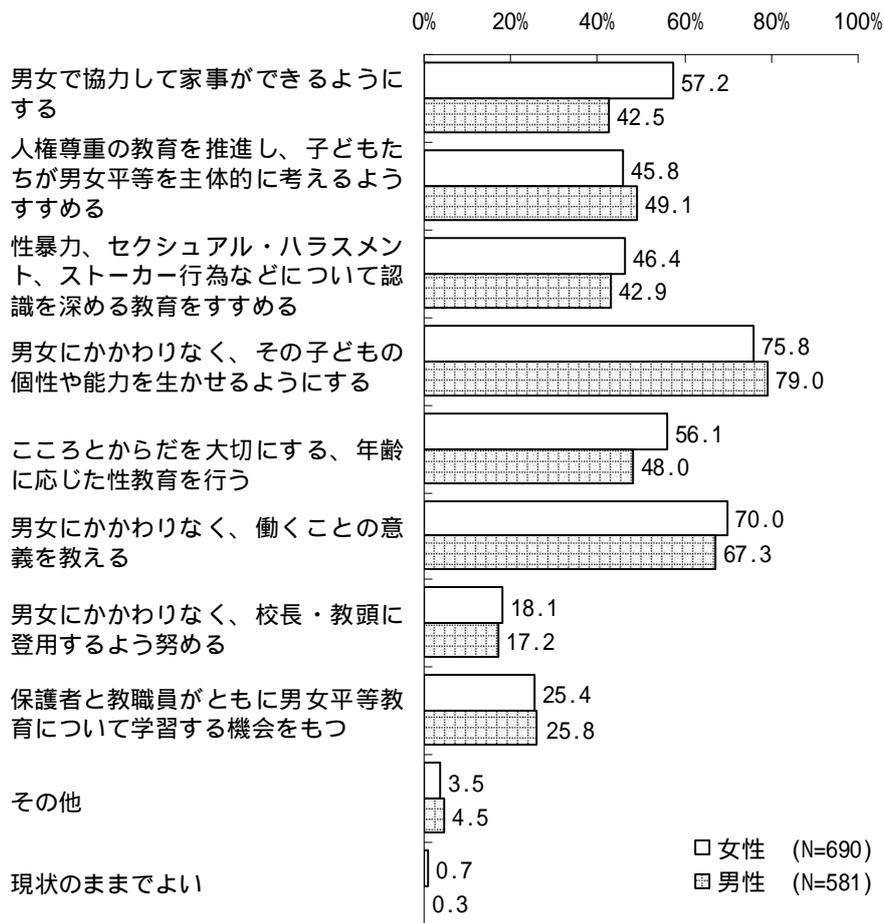
「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方として、女性では 20 歳代～50 歳代、男性では 20 歳代～30 歳代で 90%を超え、特に女性では 50 歳代(95.8%)、男性では 20 歳代(97.1%)が最も高い。

【表3 - 1 性・年代別】 「女子・男子の両方に」してほしい将来の生き方の回答者の割合

		全体	社会的な地位を得る	経済的に自立した生活を する	人間性豊かな生活を する	家族や周りの人たちと 円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生 かした生活をする	本人の意思に任せる
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	745 57.7	961 74.4	1147 88.8	1151 89.2	1073 83.1	1113 86.2	1101 85.3
女性	20歳代	57 100.0	42 73.7	53 93.0	57 100.0	54 94.7	48 84.2	55 96.5	54 94.7
	30歳代	117 100.0	79 67.5	98 83.8	112 95.7	113 96.6	107 91.5	109 93.2	108 92.3
	40歳代	117 100.0	80 68.4	94 80.3	113 96.6	111 94.9	108 92.3	112 95.7	107 91.5
	50歳代	96 100.0	52 54.2	83 86.5	90 93.8	89 92.7	86 89.6	92 95.8	92 95.8
	60歳代	144 100.0	79 54.9	108 75.0	130 90.3	128 88.9	120 83.3	125 86.8	122 84.7
	70歳以上	159 100.0	72 45.3	93 58.5	116 73.0	121 76.1	109 68.6	113 71.1	114 71.7
	男性	20歳代	35 100.0	23 65.7	30 85.7	33 94.3	35 100.0	32 91.4	33 94.3
30歳代		87 100.0	56 64.4	70 80.5	81 93.1	81 93.1	75 86.2	77 88.5	80 92.0
40歳代		104 100.0	63 60.6	85 81.7	97 93.3	95 91.3	92 88.5	94 90.4	91 87.5
50歳代		81 100.0	58 71.6	62 76.5	73 90.1	74 91.4	70 86.4	73 90.1	70 86.4
60歳代		156 100.0	85 54.5	108 69.2	141 90.4	148 94.9	133 85.3	137 87.8	133 85.3
70歳以上		118 100.0	47 39.8	65 55.1	88 74.6	88 74.6	81 68.6	80 67.8	82 69.5

問 1 1 あなたが学校、特に小・中学校で進めてほしい男女平等の取り組みは、どれですか。
(はいくつでも)

【図 3 - 2】進めてほしい男女平等の取り組み



【性別】

男女ともに「男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」が最も高い(女性 75.8%、男性 79.0%)。女性では、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(70.0%)、「男女で協力して家事ができるようにする」(57.2%)と続く。男性では、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(67.3%)、「人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる」(49.1%)と続く。

性別による差があるのは、「男女で協力して家事ができるようにする」、「こころとからだを大切にする、年齢に応じた性教育を行う」で、女性の方がそれぞれ 14.7 ポイント、8.1 ポイント高い。そのほかの項目については、大差がない。

【性・年代別】

男女ともに 70 歳以上で「人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる」が高い。女性では、20 歳代で「こころとからだを大切にする、年齢に応じた性教育を行う」、50 歳代で「性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる」が他の年代に比べて高い。男性では、20 歳代で「保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ」、70 歳以上で「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」が他の年代に比べて高い。

【表3-2 性・年代別】 進めてほしい男女平等の取り組み

	全体	男女で協力して家事ができるようにする	人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる	性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる	男女にかかわらず、その子どもの個性や能力を生かせるようにする	年齢に応じた性教育を行う	男女にかかわらず、働くことの意義を教える	男女にかかわらず、校長・教頭に登用するよう努める	保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ	その他	現状のままでよい	
全体 上段/実数 下段/%	1291 100.0	650 50.3	611 47.3	574 44.5	996 77.1	676 52.4	889 68.9	226 17.5	329 25.5	50 3.9	7 0.5	
女性	20歳代	57 100.0	35 61.4	25 43.9	29 50.9	45 78.9	38 66.7	42 73.7	8 14.0	14 24.6	1 1.8	1 1.8
	30歳代	117 100.0	66 56.4	43 36.8	53 45.3	89 76.1	69 59.0	87 74.4	22 18.8	17 14.5	4 3.4	2 1.7
	40歳代	117 100.0	69 59.0	41 35.0	55 47.0	91 77.8	65 55.6	77 65.8	25 21.4	25 21.4	4 3.4	- -
	50歳代	96 100.0	57 59.4	48 50.0	57 59.4	77 80.2	51 53.1	65 67.7	21 21.9	21 21.9	6 6.3	- -
	60歳代	144 100.0	88 61.1	70 48.6	67 46.5	116 80.6	85 59.0	105 72.9	27 18.8	39 27.1	4 2.8	1 0.7
	70歳以上	159 100.0	80 50.3	89 56.0	59 37.1	105 66.0	79 49.7	107 67.3	22 13.8	59 37.1	5 3.1	1 0.6
男性	20歳代	35 100.0	16 45.7	14 40.0	14 40.0	29 82.9	18 51.4	22 62.9	6 17.1	13 37.1	- -	1 2.9
	30歳代	87 100.0	39 44.8	32 36.8	41 47.1	68 78.2	39 44.8	48 55.2	11 12.6	19 21.8	5 5.7	1 1.1
	40歳代	104 100.0	46 44.2	45 43.3	42 40.4	89 85.6	53 51.0	66 63.5	14 13.5	18 17.3	6 5.8	- -
	50歳代	81 100.0	28 34.6	39 48.1	40 49.4	54 66.7	30 37.0	48 59.3	11 13.6	21 25.9	6 7.4	- -
	60歳代	156 100.0	65 41.7	86 55.1	64 41.0	129 82.7	73 46.8	113 72.4	35 22.4	43 27.6	4 2.6	- -
	70歳以上	118 100.0	53 44.9	69 58.5	48 40.7	90 76.3	66 55.9	94 79.7	23 19.5	36 30.5	5 4.2	- -

【表3-3 市前回調査との比較】 進めてほしい男女平等の取り組み (%)

		全体	女性	男性
全体(実数)	本調査	1291	690	581
	前回調査(豊中市 平成17年)	1195	685	492
男女で協力して家事ができるようにする	本調査	50.3	57.2	42.5
	前回調査(豊中市 平成17年)	61.3	68.2	51.0
人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる	本調査	47.3	45.8	49.1
	前回調査(豊中市 平成17年)	52.6	51.2	54.3
性暴力、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる	本調査	44.5	46.4	42.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	47.6	48.5	46.7
男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする	本調査	77.1	75.8	79.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	78.9	79.3	78.5
こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う	本調査	52.4	56.1	48.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	56.7	61.2	50.6
男女にかかわりなく、働くことの意義を教える	本調査	68.9	70.0	67.3
	前回調査(豊中市 平成17年)	64.5	66.3	61.6
男女にかかわりなく、校長・教頭に登用するよう努める	本調査	17.5	18.1	17.2
	前回調査(豊中市 平成17年)	20.9	19.9	22.2
保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ	本調査	25.5	25.4	25.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	33.1	31.1	35.4
現状のままでよい	本調査	0.5	0.7	0.3
	前回調査(豊中市 平成17年)	0.7	0.7	0.6

本調査結果、市前回調査ともに「その他」は省略している

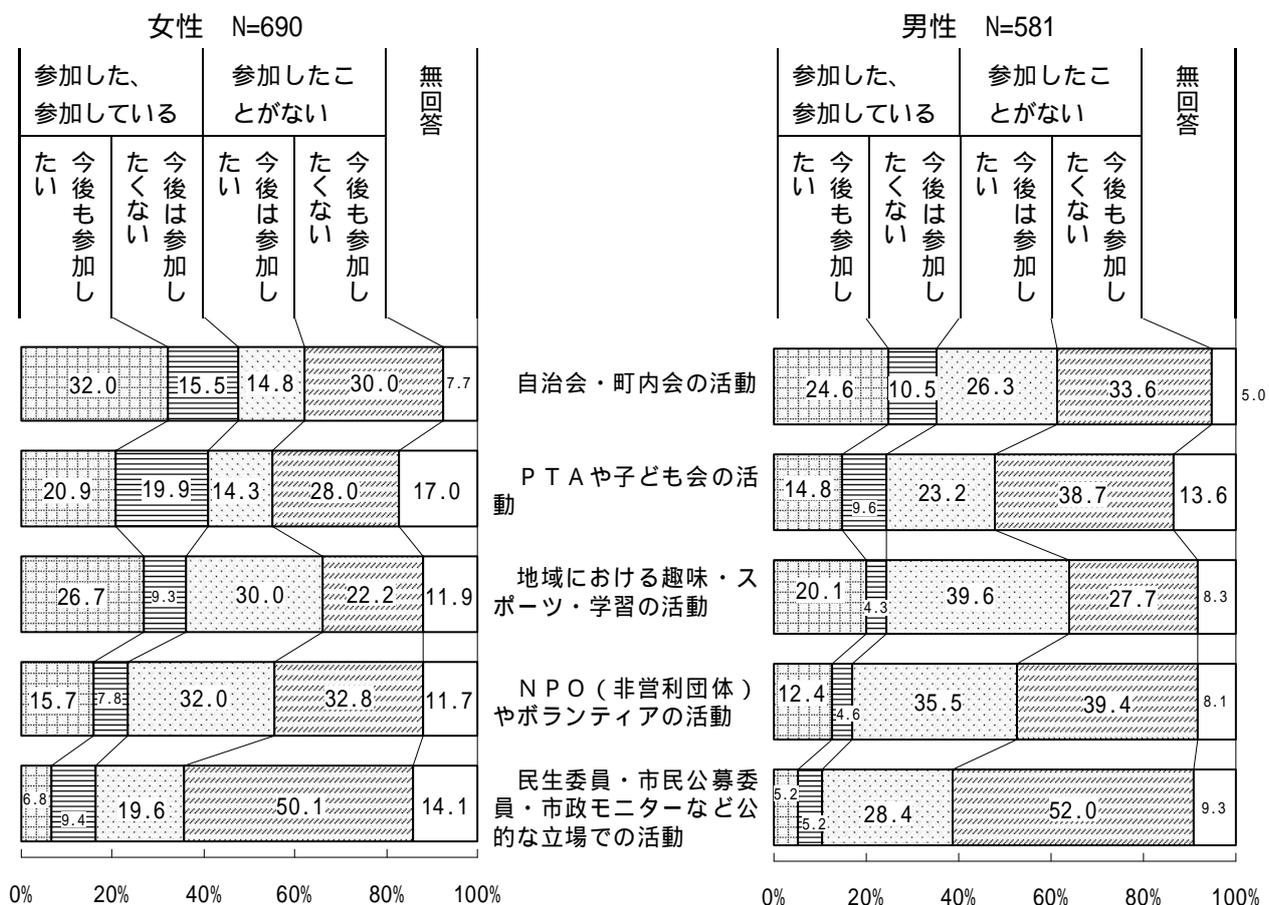
市前回調査(平成17年)と比較すると、男女ともに高くなったのは「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」のみである。

男女ともに特に低くなったものは、「男女で協力して家事ができるようにする」(女性11.0ポイント、男性8.5ポイント)、「保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ」(女性5.7ポイント、男性9.6ポイント)である。

4. 地域活動について

問 1 2 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものにつけてください。
(は各項目にそれぞれ1つ)

【図 4 - 1】地域活動の参加状況



【性別】

「参加した、参加している」地域活動において、男女ともに「自治会・町内会の活動」が最も高い(女性 47.5%、男性 35.1%)。

女性では、「P T A や子ども会の活動」(40.8%)、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(36.0%)、「N P O (非営利団体) やボランティアの活動」(23.5%)、「民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動」(16.2%)と続く。

男性では、「P T A や子ども会の活動」(24.4%)、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(24.4%)、「N P O (非営利団体) やボランティアの活動」(17.0%)、「民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動」(10.4%)と続く。

「参加したことがない、今後も参加したくない」地域活動において、男女ともに「民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動」が最も高く過半数を占める(女性 50.1%、男性 52.0%)。

「参加したことがない、今後は参加したい」地域活動において、女性では、「N P O (非営利団体) やボランティアの活動」が最も高く(32.0%)、ついで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」(30.0%)である。男性では、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く(39.6%)、ついで「N P O (非営利団体) やボランティアの活動」(35.5%)である。

【性・年代別】

自治会・町内会の活動

女性では、20歳代～40歳代では、「今後も参加したくない」の割合が最も高く、50歳代～70歳以上では「今後も参加したい」の割合が最も高くなっている。

男性では、30歳代と40歳代で他の年齢層に比べて「今後は参加したい」の割合が高く、60歳代と70歳以上で「今後も参加したい」の割合が高い。

P T A や子ども会の活動

女性では、20歳代と30歳代で「今後は参加したい」の割合が最も高く、50歳代と60歳代で「今後は参加したくない」の割合が最も高い。70歳以上では「今後も参加したくない」が最も高い。

男性では、30歳代で「今後は参加したい」の割合が最も高く過半数を占め、その他の年代では「今後も参加したくない」が最も高い。

地域における趣味・スポーツ・学習の活動

女性では、50歳代～70歳以上で「今後も参加したい」の割合が最も高く、その他の年代では「今後は参加したい」が最も高い。

男性では、70歳以上で「今後も参加したくない」の割合が最も高く、その他の年代では「今後は参加したい」が最も高い。

N P O（非営利団体）やボランティアの活動

女性では、20歳代と40歳代～50歳代で「今後は参加したい」の割合が最も高く、60歳以上では「今後も参加したくない」が最も高い。30歳代では「今後は参加したい」と「今後も参加したくない」が43.6%と同率である。

男性では、60歳代で「今後は参加したい」の割合が最も高く、その他の年代では「今後も参加したくない」が最も高い。

民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動

男女とも全ての年代で、「今後も参加したくない」が最も高い。特に男女とも20歳代～50歳代では過半数を占める。

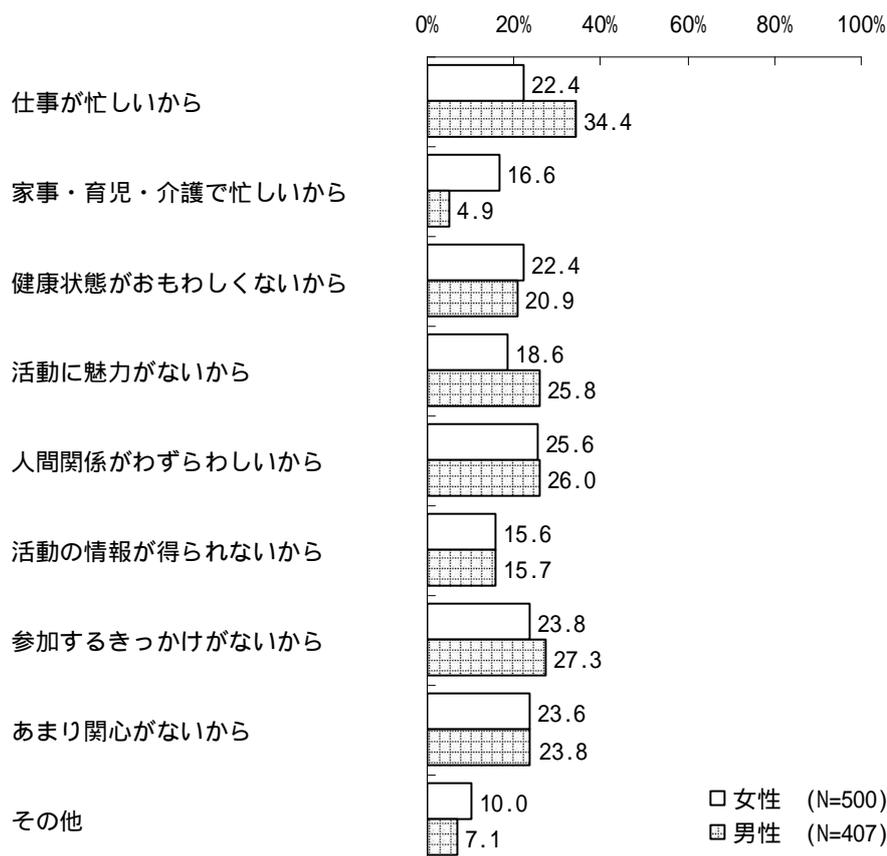
【表4-1 性・年代別】 地域活動の参加状況

	全体	自治会・町内会の活動				PTAや子ども会の活動				地域における趣味・スポーツ・学習の活動				
		したい 今後も参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後も参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後も参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後も参加 したくない	
全体	1291	370	172	259	406	232	195	236	426	307	89	444	319	
上段/実数	100.0	28.7	13.3	20.1	31.4	18.0	15.1	18.3	33.0	23.8	6.9	34.4	24.7	
下段/%														
女性	20歳代	57	6	3	17	30	7	4	27	18	5	3	30	18
		100.0	10.5	5.3	29.8	52.6	12.3	7.0	47.4	31.6	8.8	5.3	52.6	31.6
	30歳代	117	27	6	31	48	29	5	43	35	22	-	60	28
		100.0	23.1	5.1	26.5	41.0	24.8	4.3	36.8	29.9	18.8	-	51.3	23.9
	40歳代	117	36	19	15	43	40	24	6	41	31	9	37	34
		100.0	30.8	16.2	12.8	36.8	34.2	20.5	5.1	35.0	26.5	7.7	31.6	29.1
	50歳代	96	37	23	13	18	26	35	5	19	28	16	25	17
	100.0	38.5	24.0	13.5	18.8	27.1	36.5	5.2	19.8	29.2	16.7	26.0	17.7	
60歳代	144	62	28	12	31	23	41	12	32	54	18	32	22	
	100.0	43.1	19.4	8.3	21.5	16.0	28.5	8.3	22.2	37.5	12.5	22.2	15.3	
70歳以上	159	53	28	14	37	19	28	6	48	44	18	23	34	
	100.0	33.3	17.6	8.8	23.3	11.9	17.6	3.8	30.2	27.7	11.3	14.5	21.4	
男性	20歳代	35	7	1	8	18	3	1	12	18	6	1	19	9
		100.0	20.0	2.9	22.9	51.4	8.6	2.9	34.3	51.4	17.1	2.9	54.3	25.7
	30歳代	87	7	3	36	40	6	1	44	33	3	-	58	24
		100.0	8.0	3.4	41.4	46.0	6.9	1.1	50.6	37.9	3.4	-	66.7	27.6
	40歳代	104	21	7	39	35	24	7	31	38	18	3	48	33
		100.0	20.2	6.7	37.5	33.7	23.1	6.7	29.8	36.5	17.3	2.9	46.2	31.7
	50歳代	81	22	11	14	30	12	12	12	36	22	1	28	26
	100.0	27.2	13.6	17.3	37.0	14.8	14.8	14.8	44.4	27.2	1.2	34.6	32.1	
60歳代	156	46	20	40	39	27	21	25	56	44	10	52	37	
	100.0	29.5	12.8	25.6	25.0	17.3	13.5	16.0	35.9	28.2	6.4	33.3	23.7	
70歳以上	118	40	19	16	33	14	14	11	44	24	10	25	32	
	100.0	33.9	16.1	13.6	28.0	11.9	11.9	9.3	37.3	20.3	8.5	21.2	27.1	

	全体	NPO（非営利団体）やボランティアの活動				民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動				
		したい 今後も参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後も参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後は参加 したくない	したい 今後も参加 したくない	
全体	1291	183	81	433	462	79	96	305	657	
上段/実数	100.0	14.2	6.3	33.5	35.8	6.1	7.4	23.6	50.9	
下段/%										
女性	20歳代	57	10	2	29	15	4	1	17	34
		100.0	17.5	3.5	50.9	26.3	7.0	1.8	29.8	59.6
	30歳代	117	7	3	51	51	3	1	27	81
		100.0	6.0	2.6	43.6	43.6	2.6	0.9	23.1	69.2
	40歳代	117	19	8	46	38	7	9	35	59
		100.0	16.2	6.8	39.3	32.5	6.0	7.7	29.9	50.4
	50歳代	96	18	9	37	27	9	11	19	49
	100.0	18.8	9.4	38.5	28.1	9.4	11.5	19.8	51.0	
60歳代	144	29	10	38	50	15	17	22	65	
	100.0	20.1	6.9	26.4	34.7	10.4	11.8	15.3	45.1	
70歳以上	159	25	22	20	45	9	26	15	58	
	100.0	15.7	13.8	12.6	28.3	5.7	16.4	9.4	36.5	
男性	20歳代	35	4	2	14	15	1	-	12	22
		100.0	11.4	5.7	40.0	42.9	2.9	-	34.3	62.9
	30歳代	87	4	-	38	44	1	-	27	56
		100.0	4.6	-	43.7	50.6	1.1	-	31.0	64.4
	40歳代	104	10	-	44	47	6	1	38	56
		100.0	9.6	-	42.3	45.2	5.8	1.0	36.5	53.8
	50歳代	81	14	6	25	32	4	7	20	45
	100.0	17.3	7.4	30.9	39.5	4.9	8.6	24.7	55.6	
60歳代	156	25	9	55	51	13	11	43	71	
	100.0	16.0	5.8	35.3	32.7	8.3	7.1	27.6	45.5	
70歳以上	118	15	10	30	40	5	11	25	52	
	100.0	12.7	8.5	25.4	33.9	4.2	9.3	21.2	44.1	

問 12 - 1 「今後は(も)は参加したくない」と答えられた方について。それはどのような理由からですか。(は各項目にそれぞれ1つ)

【図 4 - 2】地域活動に参加したくない理由



【性別】

「今後は(も)活動したくない」理由として、女性では、「人間関係がわずらわしいから」が25.6%と最も高く、ついで「参加するきっかけがないから」(23.8%)、「あまり関心がないから」(23.6%)と続く。

男性では、「仕事が忙しいから」が34.4%と最も高く、ついで「参加するきっかけがないから」(27.3%)、「人間関係がわずらわしいから」(26.0%)と続く。

性別による差が大きいのは、「仕事が忙しいから」で男性の方が12.0ポイント高く、「家事・育児・介護で忙しいから」で女性の方が11.7ポイント高い。

【性・年代別】

それぞれの年代で最も高い理由は、女性では、20歳代は「あまり関心がないから」(45.5%)、30歳代は「家事・育児・介護で忙しいから」(32.6%)、40歳代は「仕事が忙しいから」(36.3%)、50歳代は「参加するきっかけがないから」(28.8%)、60歳代は「人間関係がわずらわしいから」(35.4%)、70歳以上は「健康状態がおもわしくないから」(58.4%)である。

男性では、20歳代は「参加するきっかけがないから」(39.3%)、30歳代～50歳代は「仕事が忙しいから」(それぞれ50.7%、63.2%、45.3%)、60歳代は「人間関係がわずらわしいから」(31.0%)、70歳以上は「健康状態がおもわしくないから」(47.5%)である。

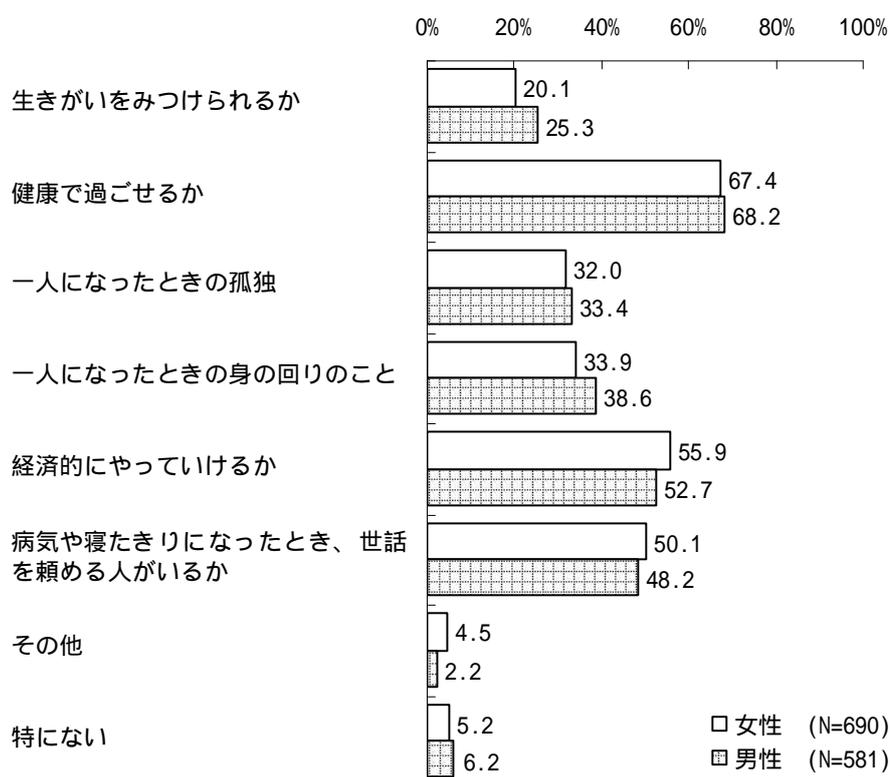
【表4-2 性・年代別】 地域活動に参加したくない理由

		全体	仕事が忙しいから	家事・育児・介護で忙しいから	健康状態がおもしろくないから	活動に魅力がないから	人間関係がわずらわしいから	活動の情報が得られないから	参加するきっかけがないから	あまり関心がないから	その他
全体 上段/実数		920	255	104	201	201	238	146	233	219	79
下段/%		100.0	27.7	11.3	21.8	21.8	25.9	15.9	25.3	23.8	8.6
女性	20歳代	44 100.0	13 29.5	3 6.8	4 9.1	16 36.4	12 27.3	12 27.3	14 31.8	20 45.5	1 2.3
	30歳代	92 100.0	24 26.1	30 32.6	7 7.6	17 18.5	18 19.6	13 14.1	19 20.7	27 29.3	8 8.7
	40歳代	91 100.0	33 36.3	25 27.5	7 7.7	19 20.9	27 29.7	19 20.9	23 25.3	18 19.8	11 12.1
	50歳代	73 100.0	19 26.0	11 15.1	13 17.8	16 21.9	20 27.4	13 17.8	21 28.8	18 24.7	4 5.5
	60歳代	99 100.0	16 16.2	7 7.1	22 22.2	13 13.1	35 35.4	16 16.2	26 26.3	18 18.2	8 8.1
	70歳以上	101 100.0	7 6.9	7 6.9	59 58.4	12 11.9	16 15.8	5 5.0	16 15.8	17 16.8	18 17.8
男性	20歳代	28 100.0	10 35.7	- -	3 10.7	8 28.6	7 25.0	6 21.4	11 39.3	8 28.6	3 10.7
	30歳代	67 100.0	34 50.7	7 10.4	3 4.5	17 25.4	15 22.4	16 23.9	24 35.8	17 25.4	2 3.0
	40歳代	68 100.0	43 63.2	4 5.9	1 1.5	18 26.5	14 20.6	9 13.2	18 26.5	24 35.3	4 5.9
	50歳代	64 100.0	29 45.3	1 1.6	13 20.3	14 21.9	14 21.9	10 15.6	20 31.3	13 20.3	5 7.8
	60歳代	100 100.0	20 20.0	4 4.0	27 27.0	30 30.0	31 31.0	14 14.0	25 25.0	26 26.0	6 6.0
	70歳以上	80 100.0	4 5.0	4 5.0	38 47.5	18 22.5	25 31.3	9 11.3	13 16.3	9 11.3	9 11.3

5 . 高齢期の生活について

問 13 あなたが高齢期の生活について、特に不安に思っていることはありますか。
(はいいくつでも)

【図 5 - 1】高齢期の生活の不安



【性別】

「高齢期の生活で不安に思っていること」について、男女ともに「健康で過ごせるか」が最も高い(女性 67.4%、男性 68.2%)。ついで「経済的にやっていけるか」、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」、「一人になったときの身の回りのこと」、「一人になったときの孤独」と続く。

男女による差はほとんどないものの、「生きがいを見つけられるか」、「一人になったときの身の回りのこと」で5ポイント前後男性の方が高い。

【性・年代別】

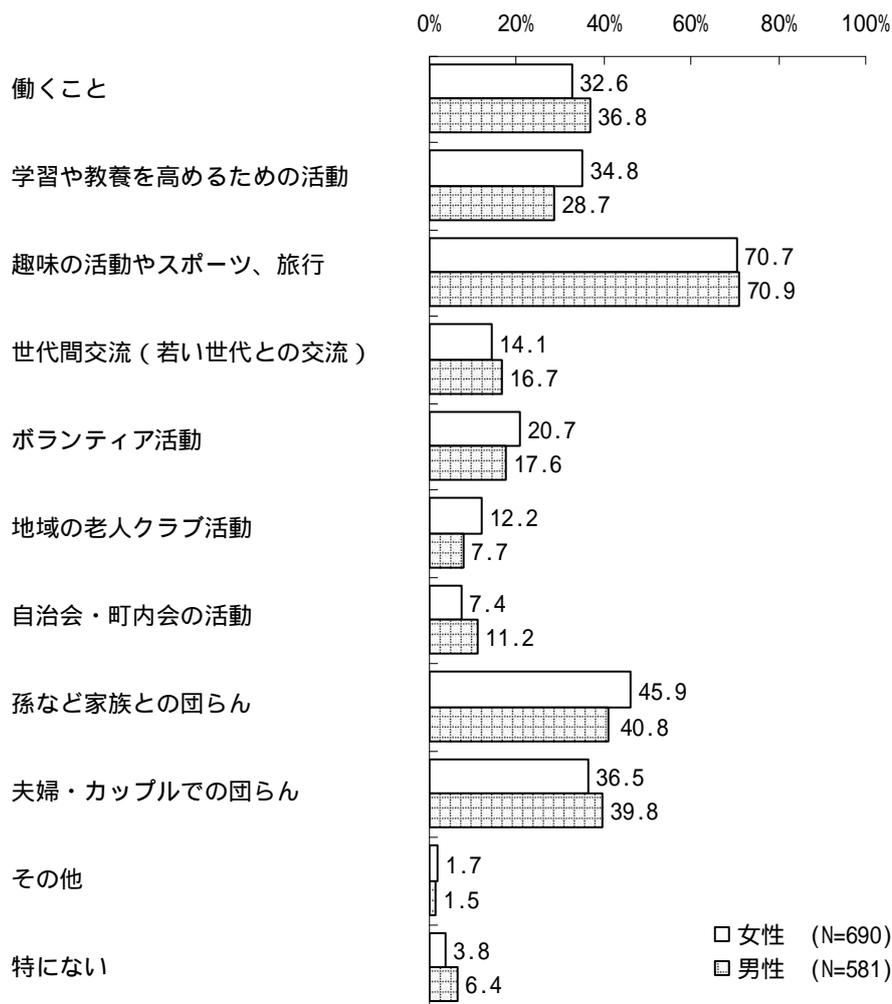
それぞれの年代で最も高いものは、女性では、20歳代～40歳代は「経済的にやっていけるか」、50歳代～70歳以上は「健康で過ごせるか」であり、それぞれ70%を超える。男性では、30歳代は「経済的にやっていけるか」、その他の年代では「健康で過ごせるか」である。

【表5 - 1 性・年代別】 高齢期の生活の不安

		全体	か 生きがいを みつけられ る	健康で過 こせるか	一人にな ったとき の孤独	一人にな ったとき の身の 回ること	経済的に やってい けるか	病気や寝 たきりにな ったとき、 世話を頼 める人がい るか	その他	特にな い
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	290 22.5	869 67.3	421 32.6	467 36.2	699 54.1	635 49.2	44 3.4	73 5.7
女性	20歳代	57 100.0	15 26.3	30 52.6	36 63.2	26 45.6	45 78.9	36 63.2	1 1.8	3 5.3
	30歳代	117 100.0	20 17.1	64 54.7	36 30.8	38 32.5	93 79.5	62 53.0	7 6.0	5 4.3
	40歳代	117 100.0	26 22.2	71 60.7	44 37.6	39 33.3	82 70.1	54 46.2	3 2.6	7 6.0
	50歳代	96 100.0	28 29.2	72 75.0	28 29.2	31 32.3	61 63.5	44 45.8	4 4.2	2 2.1
	60歳代	144 100.0	23 16.0	113 78.5	39 27.1	42 29.2	62 43.1	71 49.3	10 6.9	8 5.6
	70歳以上	159 100.0	27 17.0	115 72.3	38 23.9	58 36.5	43 27.0	79 49.7	6 3.8	11 6.9
男性	20歳代	35 100.0	13 37.1	17 48.6	6 17.1	8 22.9	15 42.9	15 42.9	3 8.6	6 17.1
	30歳代	87 100.0	22 25.3	48 55.2	36 41.4	25 28.7	64 73.6	31 35.6	2 2.3	5 5.7
	40歳代	104 100.0	29 27.9	69 66.3	36 34.6	36 34.6	66 63.5	49 47.1	3 2.9	2 1.9
	50歳代	81 100.0	24 29.6	57 70.4	15 18.5	23 28.4	46 56.8	34 42.0	- -	8 9.9
	60歳代	156 100.0	43 27.6	120 76.9	66 42.3	74 47.4	76 48.7	84 53.8	2 1.3	8 5.1
	70歳以上	118 100.0	16 13.6	85 72.0	35 29.7	58 49.2	39 33.1	67 56.8	3 2.5	7 5.9

問 1 4 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいことがありますか。(高齢者の方は、現在行っていることで生きがいを感じるものをつけてください。)(はいいくつでも)

【図 5 - 2】高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと



【性別】

「高齢期にやってみたいこと」については、男女による差はほとんどなく、男女ともに「趣味の活動やスポーツ、旅行」が最も高い(女性 70.7%、男性 70.9%)。ついで「孫など家族との団らん」、「夫婦・カップルでの団らん」が続く。

【性・年代別】

男女ともに、どの年代も、「趣味の活動やスポーツ、旅行」が最も高い。女性の 20 歳代と 30 歳代、男性の 30 歳代では「孫など家族との団らん」、「夫婦・カップルでの団らん」が他の年代より高く、過半数を占めている。

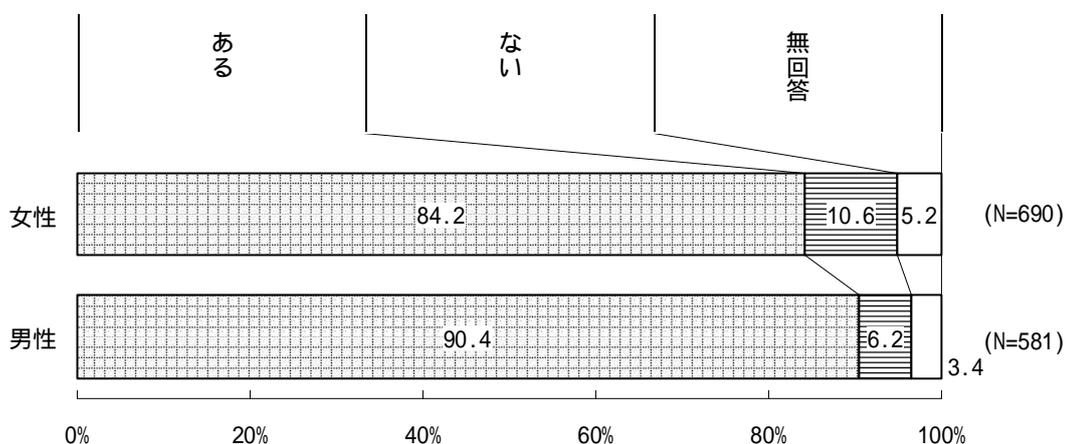
【表5-2 性・年代別】 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと

		全体	働くこと	学習や教養を高めるための活動	趣味の活動やスポーツ、旅行	世代間交流（若い世代との交流）	ボランティア活動	地域の老人クラブ活動	自治会・町内会の活動	孫など家族との団らん	夫婦・カップルでの団らん	その他	特になし
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	445 34.5	411 31.8	913 70.7	198 15.3	249 19.3	131 10.1	119 9.2	562 43.5	488 37.8	22 1.7	64 5.0
女性	20歳代	57 100.0	22 38.6	16 28.1	48 84.2	9 15.8	15 26.3	15 26.3	1 1.8	39 68.4	36 63.2	- -	- -
	30歳代	117 100.0	53 45.3	43 36.8	103 88.0	16 13.7	24 20.5	24 20.5	9 7.7	68 58.1	60 51.3	1 0.9	1 0.9
	40歳代	117 100.0	55 47.0	54 46.2	86 73.5	17 14.5	29 24.8	8 6.8	7 6.0	43 36.8	48 41.0	- -	2 1.7
	50歳代	96 100.0	37 38.5	44 45.8	68 70.8	17 17.7	20 20.8	3 3.1	3 3.1	38 39.6	30 31.3	2 2.1	- -
	60歳代	144 100.0	37 25.7	45 31.3	104 72.2	19 13.2	36 25.0	6 4.2	14 9.7	63 43.8	46 31.9	3 2.1	5 3.5
	70歳以上	159 100.0	21 13.2	38 23.9	79 49.7	19 11.9	19 11.9	28 17.6	17 10.7	66 41.5	32 20.1	6 3.8	18 11.3
男性	20歳代	35 100.0	13 37.1	14 40.0	30 85.7	13 37.1	6 17.1	4 11.4	3 8.6	17 48.6	16 45.7	1 2.9	- -
	30歳代	87 100.0	34 39.1	23 26.4	62 71.3	10 11.5	14 16.1	8 9.2	6 6.9	44 50.6	45 51.7	- -	3 3.4
	40歳代	104 100.0	45 43.3	35 33.7	78 75.0	24 23.1	27 26.0	10 9.6	13 12.5	43 41.3	50 48.1	1 1.0	4 3.8
	50歳代	81 100.0	40 49.4	29 35.8	64 79.0	13 16.0	15 18.5	3 3.7	6 7.4	22 27.2	40 49.4	1 1.2	3 3.7
	60歳代	156 100.0	60 38.5	40 25.6	116 74.4	24 15.4	31 19.9	11 7.1	23 14.7	62 39.7	52 33.3	1 0.6	11 7.1
	70歳以上	118 100.0	22 18.6	26 22.0	62 52.5	13 11.0	9 7.6	9 7.6	14 11.9	49 41.5	28 23.7	5 4.2	16 13.6

6. 仕事について

問 15 あなたは、これまでに雇用されて働いたこと（家族従業者も含む）がありますか。
（ は1つ）

【図 6 - 1】就労経験の有無



【性別】

雇用されて働いた経験は、「ある」が女性では84.2%、男性では90.4%となっており、男性の方がやや高い。

【性・年代別】

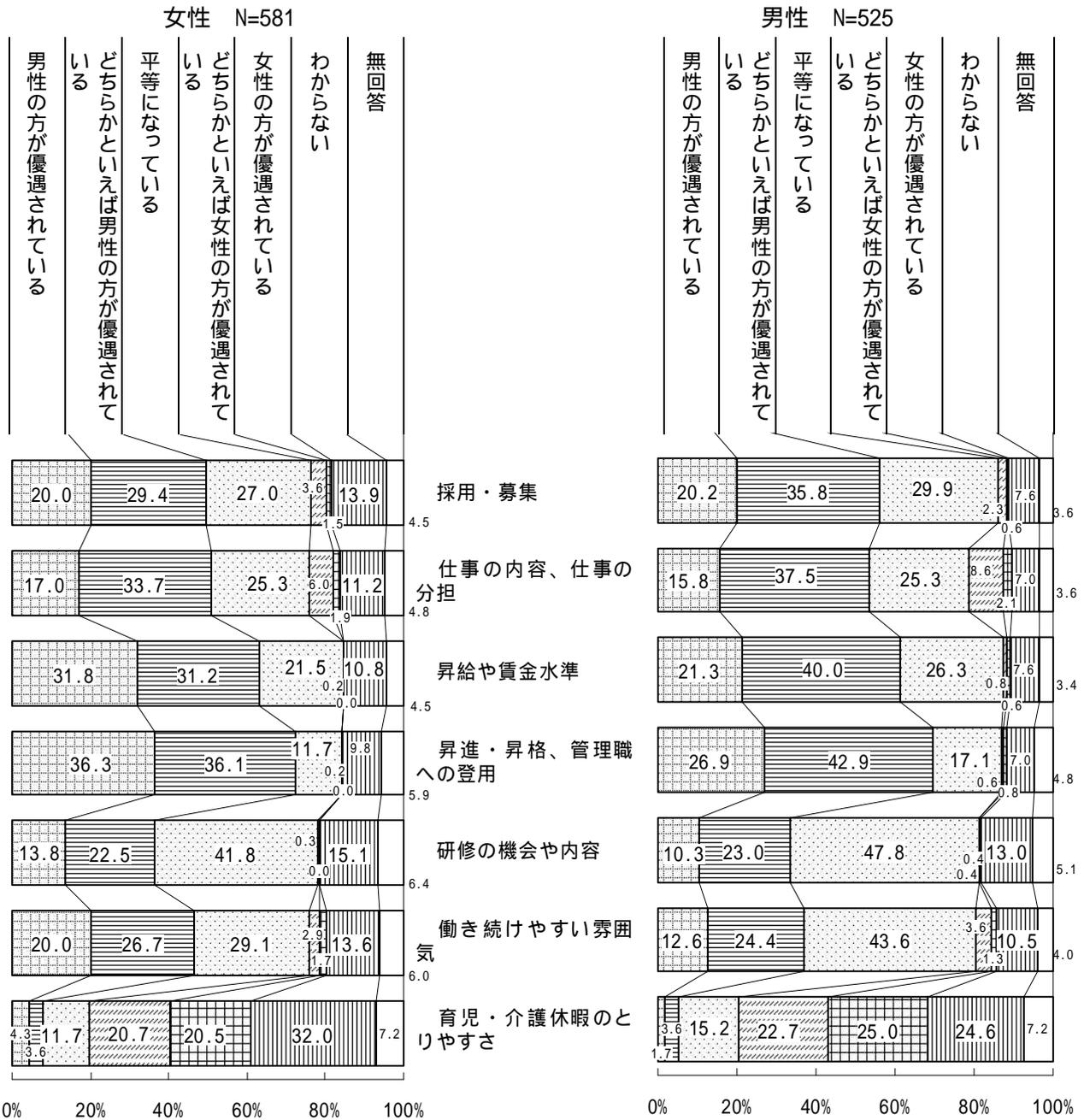
女性の70歳以上（23.3%）、男性の20歳代（31.4%）で、雇用されて働いた経験がない割合が高くなっている。

【表 6 - 1 性・年代別】 就労経験の有無

		全体	ある	ない	無回答
全体	上段/実数	1291	1122	112	57
	下段/%	100.0	86.9	8.7	4.4
女性	20歳代	57	49	8	-
		100.0	86.0	14.0	-
	30歳代	117	116	-	1
		100.0	99.1	-	0.9
	40歳代	117	112	4	1
		100.0	95.7	3.4	0.9
	50歳代	96	88	6	2
	100.0	91.7	6.3	2.1	
60歳代	144	121	18	5	
	100.0	84.0	12.5	3.5	
70歳以上	159	95	37	27	
	100.0	59.7	23.3	17.0	
男性	20歳代	35	24	11	-
		100.0	68.6	31.4	-
	30歳代	87	83	4	-
		100.0	95.4	4.6	-
	40歳代	104	102	2	-
		100.0	98.1	1.9	-
	50歳代	81	77	3	1
	100.0	95.1	3.7	1.2	
60歳代	156	142	8	6	
	100.0	91.0	5.1	3.8	
70歳以上	118	97	8	13	
	100.0	82.2	6.8	11.0	

問16 あなたは、雇用の場は次の～の項目について男女は平等になっていると思いますか。
 (は各項目にそれぞれに1つ)

【図6-2】雇用の場における男女平等感



【性別】

雇用されて働いた経験のある人に職場での男女平等についてたずねたところ、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、男女とも「昇進・昇格、管理職への登用」が最も高く、女性 72.4%、男性 69.8%である。ついで、女性では、「昇給や賃金水準」(63.0%)、「仕事の内容、仕事の分担」(50.7%)、「採用・募集」(49.4%)と続く。男性では、「昇給や賃金水準」(61.3%)、「採用・募集」(56.0%)、「仕事の内容、仕事の分担」(53.3%)と続く。

「採用・募集」、「仕事の内容、仕事の分担」以外の項目で、『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっており、「働き続けやすい雰囲気」では9.7ポイントの差がある。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合計した『女性優遇』は、男女とも「育児・介護休暇のとりやすさ」が最も高く、女性 41.2%、男性 47.7%である。ついで、女性では、「仕事の内容、仕事の分担」(7.9%)、「採用・募集」(5.1%)と続く。男性では、「仕事の内容、仕事の分担」(10.7%)、「働き続けやすい雰囲気」(4.9%)と続く。「平等になっている」の割合は、男女ともに「研修の機会や内容」が最も高く、女性 41.8%、男性 47.8%である。

【性・年代別】

採用・募集

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が最も高く 44.9%、30 歳代と 50 歳代～70 歳以上では 30%以下である。男性では 20 歳代と 50 歳代で 40%以上を占め、40 歳代と 60 歳代～70 歳以上では 30%以下である。

仕事の内容、仕事の分担

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が最も高く 42.9%、40 歳代～70 歳以上では 30%以下である。男性では 50 歳代が最も高く 35.1%、20 歳代は 33.3%、その他の年代では 30%以下である。

昇給や賃金水準

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が最も高く 49.0%、40 歳代と 60 歳代では 20%以下である。男性では 20 歳代が最も高く 41.7%、30 歳代～50 歳代では 30%台を占める。

昇進・昇格、管理職への登用

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が最も高く 24.5%、その他の年代では 20%以下である。男性では 20 歳代～50 歳代では 20%台を占める。

研修の機会や内容

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代と 30 歳代で半数以上を占め、男性では 20 歳代が最も高く 66.7%、20 歳代～40 歳代では 60%以上を占める。

働き続けやすい雰囲気

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 42.9%で最も高く、30 歳代と 60 歳代～70 歳以上では 30%以下である。男性では 20 歳代が 58.3%で最も高く過半数を占める。

育児・介護休暇のとりやすさ

「平等になっている」の割合は、女性では 20 歳代が 20.4%で最も高く、30 歳代～70 歳以上では 20%以下である。男性では 50 歳代が 23.4%で最も高い。

【表6-2 性・年代別】 雇用の場における男女平等感

	全体	採用・募集				仕事の内容、仕事の分担				昇給や賃金水準				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	1122	590	317	46	121	584	283	103	102	698	265	8	105	
上段/実数	100.0	52.6	28.3	4.1	10.8	52.1	25.2	9.2	9.1	62.2	23.6	0.7	9.4	
下段/%														
女性	20歳代	49	13	22	7	7	16	21	7	5	20	24	-	4
		100.0	26.6	44.9	14.3	14.3	32.7	42.9	14.3	10.2	40.8	49.0	-	8.2
	30歳代	116	62	30	7	15	59	36	11	8	87	24	-	3
		100.0	53.4	25.9	6.1	12.9	50.8	31.0	9.4	6.9	75.0	20.7	-	2.6
	40歳代	112	53	35	2	20	57	26	6	22	76	21	-	14
		100.0	47.4	31.3	1.8	17.9	50.9	23.2	5.4	19.6	67.8	18.8	-	12.5
	50歳代	88	51	22	3	11	56	18	5	8	57	20	-	11
	100.0	57.9	25.0	3.4	12.5	63.6	20.5	5.6	9.1	64.7	22.7	-	12.5	
60歳代	121	62	28	4	20	68	26	7	15	80	15	1	17	
	100.0	51.3	23.1	3.3	16.5	56.2	21.5	5.8	12.4	66.1	12.4	0.8	14.0	
70歳以上	95	46	20	7	8	39	20	10	7	46	21	-	14	
	100.0	48.4	21.1	7.4	8.4	41.0	21.1	10.6	7.4	48.4	22.1	-	14.7	
男性	20歳代	24	7	11	2	4	7	8	8	1	10	10	1	3
		100.0	29.2	45.8	8.4	16.7	29.2	33.3	33.4	4.2	41.7	41.7	4.2	12.5
	30歳代	83	44	26	5	5	47	17	15	3	41	32	4	5
		100.0	53.0	31.3	6.0	6.0	56.6	20.5	18.1	3.6	49.4	38.6	4.8	6.0
	40歳代	102	63	28	2	7	59	22	12	7	62	31	1	6
		100.0	61.8	27.5	2.0	6.9	57.8	21.6	11.8	6.9	60.8	30.4	1.0	5.9
	50歳代	77	38	32	1	6	34	27	8	8	44	24	1	8
	100.0	49.4	41.6	1.3	7.8	44.2	35.1	10.4	10.4	57.2	31.2	1.3	10.4	
60歳代	142	85	39	4	7	83	36	10	7	96	30	-	9	
	100.0	59.9	27.5	2.8	4.9	58.5	25.4	7.0	4.9	67.6	21.1	-	6.3	
70歳以上	97	57	21	1	11	50	23	3	11	69	11	-	9	
	100.0	58.7	21.6	1.0	11.3	51.5	23.7	3.1	11.3	71.2	11.3	-	9.3	

	全体	昇進・昇格、管理職への登用				研修の機会や内容				働き続けやすい雰囲気				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	1122	798	159	8	95	395	498	6	157	474	400	54	135	
上段/実数	100.0	71.1	14.2	0.8	8.5	35.2	44.4	0.6	14.0	42.3	35.7	4.8	12.0	
下段/%														
女性	20歳代	49	30	12	-	7	6	33	1	9	18	21	3	6
		100.0	61.2	24.5	-	14.3	12.3	67.3	2.0	18.4	36.7	42.9	6.1	12.2
	30歳代	116	92	18	-	4	38	65	-	11	69	30	4	10
		100.0	79.3	15.5	-	3.4	32.8	56.0	-	9.5	59.5	25.9	3.4	8.6
	40歳代	112	88	12	-	11	43	49	-	18	56	35	3	17
		100.0	78.6	10.7	-	9.8	38.4	43.8	-	16.1	50.0	31.3	2.7	15.2
	50歳代	88	68	10	-	10	37	34	-	15	46	27	3	11
	100.0	77.2	11.4	-	11.4	42.1	38.6	-	17.0	52.3	30.7	3.4	12.5	
60歳代	121	86	10	1	15	58	35	1	19	54	32	5	24	
	100.0	71.0	8.3	0.8	12.4	48.0	28.9	0.8	15.7	44.6	26.4	4.2	19.8	
70歳以上	95	57	6	-	10	29	27	-	16	28	24	9	11	
	100.0	60.0	6.3	-	10.5	30.5	28.4	-	16.8	29.5	25.3	9.5	11.6	
男性	20歳代	24	14	6	1	3	4	16	-	4	4	14	4	2
		100.0	58.3	25.0	4.2	12.5	16.7	66.7	-	16.7	16.7	58.3	16.7	8.3
	30歳代	83	54	22	3	2	17	51	3	10	28	40	7	7
		100.0	65.1	26.5	3.6	2.4	20.5	61.4	3.6	12.0	33.8	48.2	8.4	8.4
	40歳代	102	70	21	1	8	21	65	-	14	40	47	5	8
		100.0	68.6	20.6	1.0	7.8	20.5	63.7	-	13.7	39.2	46.1	4.9	7.8
	50歳代	77	49	18	1	8	31	34	-	11	32	32	4	8
	100.0	63.7	23.4	1.3	10.4	40.3	44.2	-	14.3	41.6	41.6	5.2	10.4	
60歳代	142	107	14	1	10	68	46	1	17	61	53	3	18	
	100.0	75.4	9.9	0.7	7.0	47.9	32.4	0.7	12.0	43.0	37.3	2.1	12.7	
70歳以上	97	72	9	-	6	34	39	-	12	29	43	3	12	
	100.0	74.2	9.3	-	6.2	35.0	40.2	-	12.4	29.9	44.3	3.1	12.4	

【表6-2 性・年代別】 雇用の場における男女平等感

		全体	育児・介護休暇のとりやすさ			
			『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない
全体	上段/実数 下段/%	1122 100.0	75 6.7	148 13.2	496 44.2	318 28.3
女性	20歳代	49 100.0	3 6.1	10 20.4	26 53.1	10 20.4
	30歳代	116 100.0	9 7.8	10 8.6	69 59.5	26 22.4
	40歳代	112 100.0	12 10.7	13 11.6	43 38.4	43 38.4
	50歳代	88 100.0	4 4.6	12 13.6	33 37.5	38 43.2
	60歳代	121 100.0	12 9.9	12 9.9	45 37.2	40 33.1
	70歳以上	95 100.0	6 6.3	11 11.6	23 24.2	29 30.5
	男性	20歳代	24 100.0	1 4.2	4 16.7	14 58.3
30歳代	83 100.0	4 4.8	11 13.3	54 65.1	11 13.3	
40歳代	102 100.0	4 4.0	17 16.7	56 54.9	23 22.5	
50歳代	77 100.0	2 2.6	18 23.4	39 50.7	18 23.4	
60歳代	142 100.0	11 7.7	21 14.8	52 36.6	44 31.0	
70歳以上	97 100.0	6 6.2	9 9.3	35 36.1	28 28.9	

【表6-3 市前回調査との比較】 雇用の場における男女平等感

(%)

		女性				男性			
		全体(実数)	『男性優遇』	平等になっている	『女性優遇』	全体(実数)	『男性優遇』	平等になっている	『女性優遇』
採用・募集	本調査	581	49.4	27.0	5.1	525	56.0	29.9	2.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	601	60.2	22.0	4.5	457	59.9	28.7	2.0
仕事の内容、仕事の負担	本調査	581	50.7	25.3	7.9	525	53.3	25.3	10.7
	前回調査(豊中市 平成17年)	601	61.1	19.5	7.8	457	57.7	23.6	11.9
昇給や賃金水準	本調査	581	63.0	21.5	0.2	525	61.3	26.3	1.4
	前回調査(豊中市 平成17年)	601	76.8	13.6	0.5	457	67.4	25.6	0.9
昇進・昇格、管理職への登用	本調査	581	72.4	11.7	0.2	525	69.8	17.1	1.4
	前回調査(豊中市 平成17年)	601	79.9	10.3	0.5	457	75.5	16.4	0.9
研修の機会や内容 教育訓練の機会	本調査	581	36.3	41.8	0.3	525	33.3	47.8	0.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	601	48.8	30.6	1.7	457	41.5	44.0	1.5

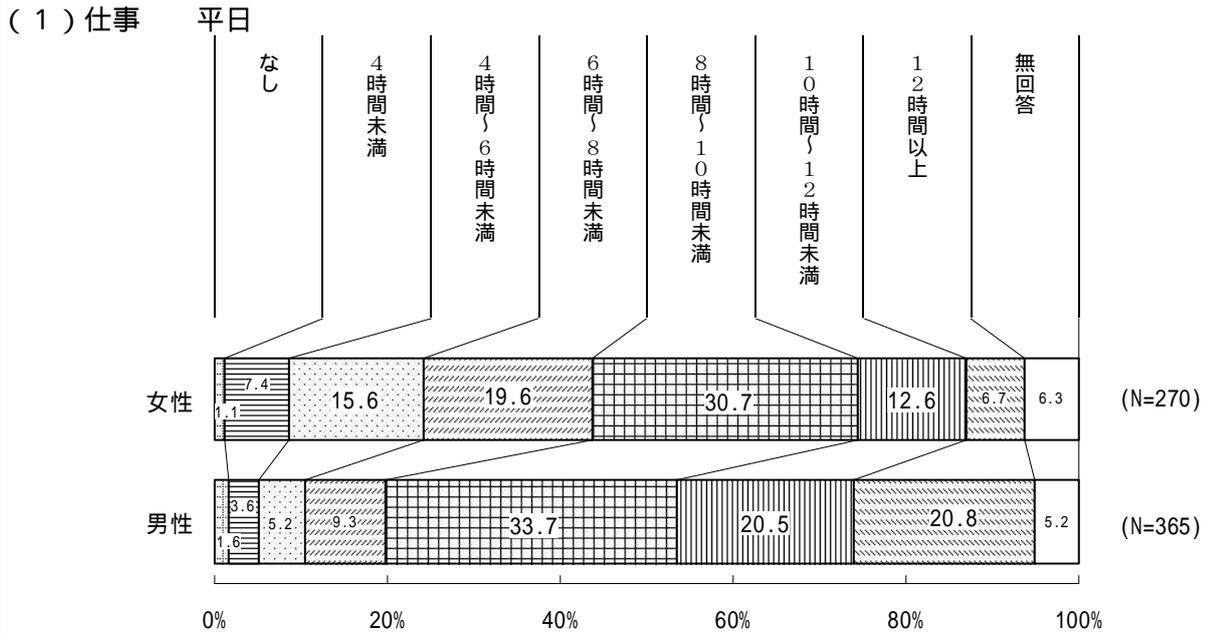
ほぼ同じ内容の項目のみ

市前回調査(平成17年)と比較すると、男女ともに、全ての項目において、今回調査の方が「平等である」の割合が高く、『男性優遇』の割合は低くなっている。

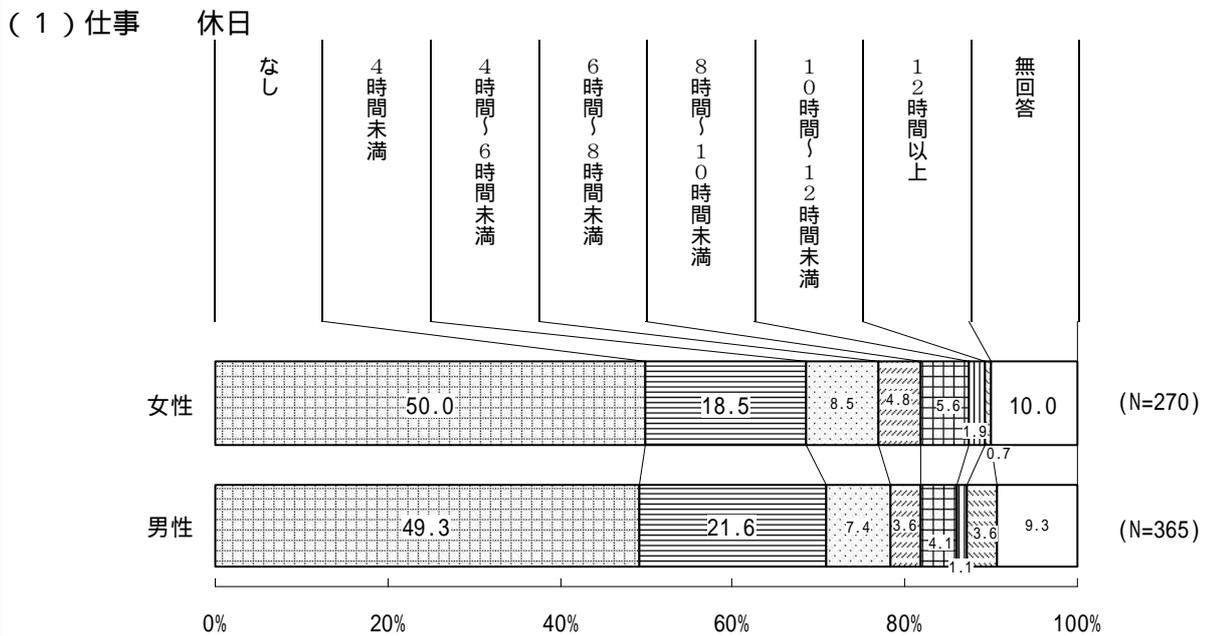
調査間で「平等になっている」の割合の差が大きいのは、女性では「研修の機会や内容」(11.2ポイント)、「昇給や賃金水準」(7.9ポイント)である。男性では、ほとんど差がみられない。

問17 1日のうちで、あなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護等をしている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。（はそれぞれ1つずつ）

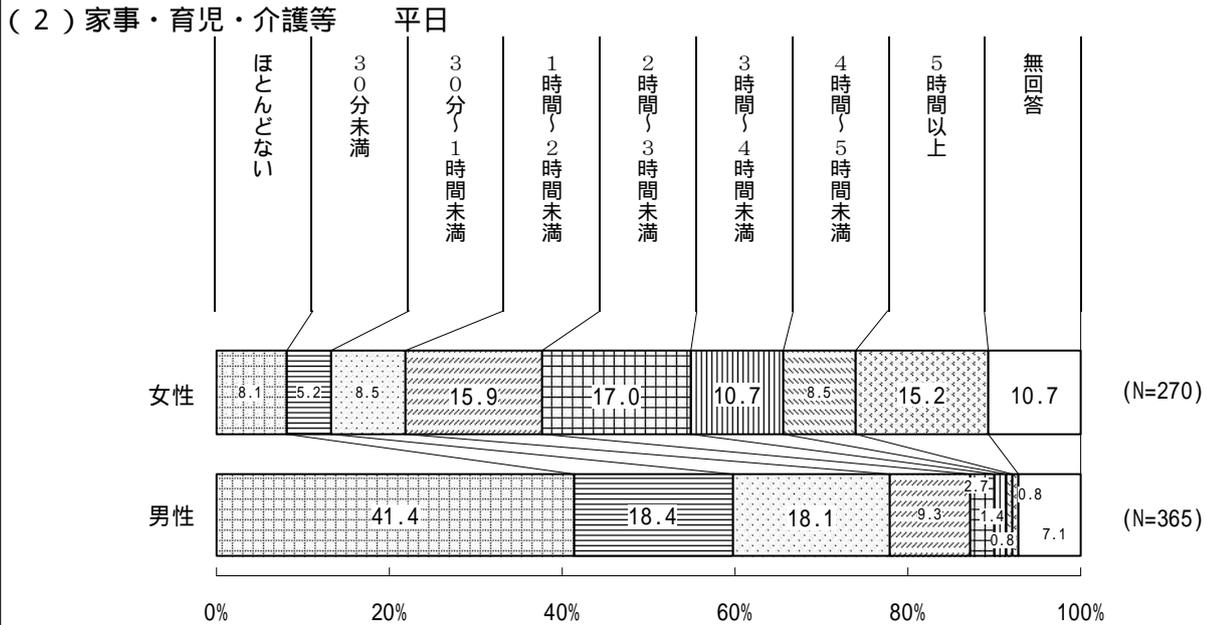
【図6-3】仕事に要する時間（平日）



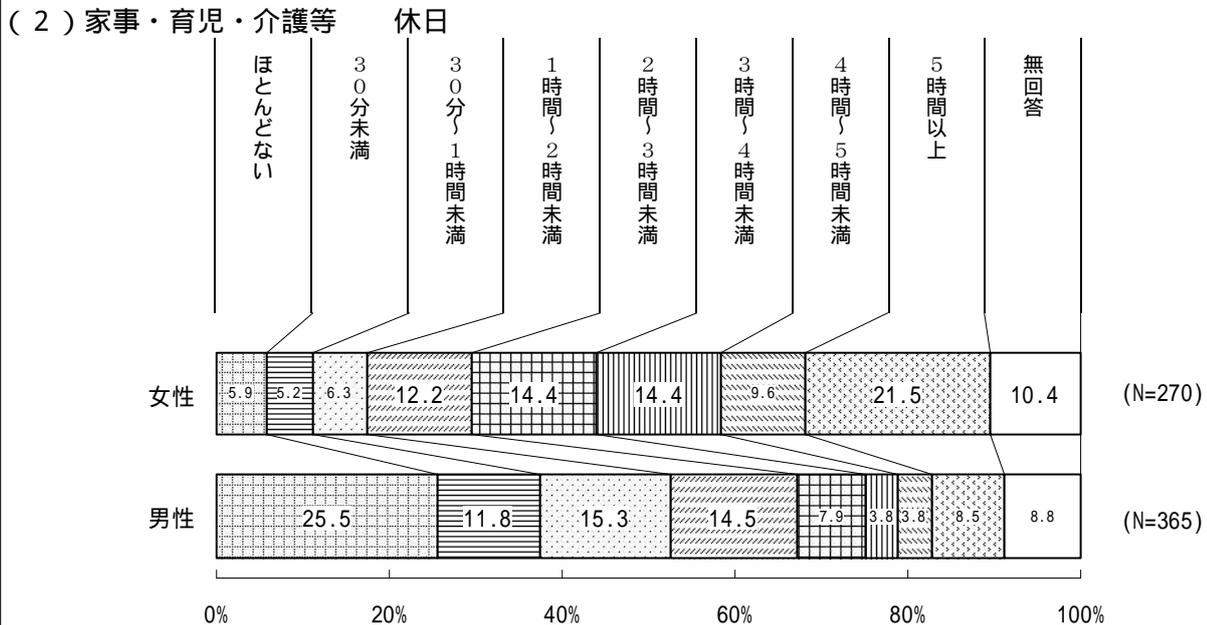
【図6-4】仕事に要する時間（休日）



【図6-5】家事・育児・介護等に要する時間（平日）



【図6-6】家事・育児・介護等に要する時間（休日）



【性別】

(1) 仕事

平日

平日における仕事をしている平均時間は、男女ともに「8時間～10時間未満」が最も高く、約30%を占める(女性30.7%、男性33.7%)。女性では、「6時間～8時間未満」(19.6%)、「4時間～6時間未満」(15.6%)、「10時間～12時間未満」(12.6%)と続く。男性では、「12時間以上」(20.8%)、「10時間～12時間未満」(20.5%)と続く。

休日

休日における仕事をしている平均時間は、男女ともに「なし」が最も高く、半数近くを占める(女性50.0%、男性49.3%)。ついで「4時間未満」(女性18.5%、男性21.6%)である。

(2) 家事・育児・介護等

平日

平日における家事・育児・介護等をしている平均時間は、女性では、「2時間～3時間未満」が17.0%と最も高く、ついで「1時間～2時間未満」(15.9%)、「5時間以上」(15.2%)と続く。男性では、「ほとんどない」が41.4%と最も高く、ついで「30分未満」(18.4%)、「30分～1時間未満」(18.1%)と続く。

休日

休日における家事・育児・介護等をしている平均時間は、女性では、「5時間以上」が21.5%と最も高く、ついで「2時間～3時間未満」(14.4%)、「3時間～4時間未満」(14.4%)と続く。男性では、「ほとんどない」が25.5%と最も高く、ついで「30分～1時間未満」(15.3%)、「1時間～2時間未満」(14.5%)と続く。

【性・年代別】

(1) 仕事

平日

女性では、20歳代～40歳代で「8時間～10時間未満」が最も高く30%以上を占めている。また女性30歳代～40歳代では、「8時間未満」の割合はそれぞれ46.1%、43.1%である。

男性40歳代では「12時間以上」が32.0%、「10時間～12時間未満」が27.8%で、「10時間以上」の割合は59.8%である。ついで30歳代においても、「12時間以上」が32.9%、「10時間～12時間未満」が20.3%で、「10時間以上」は53.2%と半数を超えている。

休日

男女とも20歳代～40歳代では「なし」は半数以上である。

(2) 家事・育児・介護等

平日

女性20歳代では「ほとんどない」(25.8%)が最も高く、30歳代では「5時間以上」(27.7%)、40歳代では「2時間～3時間未満」(27.7%)、50歳代～60歳代では「1時間～2時間未満」(26.5%、20.9%)で最も高い。男性では、どの年代でも「ほとんどない」が最も高い。

休日

女性20歳代では「ほとんどない」(22.6%)が最も高く、30歳代～40歳代では「5時間以上」が30%以上を占め、50歳代では「3時間～4時間未満」(24.5%)、60歳代では「2時間～3時間未満」(18.6%)、70歳以上では「5時間以上」(17.6%)が最も高い。30歳代以上の年代で平日よりも家事・育児・介護等の時間が長くなっている。男性では、20歳代では「30分～1時間未満」(31.6%)が最も高く、30歳代は「30分～1時間未満」(16.5%)と「ほとんどない」が同率である。その他の年代で「ほとんどない」が最も高い。40～60歳代では、平日よりも家事・育児・介護等の時間がやや長くなり、「ほとんどない」が低くなっている。

(1) 仕事 【表6-4 性・年代別】 仕事に要する時間(平日)

	全体	平日							
		なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	
全体	645	9	33	61	90	211	109	96	
上段/実数	100.0	1.4	5.1	9.5	14.0	32.7	16.9	14.9	
下段/%									
女性	20歳代	31	-	1	2	8	11	6	3
		100.0	-	3.2	6.5	25.8	35.5	19.4	9.7
	30歳代	65	1	6	11	12	21	8	4
		100.0	1.5	9.2	16.9	18.5	32.3	12.3	6.2
	40歳代	65	1	2	12	13	23	7	6
		100.0	1.5	3.1	18.5	20.0	35.4	10.8	9.2
	50歳代	49	-	2	8	7	11	10	4
	100.0	-	4.1	16.3	14.3	22.4	20.4	8.2	
60歳代	43	1	5	8	9	12	2	1	
	100.0	2.3	11.6	18.6	20.9	27.9	4.7	2.3	
70歳以上	17	-	4	1	4	5	1	-	
	100.0	-	23.5	5.9	23.5	29.4	5.9	-	
男性	20歳代	19	-	-	-	1	11	4	3
		100.0	-	-	-	5.3	57.9	21.1	15.8
	30歳代	79	1	2	3	1	28	16	26
		100.0	1.3	2.5	3.8	1.3	35.4	20.3	32.9
	40歳代	97	1	3	2	6	23	27	31
		100.0	1.0	3.1	2.1	6.2	23.7	27.8	32.0
	50歳代	73	2	2	-	7	31	17	12
	100.0	2.7	2.7	-	9.6	42.5	23.3	16.4	
60歳代	84	1	4	14	18	27	10	3	
	100.0	1.2	4.8	16.7	21.4	32.1	11.9	3.6	
70歳以上	13	1	2	-	1	3	1	1	
	100.0	7.7	15.4	-	7.7	23.1	7.7	7.7	

【表6-5 性・年代別】 仕事に要する時間(休日)

	全体	休日							
		なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	
全体	645	319	131	50	27	31	9	15	
上段/実数	100.0	49.5	20.3	7.8	4.2	4.8	1.4	2.3	
下段/%									
女性	20歳代	31	19	4	2	1	3	1	-
		100.0	61.3	12.9	6.5	3.2	9.7	3.2	-
	30歳代	65	42	12	1	3	2	1	-
		100.0	64.6	18.5	1.5	4.6	3.1	1.5	-
	40歳代	65	34	9	8	4	6	1	-
		100.0	52.3	13.8	12.3	6.2	9.2	1.5	-
	50歳代	49	18	13	5	2	-	-	-
	100.0	36.7	26.5	10.2	4.1	-	-	-	
60歳代	43	19	6	6	2	3	2	1	
	100.0	44.2	14.0	14.0	4.7	7.0	4.7	2.3	
70歳以上	17	3	6	1	1	1	-	1	
	100.0	17.6	35.3	5.9	5.9	5.9	-	5.9	
男性	20歳代	19	11	2	1	1	4	-	-
		100.0	57.9	10.5	5.3	5.3	21.1	-	-
	30歳代	79	43	19	6	-	2	-	6
		100.0	54.4	24.1	7.6	-	2.5	-	7.6
	40歳代	97	49	21	9	3	4	2	1
		100.0	50.5	21.6	9.3	3.1	4.1	2.1	1.0
	50歳代	73	33	21	7	4	2	1	2
	100.0	45.2	28.8	9.6	5.5	2.7	1.4	2.7	
60歳代	84	39	15	4	5	3	-	4	
	100.0	46.4	17.9	4.8	6.0	3.6	-	4.8	
70歳以上	13	5	1	-	-	-	1	-	
	100.0	38.5	7.7	-	-	-	7.7	-	

(2) 家事・育児・介護等 【表6-6 性・年代別】 家事・育児・介護等に要する時間(平日)

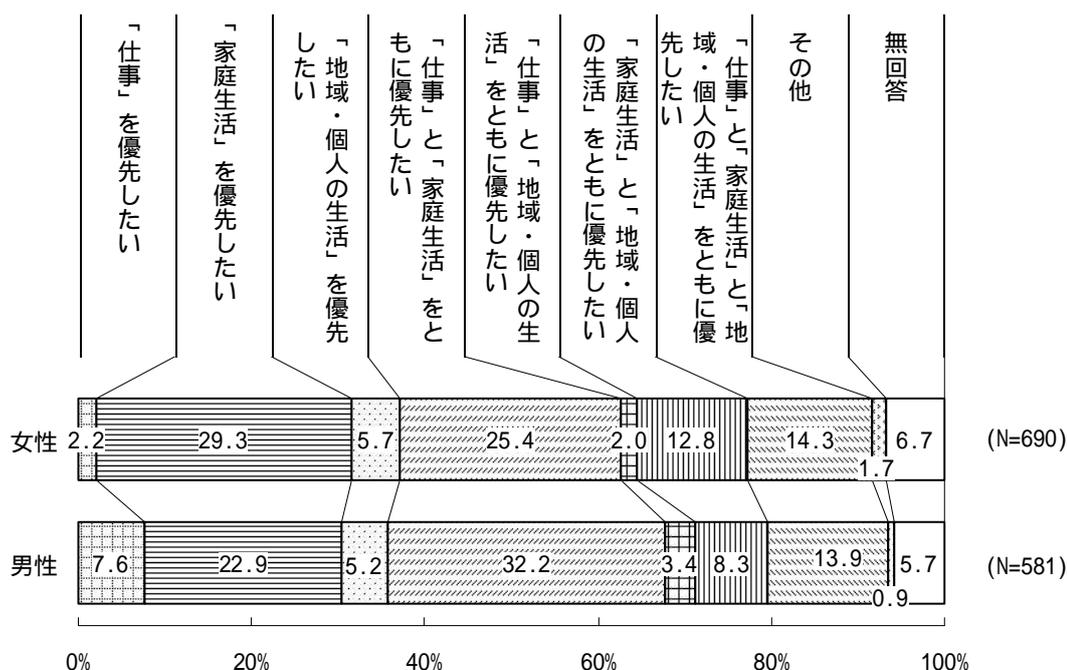
		全体	平日											
			ほとんどない	30分未満	1時間未満	30分)	2時間未満	1時間)	3時間未満	2時間)	4時間未満	3時間)	5時間未満	4時間)
全体	上段/実数	645	176	83	90	78	57	34	26	44				
	下段/%	100.0	27.3	12.9	14.0	12.1	8.8	5.3	4.0	6.8				
女性	20歳代	31 100.0	8 25.8	4 12.9	7 22.6	5 16.1	5 16.1	1 3.2	1 3.2	- -				
	30歳代	65 100.0	4 6.2	5 7.7	3 4.6	7 10.8	9 13.8	6 9.2	7 10.8	18 27.7				
	40歳代	65 100.0	4 6.2	1 1.5	5 7.7	7 10.8	18 27.7	10 15.4	6 9.2	13 20.0				
	50歳代	49 100.0	2 4.1	1 2.0	5 10.2	13 26.5	7 14.3	6 12.2	5 10.2	4 8.2				
	60歳代	43 100.0	3 7.0	2 4.7	3 7.0	9 20.9	6 14.0	5 11.6	2 4.7	5 11.6				
	70歳以上	17 100.0	1 5.9	1 5.9	- -	2 11.8	1 5.9	1 5.9	2 11.8	1 5.9				
	男性	20歳代	19 100.0	6 31.6	4 21.1	5 26.3	1 5.3	2 10.5	1 5.3	- -	- -			
30歳代		79 100.0	25 31.6	16 20.3	19 24.1	8 10.1	3 3.8	3 3.8	2 2.5	1 1.3				
40歳代		97 100.0	39 40.2	20 20.6	19 19.6	11 11.3	2 2.1	- -	1 1.0	- -				
50歳代		73 100.0	32 43.8	15 20.5	11 15.1	10 13.7	1 1.4	1 1.4	- -	1 1.4				
60歳代		84 100.0	44 52.4	11 13.1	11 13.1	4 4.8	2 2.4	- -	- -	1 1.2				
70歳以上		13 100.0	5 38.5	1 7.7	1 7.7	- -	- -	- -	- -	- -				

【表6-7 性・年代別】 家事・育児・介護等に要する時間(休日)

		全体	休日											
			ほとんどない	30分未満	1時間未満	30分)	2時間未満	1時間)	3時間未満	2時間)	4時間未満	3時間)	5時間未満	4時間)
全体	上段/実数	645	111	57	75	86	69	53	40	91				
	下段/%	100.0	17.2	8.8	11.6	13.3	10.7	8.2	6.2	14.1				
女性	20歳代	31 100.0	7 22.6	4 12.9	5 16.1	5 16.1	5 16.1	2 6.5	2 6.5	1 3.2				
	30歳代	65 100.0	2 3.1	5 7.7	3 4.6	5 7.7	9 13.8	6 9.2	5 7.7	23 35.4				
	40歳代	65 100.0	1 1.5	1 1.5	3 4.6	8 12.3	10 15.4	12 18.5	8 12.3	20 30.8				
	50歳代	49 100.0	3 6.1	2 4.1	2 4.1	7 14.3	6 12.2	12 24.5	5 10.2	6 12.2				
	60歳代	43 100.0	3 7.0	- -	4 9.3	6 14.0	8 18.6	6 14.0	4 9.3	5 11.6				
	70歳以上	17 100.0	- -	2 11.8	- -	2 11.8	1 5.9	1 5.9	2 11.8	3 17.6				
	男性	20歳代	19 100.0	4 21.1	- -	6 31.6	3 15.8	2 10.5	3 15.8	- -	1 5.3			
30歳代		79 100.0	13 16.5	6 7.6	13 16.5	12 15.2	7 8.9	4 5.1	7 8.9	15 19.0				
40歳代		97 100.0	21 21.6	9 9.3	17 17.5	16 16.5	9 9.3	5 5.2	6 6.2	7 7.2				
50歳代		73 100.0	18 24.7	13 17.8	7 9.6	18 24.7	6 8.2	2 2.7	1 1.4	5 6.8				
60歳代		84 100.0	32 38.1	15 17.9	13 15.5	4 4.8	4 4.8	- -	- -	3 3.6				
70歳以上		13 100.0	5 38.5	- -	- -	- -	1 7.7	- -	- -	- -				

問18 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(は1つ)

【図6-7】希望する暮らし方



【性別】

「仕事と家庭生活をともに優先したい」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計を、『仕事と他の活動を両立させたい』割合とする。

「希望する暮らし方」として、女性では「家庭生活を優先したい」が29.3%で最も高く、ついで「仕事と家庭生活をともに優先したい」(25.4%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(14.3%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(12.8%)と続く。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、41.7%となっている。

男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が32.2%で最も高く、ついで「家庭生活を優先したい」(22.9%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(13.9%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(8.3%)と続く。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、49.5%である。

【性・年代別】

女性では、20歳代～30歳代と50歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高い(それぞれ47.4%、39.3%、32.3%)。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、20歳代で68.5%、30歳代で59.0%を占める。一方で40歳代、60歳代、70歳以上では「家庭生活を優先したい」がそれぞれ30%以上を占め最も高い。

男性では、20歳代～50歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高い(それぞれ34.3%、48.3%、38.5%、42.0%)。『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、それぞれ54.3%、65.5%、60.6%、58.1%を占める。一方で、60歳代～70歳以上で「家庭生活を優先したい」が約25%を占め最も高い。

【表6 - 8 性・年代別】 希望する暮らし方

		全体	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
全体	上段/実数	1291	59	344	69	368	34	138	182	17	80
	下段/%	100.0	4.6	26.6	5.3	28.5	2.6	10.7	14.1	1.3	6.2
女性	20歳代	57 100.0	1 1.8	11 19.3	1 1.8	27 47.4	- -	4 7.0	12 21.1	- -	1 1.8
	30歳代	117 100.0	2 1.7	30 25.6	1 0.9	46 39.3	1 0.9	9 7.7	22 18.8	3 2.6	3 2.6
	40歳代	117 100.0	1 0.9	36 30.8	7 6.0	30 25.6	5 4.3	12 10.3	22 18.8	1 0.9	3 2.6
	50歳代	96 100.0	1 1.0	22 22.9	5 5.2	31 32.3	3 3.1	17 17.7	13 13.5	- -	4 4.2
	60歳代	144 100.0	6 4.2	44 30.6	9 6.3	22 15.3	4 2.8	29 20.1	18 12.5	1 0.7	11 7.6
	70歳以上	159 100.0	4 2.5	59 37.1	16 10.1	19 11.9	1 0.6	17 10.7	12 7.5	7 4.4	24 15.1
男性	20歳代	35 100.0	3 8.6	11 31.4	- -	12 34.3	- -	2 5.7	7 20.0	- -	- -
	30歳代	87 100.0	3 3.4	15 17.2	2 2.3	42 48.3	2 2.3	9 10.3	13 14.9	- -	1 1.1
	40歳代	104 100.0	6 5.8	23 22.1	3 2.9	40 38.5	6 5.8	3 2.9	17 16.3	1 1.0	5 4.8
	50歳代	81 100.0	10 12.3	16 19.8	2 2.5	34 42.0	2 2.5	1 1.2	11 13.6	1 1.2	4 4.9
	60歳代	156 100.0	15 9.6	39 25.0	13 8.3	38 24.4	8 5.1	18 11.5	20 12.8	1 0.6	4 2.6
	70歳以上	118 100.0	7 5.9	29 24.6	10 8.5	21 17.8	2 1.7	15 12.7	13 11.0	2 1.7	19 16.1

【表6-9 大阪府調査/世論調査との比較】 希望する暮らし方

(%)

		全体	女性	男性
全体(実数)	本調査	1,291	690	581
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	436	205	231
	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	3240	1730	1510
「仕事」を優先したい	本調査	4.6	2.2	7.6
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	9.4	4.9	13.4
	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	8.5	4.4	13.3
「家庭生活」を優先したい	本調査	26.6	29.3	22.9
「家庭や地域活動」を優先したい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	4.6	5.4	3.9
「家庭生活」を優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	28.7	34.1	22.5
「地域・個人の生活」を優先したい	本調査	5.3	5.7	5.2
「個人の生活」を優先したい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	13.1	13.2	13.0
「地域・個人の生活」を優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	2.2	2.1	2.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	本調査	28.5	25.4	32.2
「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	11.9	8.8	14.7
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	31.2	29.7	33.0
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	本調査	2.6	2.0	3.4
「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	19.7	20.0	19.5
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	3.6	2.5	4.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	本調査	10.7	12.8	8.3
「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	5.7	6.8	4.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	7.8	9.0	6.4
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	本調査	14.1	14.3	13.9
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	28.2	31.2	25.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成21年)	16.9	17.0	16.7

大阪府調査では、<現在仕事をしていると回答していた人のみ>対象。
大阪府調査の「その他」、「わからない」、世論調査の「わからない」は省略している

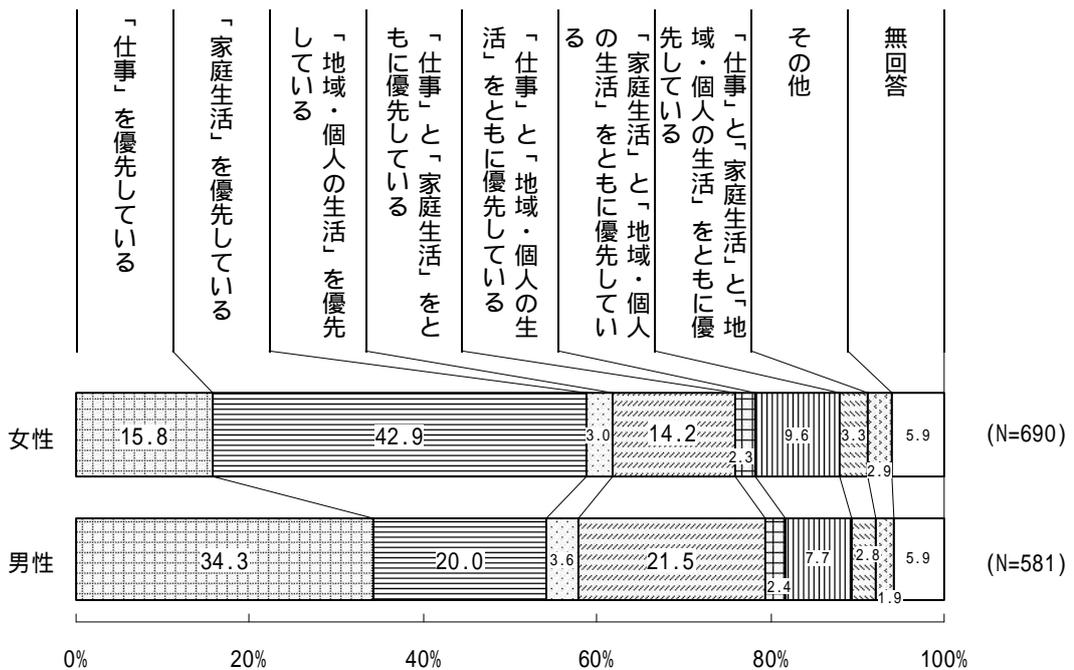
大阪府調査(平成21年)・世論調査(平成21年)と比較すると、男女ともに「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」について大阪府調査・世論調査を上回る。男性では、「家庭生活を優先したい」について大阪府調査・世論調査を上回る。

『仕事と他の活動を両立させたい』割合でみると、男女ともに大阪府調査・世論調査を下回る。

	全体	女性	男性
本調査	45.2%	41.7%	49.5%
大阪府調査	59.8%	60.0%	59.7%
世論調査	51.7%	49.2%	54.5%

問19 それでは、あなたの現実の生活に最も近いものはどれでしょうか。(は1つ)

【図6-8】現実の生活



【性別】

「仕事と家庭生活をともに優先している」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」の合計を、『仕事と他の活動を両立している』割合とする。

「現実の生活」として、女性では「家庭生活を優先している」が42.9%で最も高く、ついで「仕事を優先している」(15.8%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(14.2%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(9.6%)と続く。『仕事と他の活動を両立している』割合は、19.8%となっている。

男性では「仕事を優先している」が34.3%で最も高く、ついで「仕事と家庭生活をともに優先している」(21.5%)、「家庭生活を優先している」(20.0%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(7.7%)と続く。『仕事と他の活動を両立している』割合は、26.7%となっている。

【性・年代別】

女性では、20歳代で「仕事を優先している」と「家庭生活を優先している」が高く30%以上を占め、30歳代~70歳以上で「家庭生活を優先している」が最も高い。一方で『仕事と他の活動を両立している』割合は、20歳代で22.8%、30歳代で25.7%、40歳代で28.3%を占める。

男性では、20歳代~50歳代で「仕事を優先している」が最も高く50%前後を占める。60歳代~70歳以上では「家庭生活を優先している」が最も高い。一方で『仕事と他の活動を両立している』割合は、30歳代で32.1%、40歳代で33.6%、50歳代で41.9%を占める。

【表6-10 性・年代別】 現実の生活

		全体	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
全体		1291	311	421	44	227	31	111	39	31	76
上段/実数		1291	311	421	44	227	31	111	39	31	76
下段/%		100.0	24.1	32.6	3.4	17.6	2.4	8.6	3.0	2.4	5.9
女性	20歳代	57	20	18	-	10	2	2	1	3	1
		100.0	35.1	31.6	-	17.5	3.5	3.5	1.8	5.3	1.8
	30歳代	117	21	53	3	20	5	5	5	3	2
		100.0	17.9	45.3	2.6	17.1	4.3	4.3	4.3	2.6	1.7
	40歳代	117	24	48	2	25	3	7	5	-	3
		100.0	20.5	41.0	1.7	21.4	2.6	6.0	4.3	-	2.6
	50歳代	96	23	36	3	11	1	13	3	2	4
	100.0	24.0	37.5	3.1	11.5	1.0	13.5	3.1	2.1	4.2	
60歳代	144	18	63	3	18	3	21	5	4	9	
	100.0	12.5	43.8	2.1	12.5	2.1	14.6	3.5	2.8	6.3	
70歳以上	159	3	78	10	14	2	18	4	8	22	
	100.0	1.9	49.1	6.3	8.8	1.3	11.3	2.5	5.0	13.8	
男性	20歳代	35	17	4	2	6	-	3	1	2	-
		100.0	48.6	11.4	5.7	17.1	-	8.6	2.9	5.7	-
	30歳代	87	45	10	1	25	2	2	1	-	1
		100.0	51.7	11.5	1.1	28.7	2.3	2.3	1.1	-	1.1
	40歳代	104	56	4	-	30	3	2	2	2	5
		100.0	53.8	3.8	-	28.8	2.9	1.9	1.9	1.9	4.8
	50歳代	81	37	6	1	26	4	-	4	-	3
	100.0	45.7	7.4	1.2	32.1	4.9	-	4.9	-	3.7	
60歳代	156	38	46	10	29	5	16	4	4	4	
	100.0	24.4	29.5	6.4	18.6	3.2	10.3	2.6	2.6	2.6	
70歳以上	118	6	46	7	9	-	22	4	3	21	
	100.0	5.1	39.0	5.9	7.6	-	18.6	3.4	2.5	17.8	

【表6-11 希望する暮らし方と現実の生活】

(%)

女性		現 実							
		全体 (実数)	「仕事」 を優先して いる	「家庭生活」 を優先して いる	「地域・個人 の生活」を 優先して いる	「仕事」と 「家庭生活」 を ともに優先 している	「仕事」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している	「家庭生活」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している	「仕事」と 「家庭生活」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している
理想	全体	690	15.8	42.9	3.0	14.2	2.3	9.6	3.3
	「仕事」を優先したい	15	73.3	-	-	6.7	-	-	-
	「家庭生活」を優先したい	202	8.9	76.2	0.5	8.9	-	3.0	1.0
	「地域・個人の生活」を優先したい	39	10.3	28.2	30.8	5.1	5.1	17.9	2.6
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	175	28.6	37.7	-	28.6	0.6	1.1	0.6
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	14	42.9	-	-	14.3	21.4	14.3	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	88	4.5	43.2	3.4	5.7	2.3	37.5	1.1
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	99	14.1	19.2	3.0	20.2	8.1	14.1	17.2

(%)

男性		現 実							
		全体 (実数)	「仕事」 を優先して いる	「家庭生活」 を優先して いる	「地域・個人 の生活」を 優先して いる	「仕事」と 「家庭生活」 を ともに優先 している	「仕事」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している	「家庭生活」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している	「仕事」と 「家庭生活」と 「地域・個人 の生活」を ともに優先 している
理想	全体	581	34.3	20.0	3.6	21.5	2.4	7.7	2.8
	「仕事」を優先したい	44	70.5	20.5	-	2.3	-	-	2.3
	「家庭生活」を優先したい	133	32.3	43.6	0.8	17.3	1.5	1.5	1.5
	「地域・個人の生活」を優先したい	30	23.3	16.7	36.7	10.0	-	10.0	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	187	39.0	12.8	-	41.2	0.5	2.1	3.2
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	20	45.0	5.0	10.0	5.0	20.0	5.0	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	48	10.4	16.7	4.2	6.3	6.3	52.1	2.1
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	81	34.6	12.3	4.9	21.0	4.9	9.9	7.4

■ 内の数字は理想と現実の一致を示している

【表 6 - 12 大阪府調査 / 世論調査との比較】 現実の生活 (%)

		全体	女性	男性
全体	本調査	1,291	690	581
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	436	205	231
	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	3240	1730	1510
「仕事」を優先している	本調査	24.1	15.8	34.3
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	42.7	28.8	55.0
	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	25.8	15.3	37.8
「家庭生活」を優先している	本調査	32.6	42.9	20.0
「家庭や地域活動」を優先している	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	6.2	10.7	2.2
「家庭生活」を優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	33.0	44.2	20.1
「地域・個人の生活」を優先している	本調査	3.4	3.0	3.6
「個人の生活」を優先している	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	4.1	3.9	4.8
「地域・個人の生活」を優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	3.7	2.9	4.6
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	本調査	17.6	14.2	21.5
「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	12.3	13.2	13.0
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	21.0	21.1	21.0
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	本調査	2.4	2.3	2.4
「仕事」と「個人の生活」をともに優先している	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	15.0	21.0	10.8
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	3.6	2.3	5.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	本調査	8.6	9.6	7.7
「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	1.7	2.4	1.3
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	6.7	8.5	4.6
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	本調査	3.0	3.3	2.8
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の 3 つとも大切にしている	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成 21 年)	8.8	12.2	6.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府 平成 21 年)	4.6	4.2	5.1

大阪府調査では、< 現在仕事をしていると回答していた人のみ > 対象。
大阪府調査の「その他」、「わからない」、世論調査の「わからない」は省略している

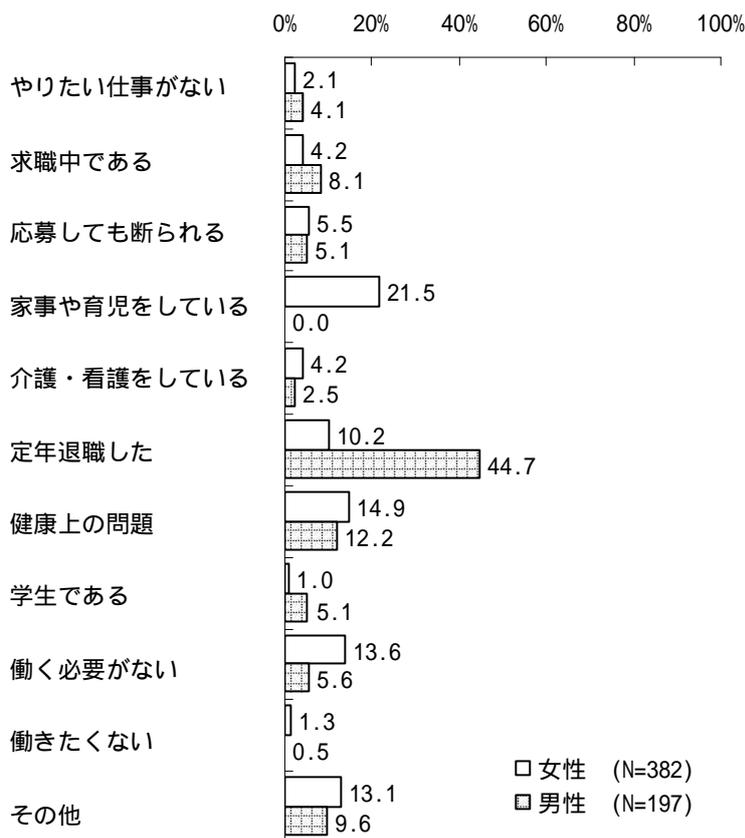
大阪府調査(平成 21 年)・世論調査(平成 21 年)と比較すると、男女ともに「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」について大阪府調査・世論調査を上回る。男性では、「仕事と家庭生活をともに優先している」について大阪府調査・世論調査を上回る。

『仕事と他の活動を両立している』割合でみると、男女ともに大阪府調査・世論調査を下回る。

	全体	女性	男性
本調査	23.0%	19.8%	26.7%
大阪府調査	36.1%	46.4%	30.3%
世論調査	29.2%	27.6%	31.2%

問20 あなたが働いていないのはどうしてですか。(は1つ) (複数回答に変更)

【図6-9】働いていない理由



【性別】

「働いていない理由」として、女性では「家事や育児をしている」が21.5%で最も高く、ついで「健康上の問題」(14.9%)、「働く必要がない」(13.6%)と続く。男性では「定年退職した」が44.7%で最も高く、ついで「健康上の問題」(12.2%)と続く。

性別で比較すると、「家事や育児をしている」と「働く必要がない」では女性の方が高く、「定年退職した」では男性の方が高くなっている。

【性・年代別】

女性では、20歳代～40歳代で「家事や育児をしている」が最も高く、30歳代と40歳代では50%を超えている。60歳代で「働く必要がない」、70歳以上で「定年退職した」が最も高い。

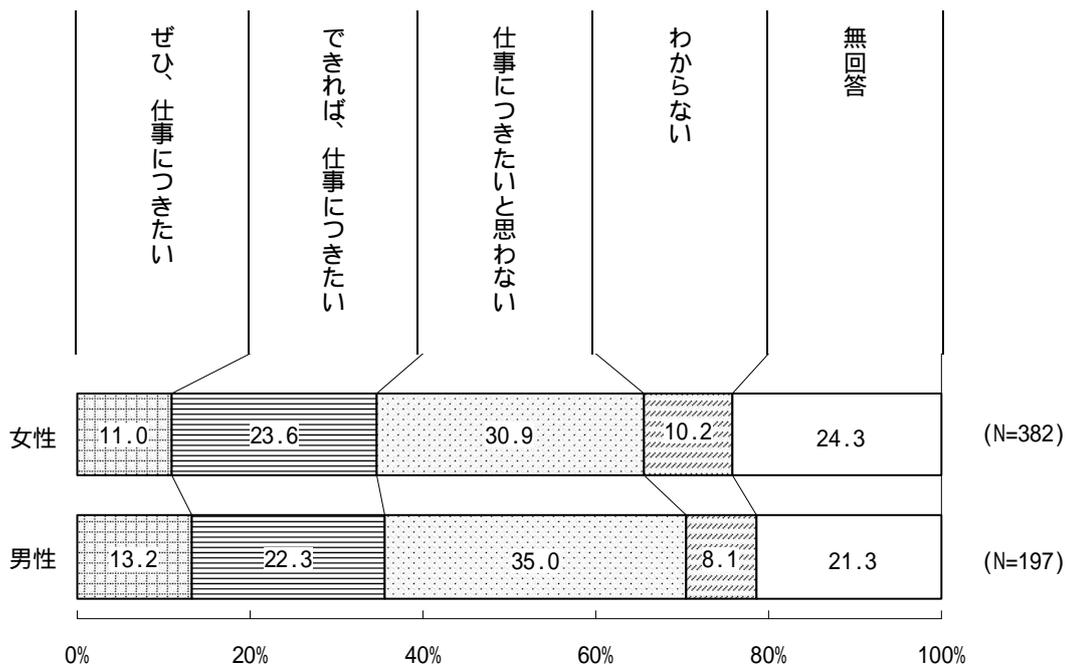
男性では、30歳代～50歳代で「求職中である」の割合が高いものの、母数が少ないことを考慮する必要がある。60歳代～70歳以上で「定年退職した」が最も高く、50%以上である。

【表6 - 13 性・年代別】 働いていない理由

		全体	やりたい仕事がない	求職中である	応募しても断られる	家事や育児をしている	介護・看護をしている	定年退職した	健康上の問題	学生である	働く必要がない	働きたくない	その他	無回答
全体	上段/実数	588	16	32	31	82	21	128	84	14	63	6	71	73
	下段/%	100.0	2.7	5.4	5.3	13.9	3.6	21.8	14.3	2.4	10.7	1.0	12.1	12.4
女性	20歳代	24 100.0	- -	3 12.5	- -	6 25.0	- -	1 4.2	3 12.5	4 16.7	- -	- -	2 8.3	5 20.8
	30歳代	49 100.0	- -	1 2.0	4 8.2	34 69.4	1 2.0	- -	4 8.2	- -	- -	- -	3 6.1	5 10.2
	40歳代	48 100.0	2 4.2	4 8.3	- -	26 54.2	1 2.1	- -	8 16.7	- -	2 4.2	1 2.1	1 2.1	3 6.3
	50歳代	42 100.0	2 4.8	4 9.5	6 14.3	8 19.0	4 9.5	- -	7 16.7	- -	8 19.0	1 2.4	1 2.4	2 4.8
	60歳代	92 100.0	2 2.2	4 4.3	7 7.6	6 6.5	6 6.5	15 16.3	13 14.1	- -	23 25.0	2 2.2	11 12.0	10 10.9
	70歳以上	127 100.0	2 1.6	- -	4 3.1	2 1.6	4 3.1	23 18.1	22 17.3	- -	19 15.0	1 0.8	32 25.2	25 19.7
	男性	20歳代	16 100.0	- -	2 12.5	1 6.3	- -	- -	- -	2 12.5	10 62.5	- -	- -	- -
30歳代		6 100.0	- -	4 66.7	1 16.7	- -	- -	- -	1 16.7	- -	- -	- -	- -	- -
40歳代		6 100.0	- -	3 50.0	1 16.7	- -	- -	- -	1 16.7	- -	- -	- -	- -	1 16.7
50歳代		7 100.0	- -	3 42.9	2 28.6	- -	1 14.3	- -	2 28.6	- -	- -	- -	- -	2 28.6
60歳代		67 100.0	7 10.4	4 6.0	3 4.5	- -	2 3.0	40 59.7	5 7.5	- -	6 9.0	- -	3 4.5	1 1.5
70歳以上		95 100.0	1 1.1	- -	2 2.1	- -	2 2.1	48 50.5	13 13.7	- -	5 5.3	1 1.1	16 16.8	14 14.7

問 2 1 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(は 1 つ)

【図 6 - 10】就労の希望



【性別】

「今後、収入を得る仕事につきたいか」について、男女ともに「仕事につきたいと思わない」が最も高く 30%以上を占める。「ぜひ仕事につきたい」と「できれば仕事につきたい」を合わせると、男女とも約 35%が就労を希望している。

【性・年代別】

女性では、50 歳代～70 歳以上で「仕事につきたいと思わない」が最も高く、20 歳代～40 歳代で過半数が就労を希望している。

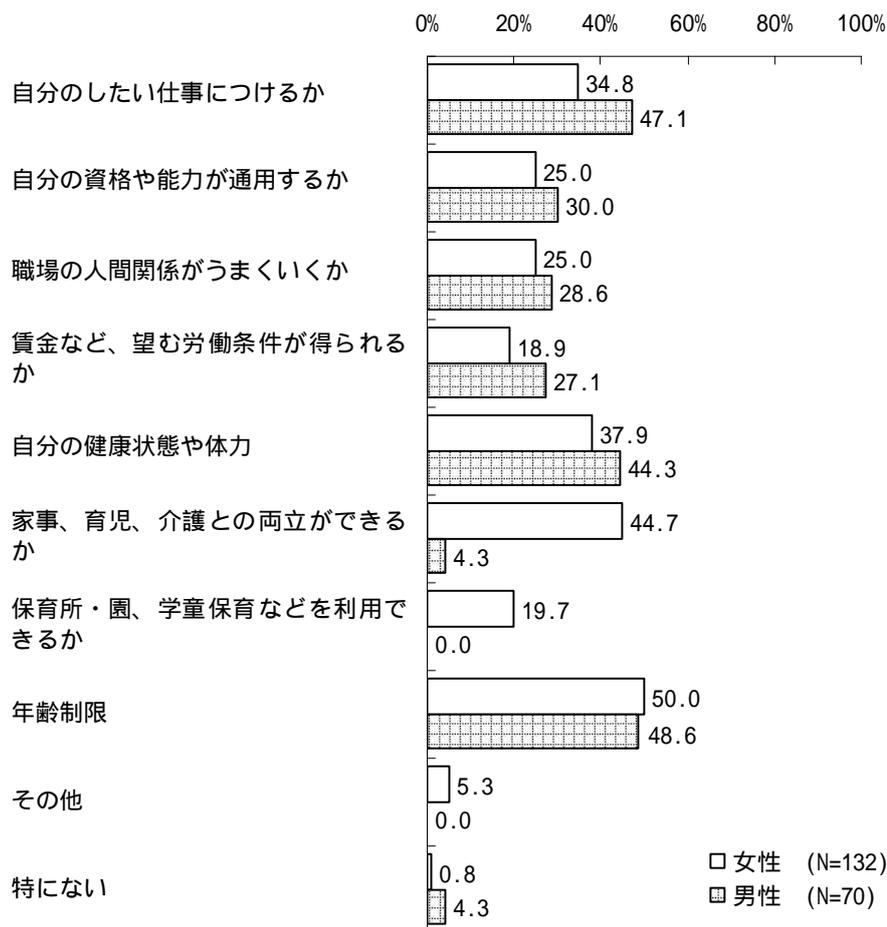
男性では、60 歳代と 70 歳以上で「仕事につきたいと思わない」が最も高く、20 歳代～50 歳代で過半数が就労を希望している。

【表 6 - 14 性・年代別】 就労の希望

		全体	ぜひ、仕事につきたい	できれば、仕事につきたい	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答
全体		588	68	134	191	57	138
上段/実数							
下段/%		100.0	11.6	22.8	32.5	9.7	23.5
女性	20 歳代	24 100.0	9 37.5	6 25.0	1 4.2	2 8.3	6 25.0
	30 歳代	49 100.0	19 38.8	27 55.1	1 2.0	-	2 4.1
	40 歳代	48 100.0	9 18.8	20 41.7	4 8.3	12 25.0	3 6.3
	50 歳代	42 100.0	3 7.1	12 28.6	13 31.0	10 23.8	4 9.5
	60 歳代	92 100.0	1 1.1	18 19.6	40 43.5	11 12.0	22 23.9
	70 歳以上	127 100.0	1 0.8	7 5.5	59 46.5	4 3.1	56 44.1
	男性	20 歳代	16 100.0	13 81.3	1 6.3	-	-
30 歳代		6 100.0	5 83.3	-	-	1 16.7	-
40 歳代		6 100.0	2 33.3	3 50.0	-	-	1 16.7
50 歳代		7 100.0	2 28.6	2 28.6	-	1 14.3	2 28.6
60 歳代		67 100.0	2 3.0	21 31.3	28 41.8	7 10.4	9 13.4
70 歳以上		95 100.0	2 2.1	17 17.9	41 43.2	7 7.4	28 29.5

問 2 1 - 1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。
(はいいくつでも)

【図 6 - 11】仕事につく上での不安



【性別】

「仕事につく上で困ったことや不安」について、男女とも「年齢制限」が最も高く、半数を占める。

女性では、「家事、育児、介護との両立ができるか」(44.7%)、「自分の健康状態や体力」(37.9%)、「自分のしたい仕事につけるか」(34.8%)と続く。

男性では、「自分のしたい仕事につけるか」(47.1%)、「自分の健康状態や体力」(44.3%)、「自分の資格や能力が通用するか」(30.0%)と続く。

【性・年代別】

女性では、20歳代と30歳代で「家事、育児、介護との両立ができるか」が最も高く、40歳代～70歳以上で「年齢制限」が最も高い。

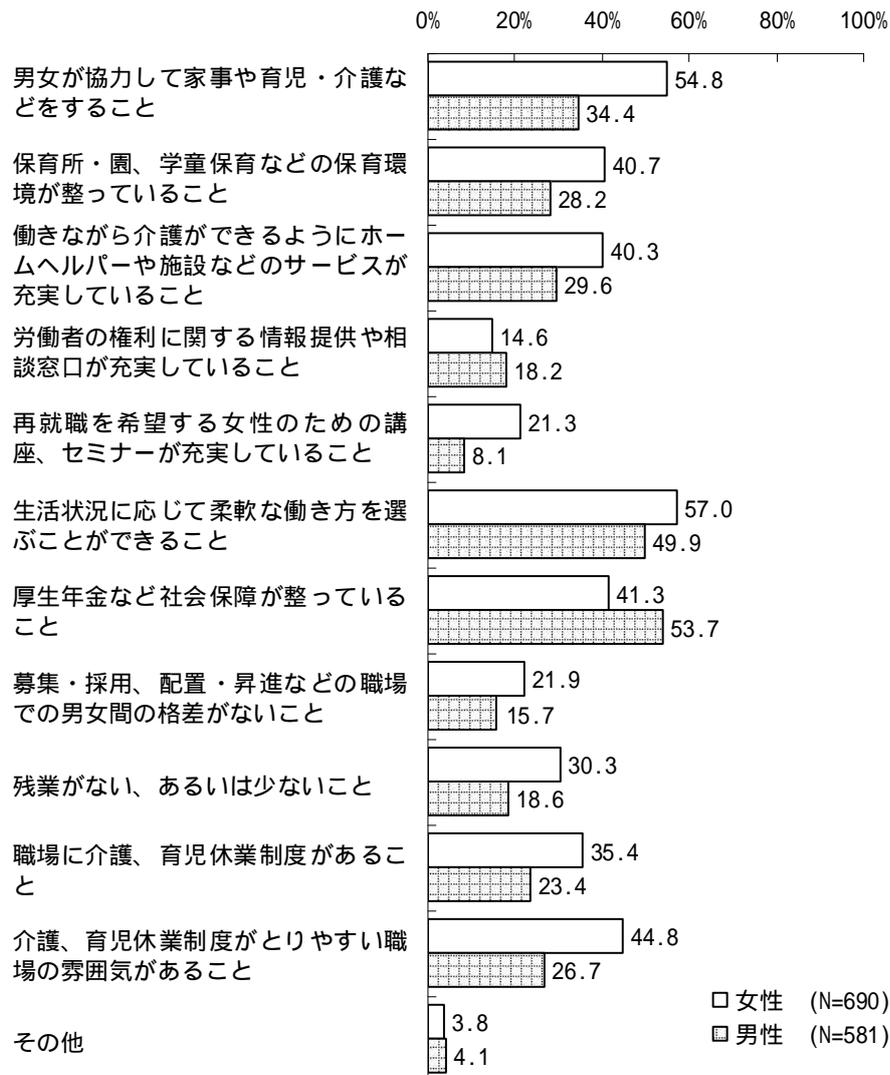
男性では、20歳代で「自分のしたい仕事につけるか」と「職場の人間関係がうまくいくか」が最も高く、30歳代で「賃金など、望む労働条件が得られるか」、40歳代で「自分のしたい仕事につけるか」、「賃金など、望む労働条件が得られるか」、50歳代で「自分のしたい仕事につけるか」、60歳代で「自分の健康状態や体力」、70歳以上で「年齢制限」が最も高い。

【表6 - 15 性・年代別】 仕事につく上での不安

		全体	自分のしたい仕事につけるか	自分の資格や能力が通用するか	職場の人間関係がうまくいくか	賃金など、望む労働条件が得られるか	力	自分の健康状態や体力	家事、育児、介護との両立ができるか	保育所・園、学童保育などを利用できるか	年齢制限	その他	特にない
全体	上段/実数 下段/%	202 100.0	79 39.1	54 26.7	53 26.2	44 21.8	81 40.1	62 30.7	26 12.9	100 49.5	7 3.5	4 2.0	
女性	20歳代	15 100.0	5 33.3	4 26.7	5 33.3	5 33.3	5 33.3	6 40.0	5 33.3	- -	1 6.7	- -	
	30歳代	46 100.0	14 30.4	11 23.9	12 26.1	10 21.7	13 28.3	30 65.2	17 37.0	16 34.8	2 4.3	1 2.2	
	40歳代	29 100.0	15 51.7	10 34.5	8 27.6	6 20.7	16 55.2	15 51.7	4 13.8	21 72.4	3 10.3	- -	
	50歳代	15 100.0	5 33.3	4 26.7	4 26.7	- -	4 26.7	5 33.3	- -	10 66.7	- -	- -	
	60歳代	19 100.0	6 31.6	4 21.1	4 21.1	4 21.1	9 47.4	2 10.5	- -	13 68.4	1 5.3	- -	
	70歳以上	8 100.0	1 12.5	- -	- -	- -	3 37.5	1 12.5	- -	6 75.0	- -	- -	
男性	20歳代	14 100.0	9 64.3	6 42.9	9 64.3	6 42.9	4 28.6	1 7.1	- -	2 14.3	- -	1 7.1	
	30歳代	5 100.0	3 60.0	- -	2 40.0	4 80.0	2 40.0	2 40.0	- -	1 20.0	- -	- -	
	40歳代	5 100.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0	3 60.0	3 60.0	- -	- -	2 40.0	- -	- -	
	50歳代	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	- -	- -	2 50.0	- -	1 25.0	
	60歳代	23 100.0	7 30.4	8 34.8	6 26.1	4 17.4	13 56.5	- -	- -	13 56.5	- -	- -	
	70歳以上	19 100.0	8 42.1	4 21.1	- -	1 5.3	7 36.8	- -	- -	14 73.7	- -	1 5.3	

問2 2 もし、あなたが働きたい、あるいは、働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(はいいくつでも)

【図6 - 12】働く上で大切なこと



【性別】

「働き続ける、働き始めたいときに大切なこと」について、女性では、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が57.0%で最も高く、ついで「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」(54.8%)、「介護、育児休業制度がとやすい職場の雰囲気があること」(44.8%)、「厚生年金など社会保障が整っていること」(41.3%)、「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」(40.7%)「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること」(40.3%)と続く。

男性では、「厚生年金など社会保障が整っていること」が53.7%で最も高く、ついで「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」(49.9%)、「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」(34.4%)、「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること」(29.6%)と続く。

【性・年代別】

女性では、20歳代で「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」、30歳代～50歳代で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」、60歳代、70歳以上で「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」が最も高い。男性では、20歳代で「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」、30歳代で「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」、40歳代～50歳代と70歳以上で「厚生年金など社会保障が整っていること」、60歳代で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が最も高い。

【表6-16 性・年代別】 働く上で大切なこと

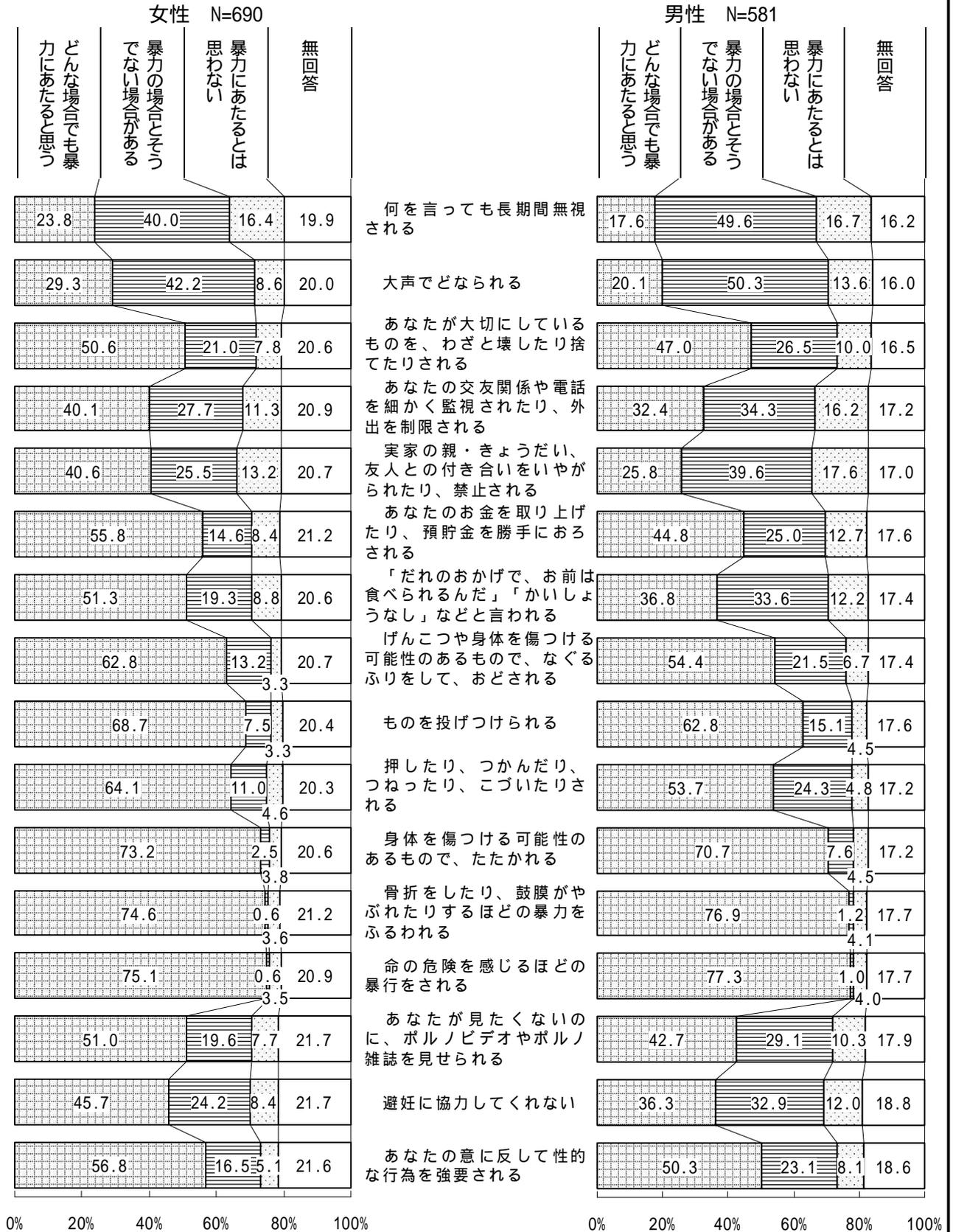
		全体	男女が協力して家事や育児・介護などをする事	保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること	働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること	労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実していること	再就職を希望する女性のための講座、セミナーが充実していること	生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること	厚生年金など社会保障が整っていること	募集・採用、配置・昇進などの職場での男女間の格差がないこと	残業がない、あるいは少ないこと	職場に介護、育児休業制度があること	介護、育児休業制度がとりやすい職場の雰囲気があること	その他
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	585 45.3	449 34.8	457 35.4	210 16.3	197 15.3	687 53.2	608 47.1	245 19.0	319 24.7	384 29.7	469 36.3	50 3.9
女性	20歳代	57 100.0	40 70.2	42 73.7	20 35.1	10 17.5	18 31.6	28 49.1	27 47.4	22 38.6	35 61.4	33 57.9	33 57.9	1 1.8
	30歳代	117 100.0	80 68.4	80 68.4	30 25.6	15 12.8	31 26.5	85 72.6	47 40.2	30 25.6	51 43.6	48 41.0	70 59.8	4 3.4
	40歳代	117 100.0	69 59.0	47 40.2	56 47.9	19 16.2	35 29.9	89 76.1	44 37.6	24 20.5	54 46.2	46 39.3	63 53.8	7 6.0
	50歳代	96 100.0	49 51.0	33 34.4	55 57.3	22 22.9	27 28.1	69 71.9	43 44.8	26 27.1	25 26.0	36 37.5	45 46.9	5 5.2
	60歳代	144 100.0	77 53.5	45 31.3	66 45.8	18 12.5	19 13.2	75 52.1	67 46.5	28 19.4	26 18.1	46 31.9	62 43.1	5 3.5
	70歳以上	159 100.0	63 39.6	34 21.4	51 32.1	17 10.7	17 10.7	47 29.6	57 35.8	21 13.2	18 11.3	35 22.0	36 22.6	4 2.5
男性	20歳代	35 100.0	20 57.1	13 37.1	8 22.9	8 22.9	4 11.4	16 45.7	19 54.3	9 25.7	13 37.1	17 48.6	13 37.1	3 8.6
	30歳代	87 100.0	48 55.2	57 65.5	28 32.2	22 25.3	15 17.2	47 54.0	48 55.2	19 21.8	33 37.9	30 34.5	31 35.6	3 3.4
	40歳代	104 100.0	41 39.4	32 30.8	24 23.1	21 20.2	8 7.7	55 52.9	59 56.7	20 19.2	26 25.0	32 30.8	35 33.7	8 7.7
	50歳代	81 100.0	22 27.2	17 21.0	34 42.0	16 19.8	5 6.2	40 49.4	49 60.5	10 12.3	8 9.9	19 23.5	22 27.2	4 4.9
	60歳代	156 100.0	37 23.7	27 17.3	45 28.8	20 12.8	6 3.8	86 55.1	78 50.0	17 10.9	18 11.5	19 12.2	33 21.2	3 1.9
	70歳以上	118 100.0	32 27.1	18 15.3	33 28.0	19 16.1	9 7.6	46 39.0	59 50.0	16 13.6	10 8.5	19 16.1	21 17.8	3 2.5

7. 男女の人権について

問23 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。また、これまで次のようなことをされたことがありますか。～ それぞれについてお答えください。(は各項目それぞれに1つ)

認識

【図7-1】DVに対する認識



【性別】

「DVに対する認識」について、男女ともに半数以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識しているものは、「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」、「ものを投げつけられる」、「押したり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」、「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」、「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」、「あなたの意に反して性的な行為を強要される」であり、身体的な暴力である。

ほとんどの項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。特に男性よりも女性の方が高い項目は、「あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる」(11.0ポイント)、「『だれのおかげで、お前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(14.5ポイント)、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(10.4ポイント)である。

男女ともに「暴力の場合とそうでない場合がある」が高いものは、「何を言っても長期間無視される」、「大声でどなられる」である。

「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」、「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」について、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高いが、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が最も高く、性別でDVに対する認識の違いがみられる。

【性・年代別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答者の割合は、女性の40歳代では、他の年代よりもほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、一方70歳以上では最も低い。

男性の20歳代と30歳代では、他の年代よりもほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、一方70歳以上では最も低い。

【表7-1 性・年代別】 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答者の割合

		全体	間 無視される	何 を言っ ても長 期	大 声でど なられ る	あ なたが 大切に してい るもの をわざ と壊し たり捨 てたり され る	あ なたの 交友関 係や電 話を細 かく監 視され たり、 外出を 制限さ れる	あ なたの 交友関 係をい やがら れたり、 禁止さ れる	実 家の親 ・きよ うだ い、友 人との 付き合い をいや がられ たり、 禁止さ れる	勝 手にあ るさ れる	あ なたの お金を取 り上げ たり、 預貯金 を	「だ れのお かげで、 お前は 食べら れるん だ」「か いしょ うな し」な どと言 われる	傷 つける 可能性 のあ るもの で、な ぐるふ りをして 、おど される	げ んこつ や身体 を
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	269 20.8	322 24.9	631 48.9	467 36.2	433 33.5	651 50.4	574 44.5	757 58.6	574 44.5	757 58.6	757 58.6	757 58.6
女性	20歳代	57 100.0	14 24.6	13 22.8	37 64.9	26 45.6	29 50.9	38 66.7	32 56.1	47 82.5	32 56.1	47 82.5	47 82.5	47 82.5
	30歳代	117 100.0	23 19.7	37 31.6	69 59.0	52 44.4	55 47.0	80 68.4	72 61.5	92 78.6	72 61.5	92 78.6	92 78.6	92 78.6
	40歳代	117 100.0	43 36.8	47 40.2	83 70.9	66 56.4	68 58.1	93 79.5	80 68.4	100 85.5	80 68.4	100 85.5	100 85.5	100 85.5
	50歳代	96 100.0	26 27.1	39 40.6	56 58.3	45 46.9	45 46.9	58 60.4	55 57.3	68 70.8	55 57.3	68 70.8	55 57.3	68 70.8
	60歳代	144 100.0	34 23.6	41 28.5	67 46.5	59 41.0	56 38.9	76 52.8	75 52.1	82 56.9	75 52.1	82 56.9	75 52.1	82 56.9
	70歳以上	159 100.0	24 15.1	25 15.7	37 23.3	29 18.2	27 17.0	40 25.2	40 25.2	44 27.7	40 25.2	44 27.7	40 25.2	44 27.7
	男性	20歳代	35 100.0	6 17.1	8 22.9	23 65.7	15 42.9	16 45.7	25 71.4	16 45.7	25 71.4	16 45.7	25 71.4	16 45.7
30歳代		87 100.0	22 25.3	25 28.7	49 56.3	29 33.3	23 26.4	53 60.9	40 46.0	61 70.1	40 46.0	61 70.1	40 46.0	61 70.1
40歳代		104 100.0	15 14.4	27 26.0	66 63.5	39 37.5	36 34.6	54 51.9	46 44.2	71 68.3	46 44.2	71 68.3	46 44.2	71 68.3
50歳代		81 100.0	13 16.0	16 19.8	44 54.3	24 29.6	15 18.5	34 42.0	28 34.6	53 65.4	28 34.6	53 65.4	28 34.6	53 65.4
60歳代		156 100.0	36 23.1	28 17.9	62 39.7	55 35.3	41 26.3	62 39.7	62 39.7	69 44.2	62 39.7	69 44.2	62 39.7	69 44.2
70歳以上		118 100.0	10 8.5	13 11.0	29 24.6	26 22.0	19 16.1	32 27.1	22 18.6	37 31.4	22 18.6	37 31.4	22 18.6	37 31.4

		全体	る もの を投げ つけら れる	押 したり、 つかん だり、 つねた り、こ づいた りされ る	身 体を傷 つける 可 能性 のある もので 、た たかれ る	ど の暴力 をふる われ る	骨 折をし たり、 鼓膜 がやぶ れたり するほ ど	命 の危険 を感じる ほどの 暴行を される	あ なたが 見たく ないの に、ポ ルノビ デオ やポル ノ雑誌 を見せ られる	あ なたが 見たく ないの に、ポ ルノビ デオ やポル ノ雑誌 を見せ られる	避 妊に協 力して く れない	あ なたの 意に反 して性 的な行 為を強 要され る	
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	847 65.6	760 58.9	925 71.6	971 75.2	976 75.6	604 46.8	531 41.1	692 53.6	531 41.1	692 53.6	692 53.6
女性	20歳代	57 100.0	50 87.7	45 78.9	53 93.0	53 93.0	53 93.0	35 61.4	36 63.2	42 73.7	36 63.2	42 73.7	42 73.7
	30歳代	117 100.0	98 83.8	89 76.1	106 90.6	107 91.5	107 91.5	77 65.8	72 61.5	85 72.6	72 61.5	85 72.6	72 61.5
	40歳代	117 100.0	105 89.7	96 82.1	110 94.0	110 94.0	111 94.9	83 70.9	80 68.4	83 70.9	80 68.4	83 70.9	80 68.4
	50歳代	96 100.0	70 72.9	67 69.8	74 77.1	75 78.1	75 78.1	55 57.3	47 49.0	59 61.5	47 49.0	59 61.5	47 49.0
	60歳代	144 100.0	96 66.7	92 63.9	100 69.4	107 74.3	107 74.3	68 47.2	55 38.2	81 56.3	55 38.2	81 56.3	55 38.2
	70歳以上	159 100.0	55 34.6	53 33.3	62 39.0	63 39.6	65 40.9	34 21.4	25 15.7	42 26.4	25 15.7	42 26.4	25 15.7
	男性	20歳代	35 100.0	29 82.9	20 57.1	31 88.6	33 94.3	33 94.3	22 62.9	26 74.3	27 77.1	26 74.3	27 77.1
30歳代		87 100.0	69 79.3	63 72.4	78 89.7	82 94.3	82 94.3	52 59.8	53 60.9	61 70.1	53 60.9	61 70.1	53 60.9
40歳代		104 100.0	79 76.0	66 63.5	86 82.7	96 92.3	95 91.3	50 48.1	52 50.0	66 63.5	52 50.0	66 63.5	52 50.0
50歳代		81 100.0	57 70.4	50 61.7	67 82.7	71 87.7	71 87.7	41 50.6	20 24.7	48 59.3	20 24.7	48 59.3	20 24.7
60歳代		156 100.0	87 55.8	78 50.0	98 62.8	111 71.2	111 71.2	64 41.0	46 29.5	63 40.4	46 29.5	63 40.4	46 29.5
70歳以上		118 100.0	44 37.3	35 29.7	51 43.2	54 45.8	57 48.3	19 16.1	14 11.9	27 22.9	14 11.9	27 22.9	14 11.9

【表7-2 市前回調査との比較】 DVに対する認識

(%)

		女性					男性				
		も暴力にあたると思う	どんな場合でも暴力にあたる	合がある	暴力の場合とそつでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	も暴力にあたると思う	どんな場合でも暴力にあたる	合がある	暴力の場合とそつでない場合がある	暴力にあたるとは思わない
何を言っても長期間無視される	本調査	23.8	40.0	16.4	17.6	49.6	16.7				
	前回調査(豊中市 平成17年)	27.4	40.9	16.8	20.5	49.8	18.5				
大声でどなられる	本調査	29.3	42.2	8.6	20.1	50.3	13.6				
	前回調査(豊中市 平成17年)	26.7	49.2	10.1	21.1	54.7	13.4				
あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	本調査	50.6	21.0	7.8	47.0	26.5	10.0				
	前回調査(豊中市 平成17年)	56.9	21.0	6.7	52.8	27.0	8.3				
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	本調査	40.1	27.7	11.3	32.4	34.3	16.2				
	前回調査(豊中市 平成17年)	45.5	28.5	10.5	38.6	35.8	13.2				
実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	本調査	40.6	25.5	13.2	25.8	39.6	17.6				
	前回調査(豊中市 平成17年)	41.9	28.6	12.7	30.5	38.6	18.1				
あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	本調査	55.8	14.6	8.4	44.8	25.0	12.7				
	前回調査(豊中市 平成17年)	62.2	14.0	7.2	52.8	23.8	10.2				
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	本調査	51.3	19.3	8.8	36.8	33.6	12.2				
	前回調査(豊中市 平成17年)	56.6	20.9	5.5	44.1	33.3	10.0				
げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	本調査	62.8	13.2	3.3	54.4	21.5	6.7				
	前回調査(豊中市 平成17年)	67.9	12.8	2.9	56.9	26.8	3.9				
ものを投げつけられる	本調査	68.7	7.5	3.3	62.8	15.1	4.5				
	前回調査(豊中市 平成17年)	74.9	7.0	2.0	73.8	11.0	3.3				
押したり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	本調査	64.1	11.0	4.6	53.7	24.3	4.8				
	前回調査(豊中市 平成17年)	68.6	12.8	1.8	64.0	20.5	3.9				
身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	本調査	73.2	2.5	3.8	70.7	7.6	4.5				
	前回調査(豊中市 平成17年)	79.4	1.9	2.0	79.9	6.3	1.6				
骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	本調査	74.6	0.6	3.6	76.9	1.2	4.1				
	前回調査(豊中市 平成17年)	81.0	0.6	1.9	83.9	2.0	1.8				
命の危険を感じるほどの暴行をされる	本調査	75.1	0.6	3.5	77.3	1.0	4.0				
	前回調査(豊中市 平成17年)	81.2	0.4	1.9	83.9	1.6	1.8				
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	本調査	51.0	19.6	7.7	42.7	29.1	10.3				
	前回調査(豊中市 平成17年)	50.9	24.1	8.3	44.3	30.1	12.4				
避妊に協力してくれない	本調査	45.7	24.2	8.4	36.3	32.9	12.0				
	前回調査(豊中市 平成17年)	50.2	24.1	8.2	38.6	34.8	12.6				
あなたの意に反して性的な行為を強要される	本調査	56.8	16.5	5.1	50.3	23.1	8.1				
	前回調査(豊中市 平成17年)	64.4	15.2	3.1	56.5	24.6	5.3				

市前回調査(平成17年)と比較すると、女性では「大声でどなられる」、「あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」以外の項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低くなっている。男性では全ての項目について「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低くなっている。

【表7-3 大阪府調査との比較】 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答者の割合
(%)

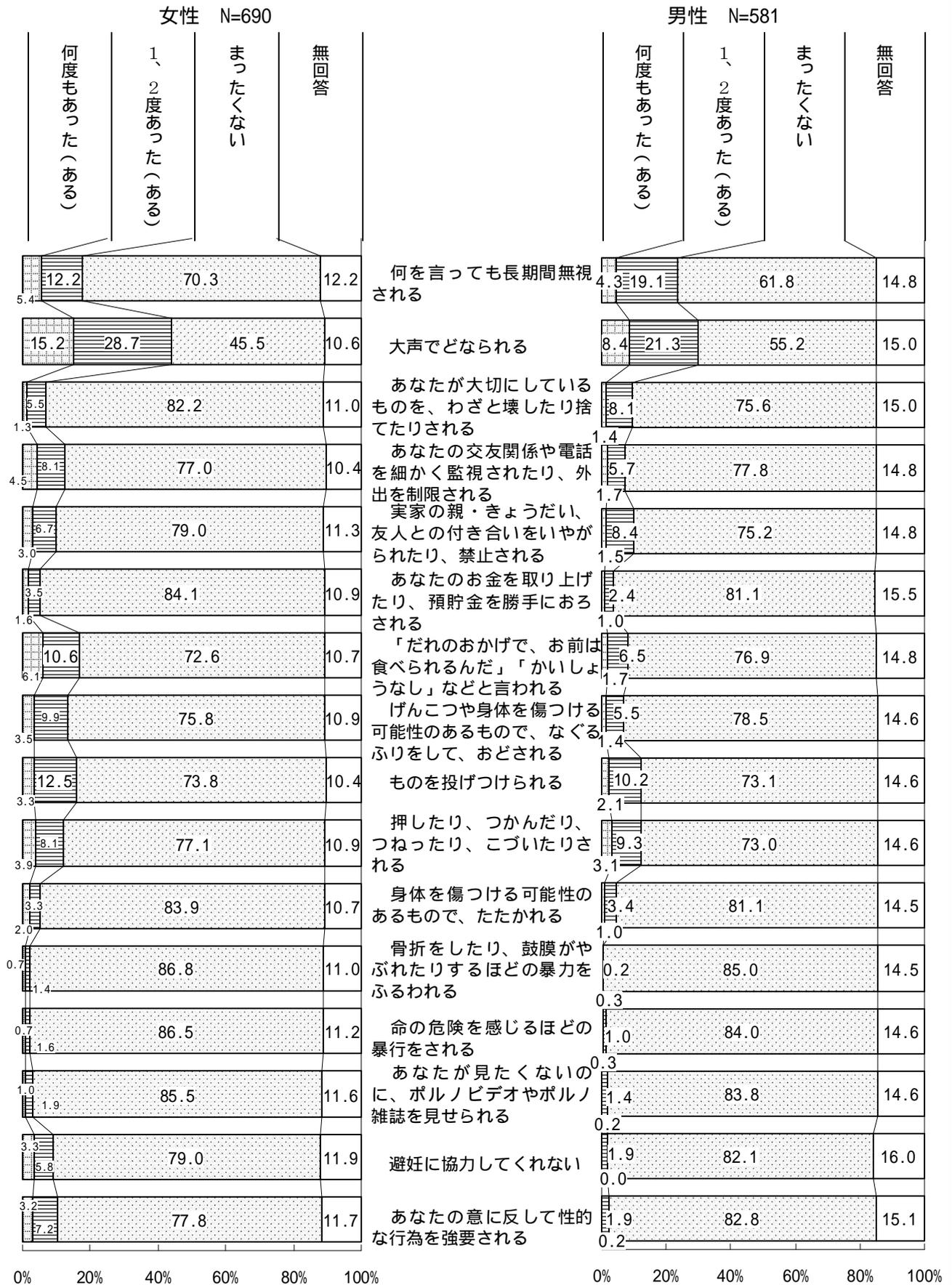
		全体	女性	男性
全体(実数)	本調査	1291	690	581
	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	719	406	312
何を言っても長期間無視される	本調査	20.8	23.8	17.6
何を言っても長期間無視し続ける	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	39.2	38.7	40.1
大声でどなられる	本調査	24.9	29.3	20.1
大声でどなる	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	40.2	45.8	33.0
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	本調査	36.2	40.1	32.4
相手の交友関係や電話を細かく監視する	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	39.9	40.1	39.7
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	本調査	44.5	51.3	36.8
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」とか言う	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	55.6	58.9	51.6
身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	本調査	71.6	73.2	70.7
身体を傷付ける可能性のあるものでなく	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	92.1	91.9	92.3
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	本調査	46.8	51.0	42.7
相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	58.1	58.1	58.3
あなたの意に反して性的な行為を強要される	本調査	53.6	56.8	50.3
相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する	男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 平成16年)	68.7	69.7	67.6

ほぼ同じ内容の項目のみ

「DVに対する認識」については、男女共同参画に関する府民意識調査(平成21年)に本調査に設問がなかったため、平成16年の調査と比較している

大阪府調査(平成16年)と比較すると、男女ともに全ての項目について府調査よりも下回る。

【図7-2】DVの経験



【性別】

「DVの経験」について、「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」を合計した『経験あり』は、男女ともに「大声でどなられる」が最も高く、女性43.9%、男性29.7%である。ついで高いのは、男女ともに「何を言っても長期間無視される」で、女性17.6%、男性23.4%である。

以下は性別によって『経験あり』の順位は大きく異なる。

女性では、「『だれのおかげで、お前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(16.7%)、「ものを投げつけられる」(15.8%)、「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」(13.4%)、「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」(12.6%)、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(12.0%)、「あなたの意に反して性的な行為を強要される」(10.4%)が10%以上の経験がある。

「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」、「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」を『経験あり』と回答している女性がそれぞれ5.3%(37人)、2.1%(15人)、2.3%(16人)いる。

男性では、「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(12.4%)、「ものを投げつけられる」(12.3%)が10%以上の経験がある。男性よりも女性の方が、様々な暴力を多く経験している。

【性・年代別】

「何度もあった(ある)・1、2度あった(ある)」の合計は、女性では、20歳代で「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」の割合が年代間で最も多く、「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」は、60歳代が最も高い。

男性では、ほとんどの項目で40歳代が最も高い。

【表7-4 性・年代別】 何度もあった(ある)・1、2度あった(ある)の合計

		全体	間無視される 何を言っても長期	大声でとられる	あなたが大切にしているものをわざと壊したり捨てたりされる	あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	あなたの親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	実家の親・きょうだい、友人との付き合いを勝手におろされる	あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などと言われる	「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などと言われる	「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などと言われる
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	260 20.1	482 37.3	103 8.0	131 10.2	128 9.9	55 4.2	165 12.8	135 10.5		
女性	20 歳代	57 100.0	6 10.6	22 38.6	3 5.3	10 17.5	6 10.6	0 0.0	5 8.8	6 10.5		
	30 歳代	117 100.0	19 16.2	56 47.8	6 5.1	16 13.7	10 8.6	4 3.5	24 20.5	15 12.8		
	40 歳代	117 100.0	16 13.7	57 48.7	5 4.3	17 14.6	14 11.9	10 8.5	23 19.7	13 11.1		
	50 歳代	96 100.0	19 19.8	47 49.0	9 9.3	12 12.5	7 7.3	6 6.3	17 17.7	15 15.7		
	60 歳代	144 100.0	32 22.3	67 46.5	10 7.0	16 11.1	15 10.4	8 5.6	26 18.0	23 16.0		
	70 歳以上	159 100.0	29 18.2	54 34.0	14 8.8	16 10.1	15 9.4	7 4.4	20 12.5	20 12.6		
男性	20 歳代	35 100.0	6 17.1	7 20.0	4 11.4	4 11.4	1 2.9	0 0.0	3 8.6	4 11.5		
	30 歳代	87 100.0	15 17.2	21 24.1	9 10.3	8 9.1	8 9.2	2 2.2	6 6.9	5 5.7		
	40 歳代	104 100.0	33 31.7	42 40.4	9 8.7	14 13.5	13 12.5	7 6.8	16 15.4	7 6.7		
	50 歳代	81 100.0	25 30.9	31 38.2	6 7.4	2 2.5	8 9.9	3 3.7	6 7.4	5 6.2		
	60 歳代	156 100.0	34 21.8	40 25.7	11 7.0	12 7.7	18 11.5	3 1.9	8 5.1	8 5.1		
	70 歳以上	118 100.0	23 19.5	32 27.1	16 13.5	3 2.5	10 8.5	5 4.2	9 7.6	11 9.3		

		全体	ものを投げつけられる	押しついたり、つかんだり、つねついたり、こづいたりされる	身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	命の危険を感じるほどの暴行をされる	あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	避妊に協力してくれない	あなたの意に反して性的な行為を強要される
全体	上段/実数 下段/%	1291 100.0	183 14.2	158 12.3	63 4.8	19 1.4	24 1.8	29 2.2	75 5.9	85 6.6
女性	20 歳代	57 100.0	7 12.3	9 15.8	5 8.8	0 0.0	0 0.0	3 5.3	6 10.6	7 12.3
	30 歳代	117 100.0	15 12.8	17 14.6	7 6.0	3 2.6	4 3.5	3 2.6	14 12.0	14 11.9
	40 歳代	117 100.0	13 11.1	17 14.5	4 3.4	2 1.8	3 2.6	5 4.3	10 8.5	10 8.6
	50 歳代	96 100.0	17 17.7	11 11.5	5 5.2	3 3.1	3 3.1	2 2.1	4 4.2	12 12.5
	60 歳代	144 100.0	27 18.8	19 13.2	11 7.7	7 4.9	6 4.2	4 2.8	13 9.1	15 10.4
	70 歳以上	159 100.0	30 18.8	10 6.3	5 3.1	0 0.0	0 0.0	3 1.9	16 10.1	14 8.8
男性	20 歳代	35 100.0	4 11.5	6 17.1	1 2.9	0 0.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30 歳代	87 100.0	9 10.3	10 11.4	3 3.4	0 0.0	2 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40 歳代	104 100.0	20 19.2	22 21.1	10 9.6	2 2.0	2 1.9	1 1.0	2 1.9	5 4.8
	50 歳代	81 100.0	7 8.7	10 12.3	3 3.7	1 1.2	0 0.0	0 0.0	2 2.5	2 2.5
	60 歳代	156 100.0	16 10.3	9 5.7	3 1.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3	3 1.9	4 2.6
	70 歳以上	118 100.0	15 12.7	15 12.7	6 5.0	0 0.0	3 2.5	6 5.0	4 3.4	1 0.8

【表7-5 市前回調査との比較】 DVの経験

(%)

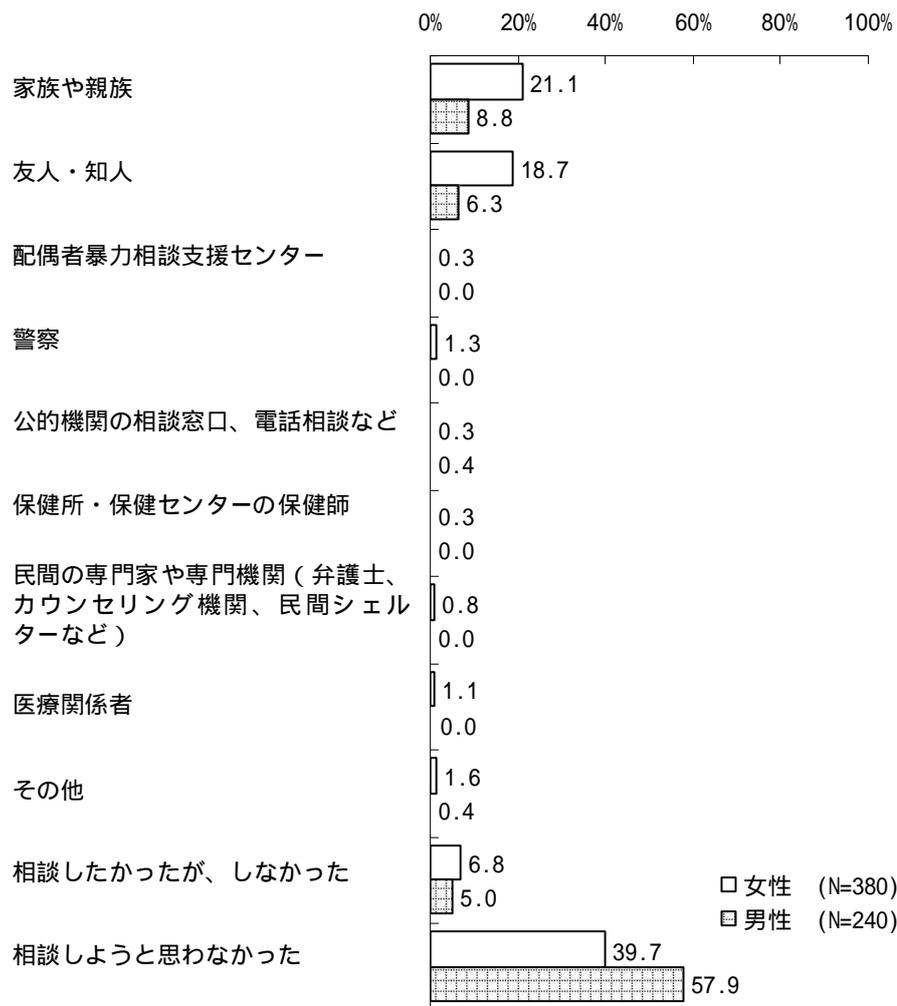
本調査 女性N=690 男性N=581
 前回調査 女性N=620 男性N=437

		女性			男性		
		何度もあった(ある)	1、2度あった(ある)	まったくない	何度もあった(ある)	1、2度あった(ある)	まったくない
何を言っても長期間無視される	本調査	5.4	12.2	70.3	4.3	19.1	61.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	5.2	17.1	65.2	6.4	25.6	56.5
大声でどなられる	本調査	15.2	28.7	45.5	8.4	21.3	55.2
	前回調査(豊中市 平成17年)	12.7	30.0	46.3	9.2	28.4	51.0
あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	本調査	1.3	5.5	82.2	1.4	8.1	75.6
	前回調査(豊中市 平成17年)	2.3	7.1	78.2	2.1	8.7	76.2
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	本調査	4.5	8.1	77.0	1.7	5.7	77.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	5.2	10.2	72.1	1.6	7.6	78.5
実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	本調査	3.0	6.7	79.0	1.5	8.4	75.2
	前回調査(豊中市 平成17年)	3.2	9.5	75.0	2.3	8.5	77.1
あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	本調査	1.6	3.5	84.1	1.0	2.4	81.1
	前回調査(豊中市 平成17年)	1.5	4.2	82.1	2.3	3.0	82.2
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	本調査	6.1	10.6	72.6	1.7	6.5	76.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	4.2	9.0	74.2	2.7	8.2	76.7
げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	本調査	3.5	9.9	75.8	1.4	5.5	78.5
	前回調査(豊中市 平成17年)	3.2	9.2	75.2	1.4	7.3	78.5
ものを投げつけられる	本調査	3.3	12.5	73.8	2.1	10.2	73.1
	前回調査(豊中市 平成17年)	3.1	10.0	75.0	1.6	14.2	71.9
押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	本調査	3.9	8.1	77.1	3.1	9.3	73.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	2.9	8.9	76.0	3.0	11.4	72.8
身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	本調査	2.0	3.3	83.9	1.0	3.4	81.1
	前回調査(豊中市 平成17年)	2.3	3.2	81.9	0.9	3.2	82.8
骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	本調査	0.7	1.4	86.8	0.3	0.2	85.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	1.3	1.3	84.5	0.2	0.7	86.0
命の危険を感じるほどの暴行をされる	本調査	0.7	1.6	86.5	0.3	1.0	84.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	1.5	1.8	84.2	0.2	0.5	86.0
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	本調査	1.0	1.9	85.5	0.2	1.4	83.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	0.8	7.6	79.2	0.7	3.4	82.4
避妊に協力してくれない	本調査	3.3	5.8	79.0	-	1.9	82.1
	前回調査(豊中市 平成17年)	3.2	9.2	74.8	-	3.9	81.7
あなたの意に反して性的な行為を強要される	本調査	3.2	7.2	77.8	0.2	1.9	82.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	5.3	12.1	70.0	1.1	3.9	81.0

市前回調査(平成17年)と比較すると、男女ともに「何度もあった(ある)」の割合にはほとんど差がない。

問2 4 「配偶者・パートナー・恋人」からの行為について、だれかに相談しましたか。
(はいいくつでも)

【図7-3】DVの相談状況



【性別】

DVの項目について『経験あり』と回答した人のうち、「相談しようと思わなかった」人は女性39.7%、男性57.9%である。

相談した人の相談先についてみると、「家族や親族」が最も高い(女性21.1%、男性8.8%)。次に「友人・知人」が女性18.7%、男性6.3%が続いている。「相談したかったが、しなかった」と回答している人は女性6.8%、男性5.0%である。

【表7 - 6 市前回調査との比較】 DVの相談状況

(%)

		全体	女性	男性
全体(実数)	本調査	631	380	240
	前回調査(豊中市 平成17年)	583	351	227
家族や親族 親族	本調査	16.2	21.1	8.8
	前回調査(豊中市 平成17年)	16.0	20.2	9.7
友人・知人	本調査	13.8	18.7	6.3
	前回調査(豊中市 平成17年)	23.8	29.6	15.4
警察	本調査	0.8	1.3	-
	前回調査(豊中市 平成17年)	0.7	0.9	0.4
公的機関の相談窓口、電話相談など	本調査	0.3	0.3	0.4
	前回調査(豊中市 平成17年)	1.0	0.9	1.3
医療関係者 医師、カウンセラーなど	本調査	0.6	1.1	-
	前回調査(豊中市 平成17年)	2.4	2.3	2.6
保健所・保健センターの保健師	本調査	0.2	0.3	-
	前回調査(豊中市 平成17年)	0.2	-	0.4
その他	本調査	1.1	1.6	0.4
	前回調査(豊中市 平成17年)	0.3	0.3	0.4
相談したかったが、しなかった	本調査	6.2	6.8	5.0
	前回調査(豊中市 平成17年)	6.7	8.3	4.4
相談しようと思わなかった	本調査	46.6	39.7	57.9
	前回調査(豊中市 平成17年)	51.3	44.2	63.0

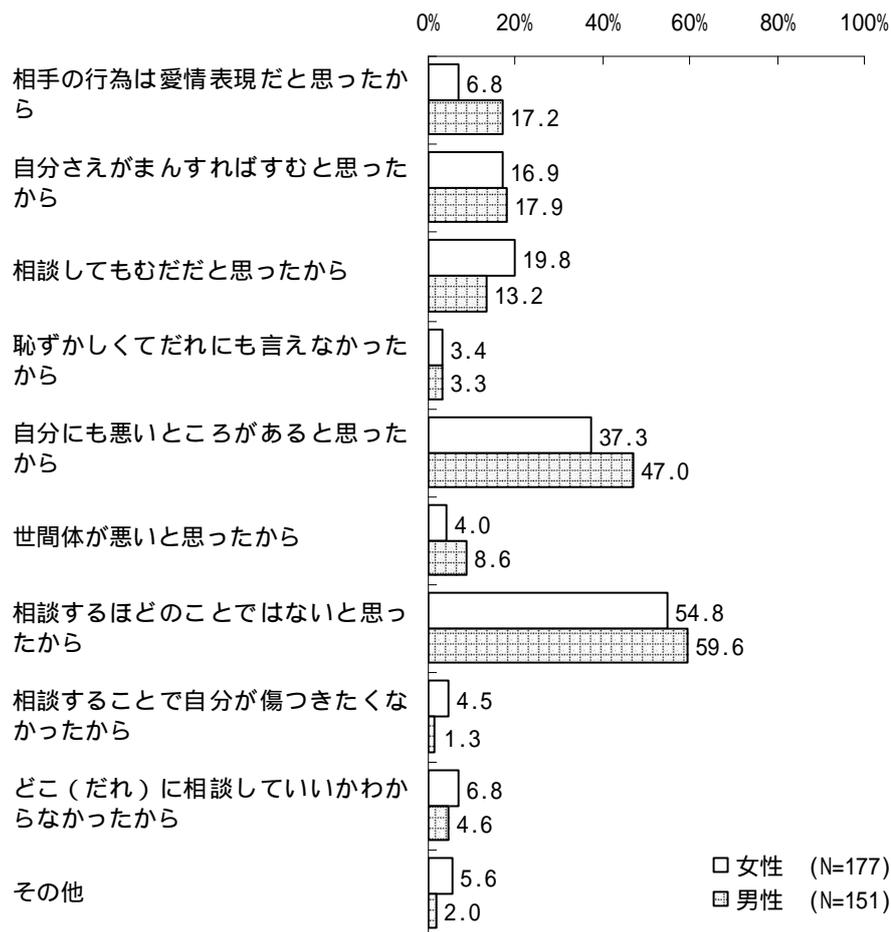
ほぼ同じ内容の項目のみ

市前回調査(平成17年)と比較すると、男女とも「相談しようと思わなかった」が低くなっている。

女性では「家族や親族」、「警察」が高くなり、男女とも「友人・知人」、「公的機関の相談窓口、電話相談」、「医療関係者」が低くなっている。

問25 あなたは、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(はいくつでも)

【図7-4】相談しなかった理由



【性別】

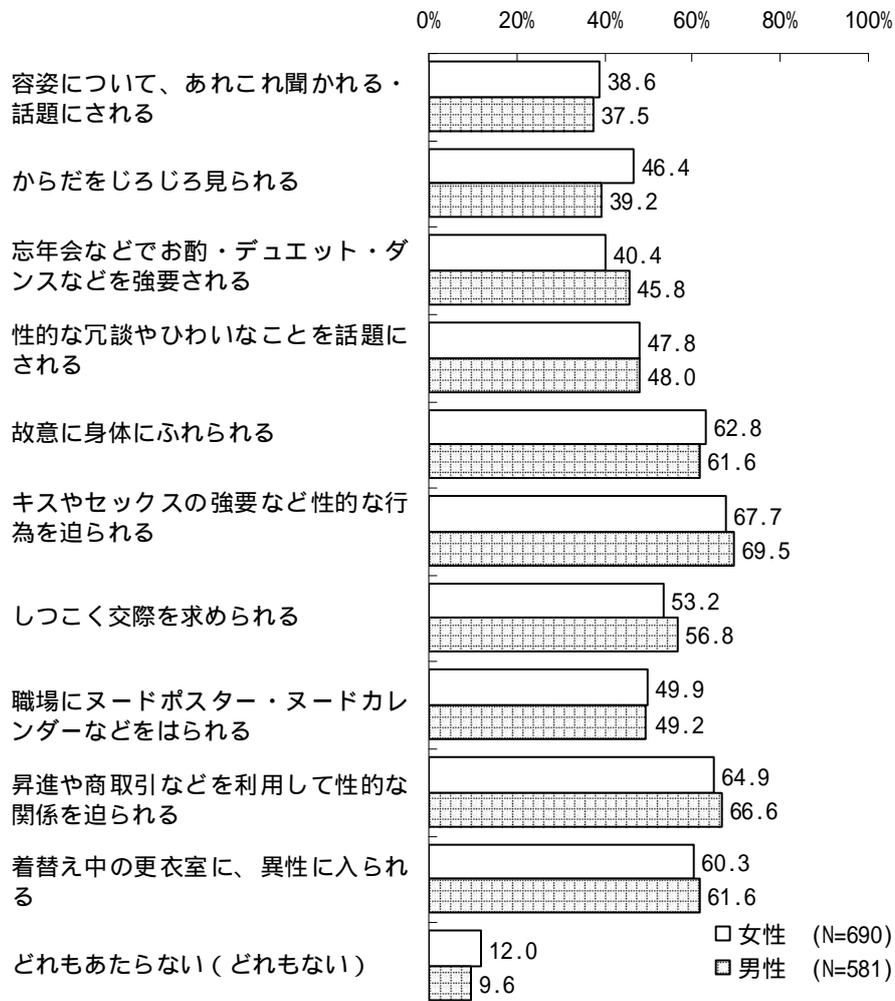
「相談しなかった、しようと思わなかった」理由について、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、半数を超え(女性 54.8%、男性 59.6%)、ついで「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性 37.3%、男性 47.0%)が続く。

性別で差がみられるのは、「相手の行為は愛情表現だと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」で男性の方がそれぞれ 10.4 ポイント、9.7 ポイント高く、「相談してもむだだと思ったから」は女性の方が 6.6 ポイント高い。

問26 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）にあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。（はいいくつでも）

セクシュアル・ハラスメントにあたると思う

【図7-5】セクシュアル・ハラスメントの認識



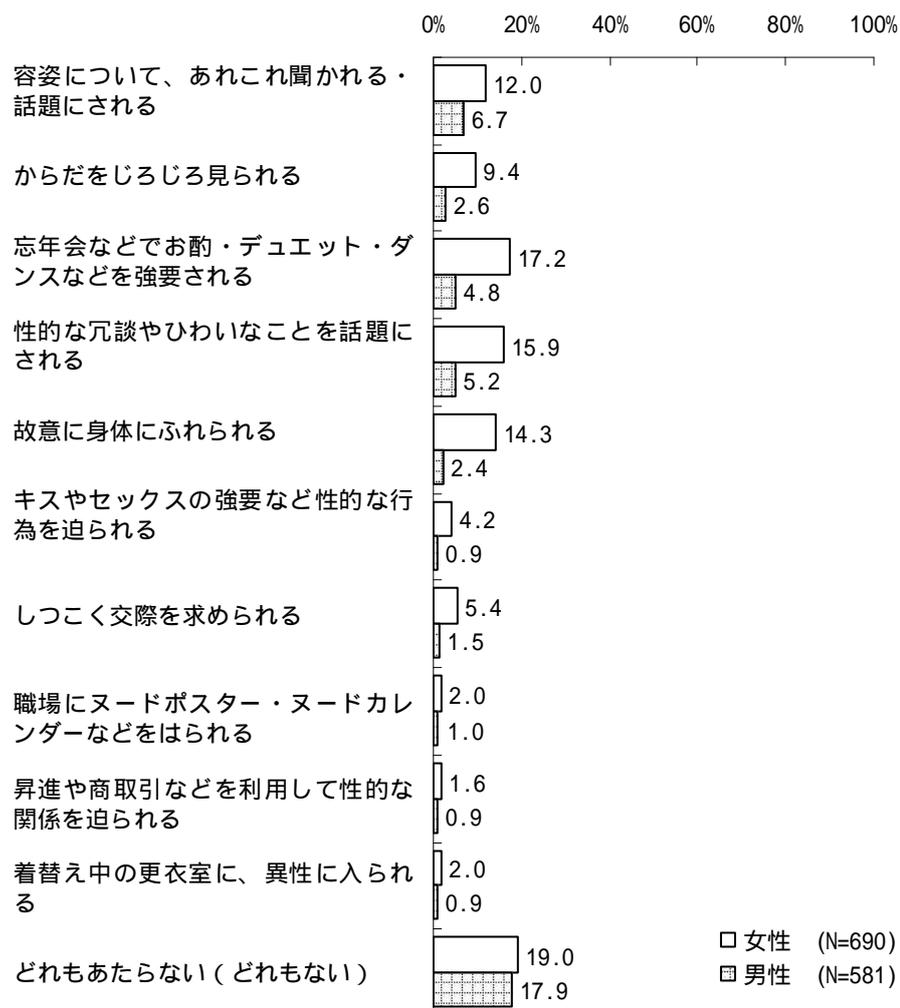
【性別】

「セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうか」について、男女ともに「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」、「故意に身体にふれられる」、「着替え中の更衣室に、異性に入られる」の項目を、60%以上がセクシュアル・ハラスメントにあたるとしている。

性別で差がみられるのは、「からだをじろじろ見られる」で、女性が男性よりも7.2ポイント高い。一方「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」では、男性が女性よりも5.4ポイント高い。

職場でされたことがある

【図7-6】セクシュアル・ハラスメントの経験 / 職場

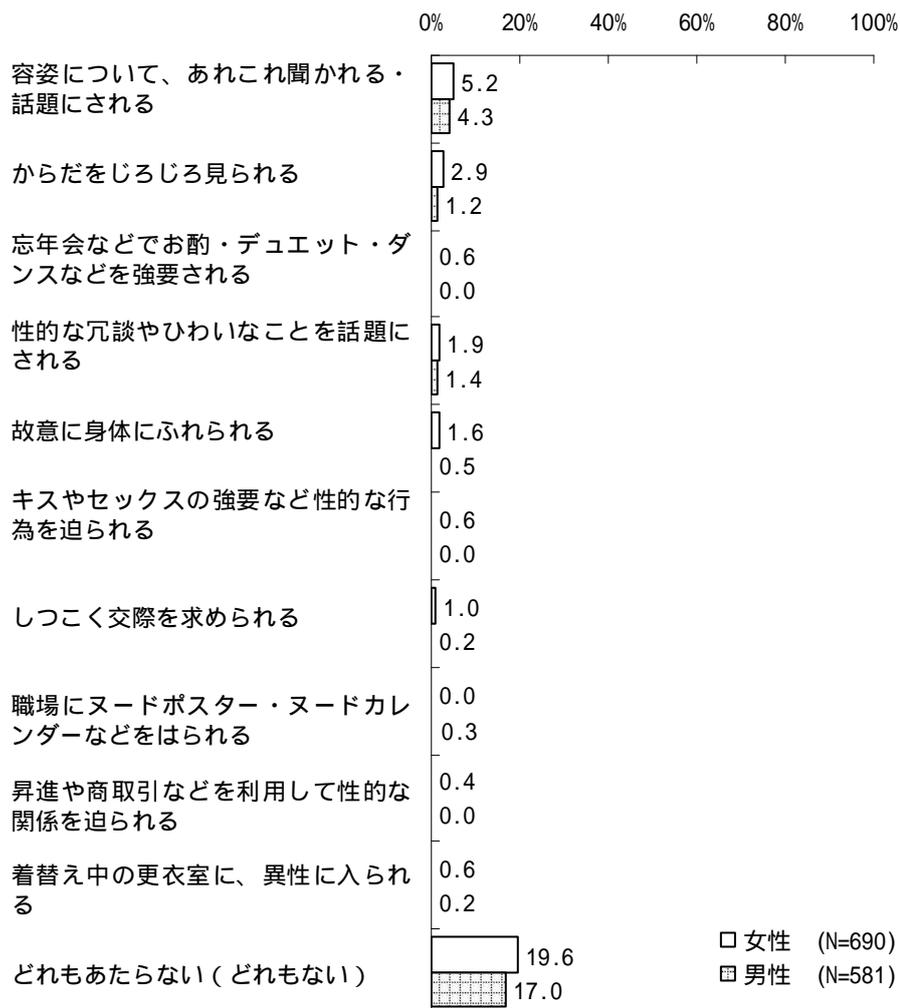


【性別】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が17.2%で最も高い。ついで「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(15.9%)、「故意に身体にふれられる」(14.3%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(12.0%)である。男性では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が6.7%で最も高いが、いずれの項目も10%に満たない。

学校でされたことがある

【図7-7】セクシュアル・ハラスメントの経験 / 学校

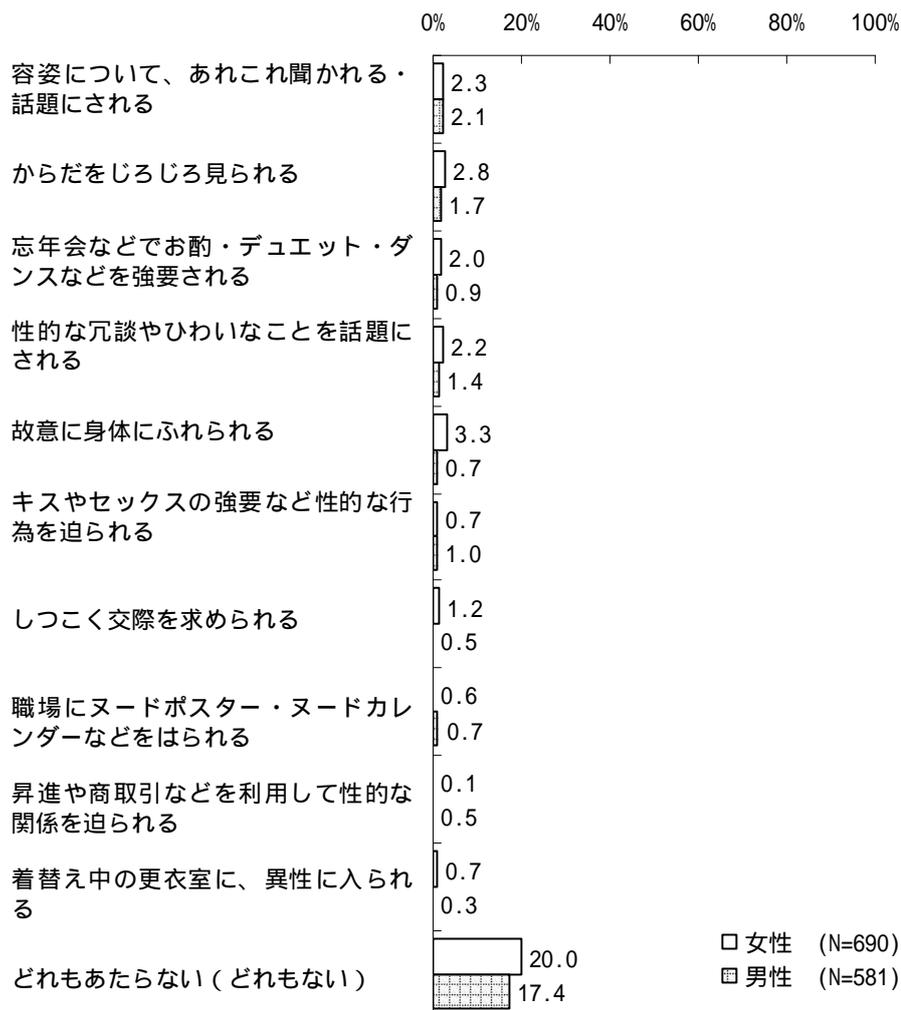


【性別】

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女とも少ないが「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が男女ともに最も高く、女性は5.2%、男性は4.3%となっている。

地域でされたことがある

【図7 - 8】セクシュアル・ハラスメントの経験 / 地域



【性別】

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性は「故意に身体にふれられる」が最も高く3.3%、男性は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く2.1%である。

【表7-7 市前回調査との比較】 セクシュアル・ハラスメントの認識/経験

(%)

セクシュアル・ハラスメントにあたると思う		本調査 前回調査	女性N=690 女性N=685	男性N=581 男性N=492	職場でされたこと		学校でされたこと		地域でされたこと	
					女性	男性	女性	男性	女性	男性
38.6	37.5				12.0	6.7	5.2	4.3	2.3	2.1
32.8	30.7				19.4	9.3	7.4	5.5	5.1	2.8
46.4	39.2				9.4	2.6	2.9	1.2	2.8	1.7
42.9	31.1				8.5	2.8	2.0	1.8	4.2	2.0
40.4	45.8				17.2	4.8	0.6	-	2.0	0.9
42.3	41.7				20.4	5.7	0.3	0.8	1.3	1.8
47.8	48.0				15.9	5.2	1.9	1.4	2.2	1.4
45.4	44.5				18.1	4.9	1.6	1.4	2.2	1.0
62.8	61.6				14.3	2.4	1.6	0.5	3.3	0.7
58.7	51.0				14.5	2.8	1.6	0.4	3.1	1.0
67.7	69.5				4.2	0.9	0.6	-	0.7	1.0
62.8	57.3				2.2	0.2	0.1	-	0.6	0.4
53.2	56.8				5.4	1.5	1.0	0.2	1.2	0.5
47.4	43.9				3.6	0.6	0.9	0.4	1.9	0.4
49.9	49.2				2.0	1.0	-	0.3	0.6	0.7
42.5	38.6				3.1	2.4	-	0.4	0.3	0.2
64.9	66.6				1.6	0.9	0.4	-	0.1	0.5
61.2	54.3				0.3	0.2	-	-	0.1	0.2
60.3	61.6				2.0	0.9	0.6	0.2	0.7	0.3
52.3	47.0				1.6	0.6	0.9	0.6	0.1	0.2
12.0	9.6				19.0	17.9	19.6	17.0	20.0	17.4
15.8	16.1				21.2	25.6	23.5	25.8	24.1	26.6

上段：本調査結果 下段：市前回調査（豊中市 平成17年）

市前回調査（平成17年）と比較すると、男女ともにほとんどの項目について「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」との認識が増している。特に女性よりも、男性の方がその割合が高くなっている。

「職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験」について、男女ともに増加しているのは、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「しつこく交際を求められる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」、「着替え中の更衣室に、異性に入られる」である。

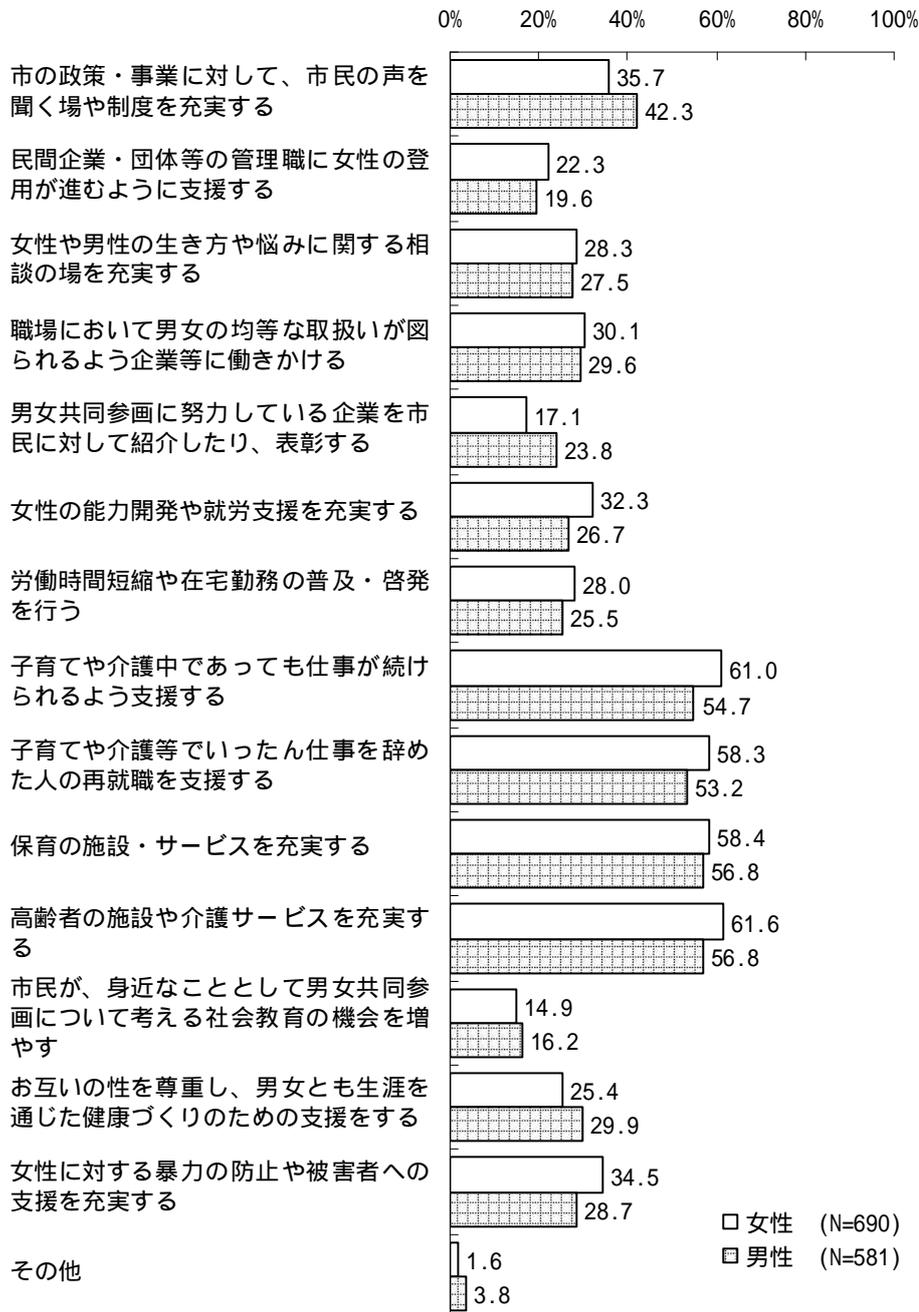
「学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験」について、女性で増加しているのは、「からだをじろじろ見られる」、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「しつこく交際を求められる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」である。男性で増加しているのは、「故意に身体にふれられる」である。

「地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験」について、男女ともに増加しているのは、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどはられる」、「着替え中の更衣室に、異性に入られる」である。

8 . 男女共同参画社会の実現について

問 27 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(はいいくつでも)

【図8 - 1】市が力を入れていくべきこと



【性別】

「市が今後力を入れていくべきこと」について、女性では「高齢者の施設や介護サービスを充実する」が61.6%と最も高く、ついで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(61.0%)、「保育の施設・サービスを充実する」(58.4%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(58.3%)と続く。男性では、「保育の施設・サービスを充実する」と「高齢者の施設や介護サービスを充実する」がそれぞれ56.8%と最も高く、ついで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(54.7%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(53.2%)と続く。

女性よりも男性の方が高い項目は、「男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり、表彰する」(6.7ポイント)「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実する」(6.6ポイント)である。男性よりも女性の方が高い項目は、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」で6.3ポイント高い。

【表8 - 1 大阪府調査 / 世論調査との比較】 行政が力を入れていくべきこと (%)

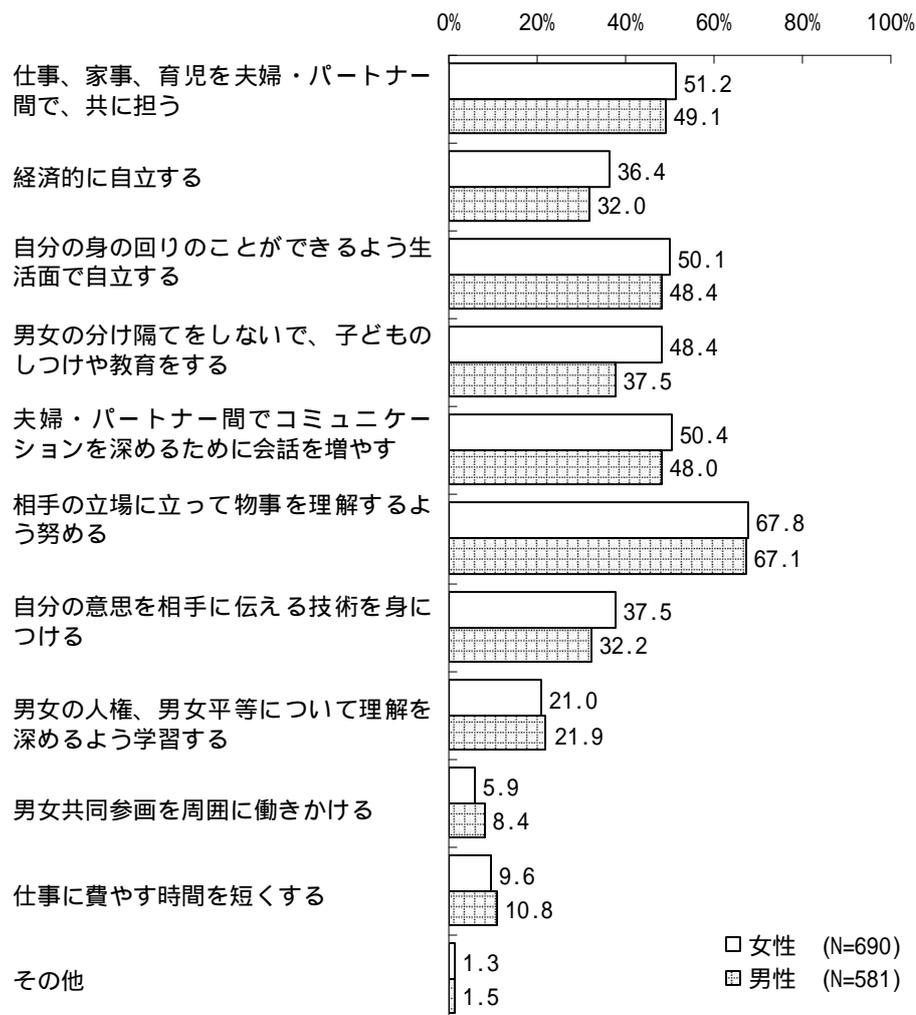
		女性	男性
全体(実数)	本調査	690	581
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	382	298
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	1706	1412
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	本調査	22.3	19.6
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	25.1	21.1
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	39.5	40.3
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	本調査	28.3	27.5
男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	20.4	22.1
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	28.7	30.7
職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける	本調査	30.1	29.6
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	34.0	26.2
労働時間の短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	本調査	28.0	25.5
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	49.0	44.3
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	本調査	61.0	54.7
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	58.9	48.3
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	66.8	59.3
子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	本調査	58.3	53.2
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	54.7	52.7
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	67.2	60.9
保育の施設・サービスを充実する 高齢者の施設や介護サービスを充実する	本調査	58.4	56.8
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	61.6	56.8
育児や介護のための施設やサービスを充実する 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	56.3	44.6
	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	69.1	55.5
市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する	本調査	14.9	16.2
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	18.6	16.4
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	男女共同参画社会に関する 世論調査(内閣府 平成21年)	25.4	28.1
お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする 妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する	本調査	25.4	29.9
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	22.5	14.8
女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実する 女性に対する暴力(セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力)の防止や被害者への支援を充実する	本調査	34.5	28.7
	男女共同参画に関する府民意識調査 (大阪府 平成21年)	33.0	23.5

大阪府調査、世論調査ともに「その他」「特になし」は省略している
大阪府調査「無回答」と世論調査の「わからない」は省略している

大阪府調査（平成 21 年）・世論調査（平成 21 年）と比較すると、男女ともに「お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする」、「女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実する」について大阪府調査・世論調査を上回る。男性では、「保育の施設・サービスを充実する」、「高齢者の施設や介護サービスを充実する」、「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」について大阪府調査・世論調査を上回る。

問 28 男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会をつくるために、あなたご自身は何ができると思いますか。(はいいくつでも)

【図 8 - 2】自分自身ができること



【性別】

「自分自身に何ができるか」について、男女とも「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」が最も高く 60%を超える。女性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」(51.2%)、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(50.4%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(50.1%)、「男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする」(48.4%)と続く。男性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」(49.1%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(48.4%)、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(48.0%)、「男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする」(37.5%)と続く。

性別によって差がみられるものは、「男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする」(10.9 ポイント)、「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」(5.3 ポイント)で、女性の方が男性より高くなっている。

【表 8 - 2 市前回調査との比較】 自分自身ができること

(%)

		全体	女性	男性
全体(実数)	本調査	1291	690	581
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	1195	685	492
仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う	本調査	50.1	51.2	49.1
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	55.5	56.9	54.7
経済的に自立する	本調査	34.2	36.4	32.0
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	35.0	39.7	29.5
自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する	本調査	49.3	50.1	48.4
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	61.3	62.3	61.4
男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする	本調査	43.1	48.4	37.5
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	52.2	56.6	47.2
家庭における子どものしつけや教育で男女の分け隔てをしない	本調査	49.0	50.4	48.0
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	60.4	61.0	60.8
夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす	本調査	49.0	50.4	48.0
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	60.4	61.0	60.8
相手の立場に立って物事を理解するよう努める	本調査	67.1	67.8	67.1
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	73.0	77.2	68.9
自分の意思を相手に伝える技術を身につける	本調査	34.9	37.5	32.2
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	43.2	46.9	38.8
男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する	本調査	21.2	21.0	21.9
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	30.0	29.1	32.1
男女共同参画を周囲に働きかける	本調査	7.2	5.9	8.4
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	10.7	9.5	12.6
仕事に費やす時間を短くする	本調査	10.1	9.6	10.8
	前回調査(豊中市 平成 17 年)	10.5	9.5	12.2

ほぼ同じ内容の項目のみ
 本調査結果、市前回調査ともに「その他」は省略している
 市前回調査「特にない」「男女共同参画社会になっているので、現状のままでよい」は省略している

市前回調査(平成 17 年)と比較すると、女性では「仕事に費やす時間を短くする」、男性では「経済的に自立する」のみが上回り、その他の項目において下回っている。特に低くなったものは、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(女性 12.2 ポイント、男性 13.0 ポイント)である。

・調査結果からみた課題

はじめに

豊中市は、2003年に「豊中市男女共同参画推進条例」、「豊中市男女共同参画計画」(以下、「計画」)を制定し、「計画」では、「政策・方針の決定過程への女性の参画拡大」など6つの基本目標を掲げている。そこで第一章では、そのなかの「就業における男女共同参画の推進」に焦点を当て、就業に関する調査項目を中心に、市民の労働の実態と意識、および今後の行政の課題を探っていききたい。

最初に、「計画」策定以降、市がどのような取り組みを実施してきたかを、「中間見直しの考え方」(「計画」(中間見直し))に示されている見直し視点のひとつである「地域社会の環境整備」から確認しておく。

市の雇用就労施策は、地域経済振興室による取り組み、および福祉や子育て支援などの関係分野における支援として行われている。具体的な施策としては、2003年に地域就労支援事業、2006年に無料職業紹介事業を開始し、さらに、2008年には「豊中市雇用・就労施策推進プラン」を策定するなど、早くから地域と連携した就業支援を実施してきた。また、「女性の就業支援の充実」として、「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」(以下「すてっぷ」)を中心に、女性の技術・資格取得支援、女性の自立支援などの講座を開催し、2009年には、「すてっぷ」内に就労支援情報コーナーを開設するなど、女性に対する就業支援体制の充実を図っている。特に、地域就労支援事業の相談件数は1400件(2007年度実績)を超え、2003年度のほぼ7倍と大きく増加した。

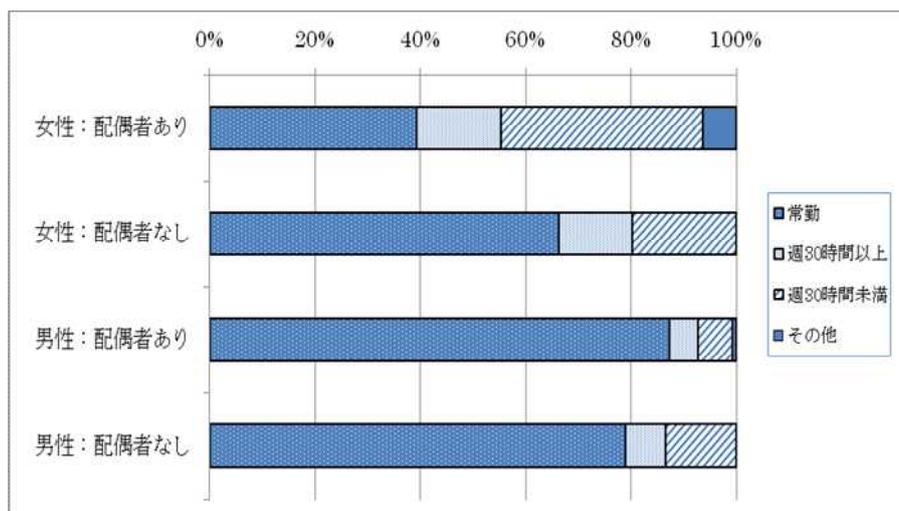
加えて、市は仕事と子育ての両立支援として、公立保育所だけでなく、家庭保育所や幼保連携型認定こども園「あけぼのっこ保育園」など、両立を支えるための多様な保育サービスを提供している。

このような施策を踏まえたうえで、「収入を得る仕事」としての労働の実態と意識をみていきたい。

<現状>

最初に、問5「職業」から就業形態をみると、「雇用者」と回答した割合が女性、男性ともに最も高い。しかし、配偶者・パートナー(以下「配偶者」)をもつことによって、女性「雇用者」の形態に変化が見られる(図表1)。

図表1 「配偶者・パートナーの有無による雇用状況」



配偶者の有無	常勤	週 30 時間以上	週 30 時間未満	その他
女性：配偶者あり N=125	39.2%	16.0%	38.4%	6.4%
女性：配偶者なし N=86	66.3%	14.0%	19.8%	0.0%
男性：配偶者あり N=241	87.1%	5.4%	6.6%	0.8%
男性：配偶者なし N=52	78.8%	7.7%	13.5%	0.0%

注) 週 30 時間以上：「パートタイム (週 30 時間以上)」、週 30 時間未満：「パートタイム (週 30 時間未満)」

注) 無回答は除く

つまり、男性雇用者は、配偶者の有無に関わらず、「常勤」の割合が高いが、女性雇用者は、配偶者をもつことにより「常勤」の割合が減少し、「パートタイム (週 30 時間未満)」が増加している。このような雇用形態の変化が生じるのは、現在の「常勤」という働き方が、仕事と家庭生活とを両立するためには、難しいと言えるからかもしれない。雇用者における「パートタイム (週 30 時間以上・週 30 時間未満)」の占める割合の増加傾向は、60 歳代以上の男性雇用者にも見られる。

次に、問 17「仕事に要する時間 (平日)」を見ると、女性は、就業形態の多様化に伴い労働時間も幅広く分布している。また、問 18「希望する暮らし方」では、年代にかかわらず複数の活動を希望していることがわかる。一方男性は、回答者の約 4 割が 1 日 10 時間以上働いている。特に、30 歳代、40 歳代の 3 割以上が 1 日「12 時間以上」仕事をしており、長時間労働の現状がうかがえる。しかしながら、問 18「希望する暮らし方」項目を、「仕事」を優先したい」と回答している割合は 7.6%にとどまり、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の 32.2%とはかけ離れている。特に、20 歳代から 50 歳代の男性は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した割合が最も高く、男性が育児などの家庭生活を担える環境整備が、今後とも重要課題と考えられる。

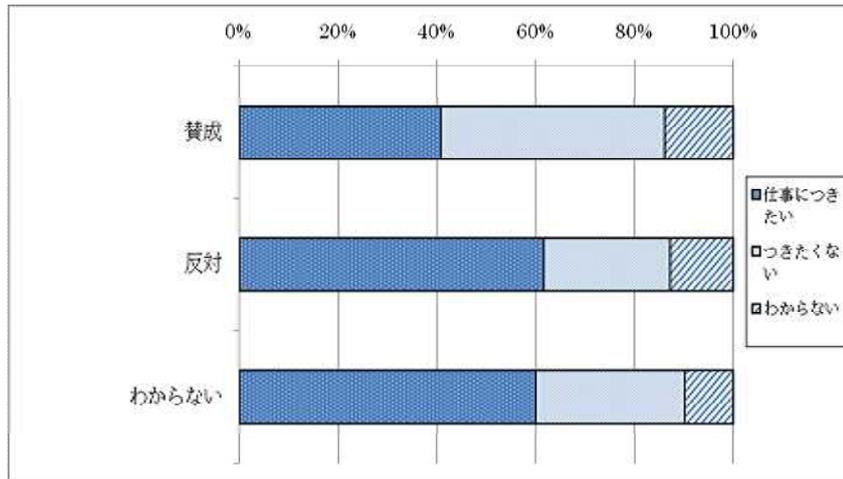
<今後、仕事につきたいと思いますか>

まず、市民の就労意欲をみると、問 20「働いていない」理由として、「働きたくない」と回答している割合は、わずか 1%であり市民の就労意欲の高さがうかがえる。

女性の回答を見ると、問 20「働いていない」理由として「家事や育児をしている」をあげている割合が最も高いのは 20 歳代から 50 歳代である。しかし、そのうち 20 歳代から 40 歳代では 6 割以上が、問 21「就労の希望」の質問に「仕事につきたい(「ぜひ、仕事につきたい」+「できれば、仕事につきたい)」と回答している。

また、「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分担意識と、問 21「就労の希望」の関係をみると、性別役割分担に『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)と回答している女性の 61.5%が「仕事につきたい」と回答しており、就労意欲の高さがうかがえる。一方、『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)と回答している女性のうち 40.8%が「仕事につきたい」と回答しており、性別役割分担に「賛成」している女性の就労意欲が低いとは言えないだろう(図表 2)。

図表2 「性別役割分担意識と就労意欲」(現在「収入を得る仕事をしていない」女性回答者)

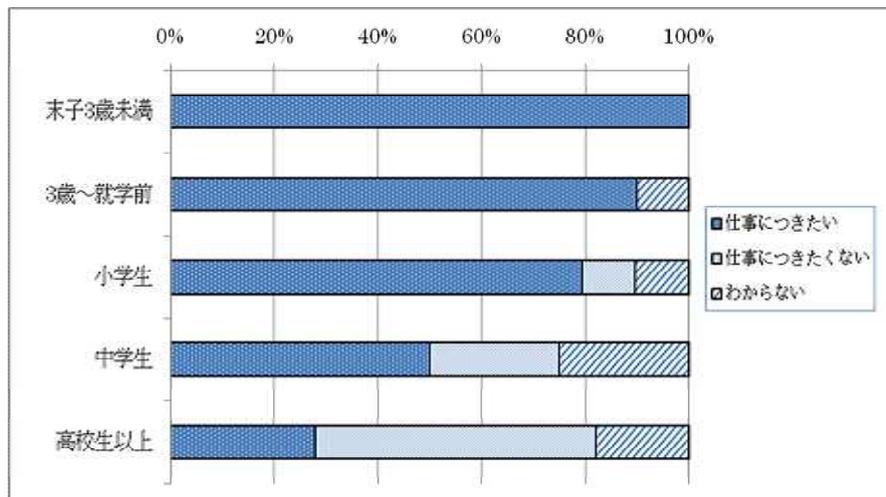


性別役割分担意識	仕事につきたい	仕事につきたくない	わからない
賛成 N=184	40.8%	45.1%	14.1%
反対 N=78	61.5%	25.6%	12.8%
わからない N=10	60.0%	30.0%	10.0%

注) 無回答は除く

特に、図表3に示すように、末子3歳未満の子どもをもつすべての女性が、今後仕事につきたいと考えており、末子が小学生の子どもをもつ回答者までを含み、就労意欲の高いことがうかがえる。このように考えている一方で、問21-1「仕事につく上での不安」として、20歳代、30歳代の女性のほぼ3割が、「保育所・園、学童保育などを利用できるか」をあげている。したがって、保育所の一層の充実が必要であろう。

図表3 「女性の就労意欲と末子年齢」(現在「収入を得る仕事をしていない」女性回答者)



末子年齢	仕事につきたい	仕事につきたくない	わからない
末子3歳未満 N=21	100.0%	0.0%	0.0%
3歳～就学前 N=20	90.0%	0.0%	10.0%
小学生 N=29	79.3%	10.3%	10.3%
中学生 N=4	50.0%	25.0%	25.0%
高校生以上 N=68	27.9%	54.4%	17.6%

注) 無回答は除く

また、問 21 - 1「仕事につく上での不安」として、女性の回答者の約半数が、「家事、育児、介護との両立ができるか」を選択しており、仕事と家庭生活の両立の不安がうかがえる。また、40 歳代以上になると、「男女共に建て前は年令不問であっても、実際は制限がある」という自由記述があるように、不安項目として「年齢制限」が最も高い割合を占めている。「年齢制限」については、2007 年から募集・採用においては原則禁止になっているものの、現実的には求職者にとっては不安材料であることがうかがえる。

一方男性は、60 歳未満において、問 21「就労の希望」の質問に、「仕事につきたいと思わない」と回答した者はおらず、就労意欲の高さがうかがえる。また、問 20「働いていない理由」として、60 歳代以上では、回答者の半数以上が「定年退職した」をあげている。しかし 60 歳代の 34.3%が、「仕事につきたい」と回答している。その一方で 60 歳代以上の男性は、「年齢制限」を働く際の不安理由として、最も高い割合であげている。定年後も働く意欲があるものの、年齢を不安に考えているようだ。さらに、問 13「高齢期の生活の不安」の回答をみると、「健康で過ごせるか」とともに「経済的にやっていけるか」と回答している割合が高く、就労意欲がある高齢者に対する就業支援も重要な課題であろう。

女性、男性ともに、仕事につく上での不安材料として「年齢制限」をあげる割合が高いことを踏まえれば、市民の就労意欲が実現できる、地域におけるさらなる雇用創出が望まれる。

<働き続ける、働き始めるために大切なこと>

女性は、問 22「働く上で大切なこと」の各項目を選択している割合が男性と比べて高い。「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」の 2 項目を回答者の約 6 割が選択している。特に 20 歳代、30 歳代の女性のほぼ 7 割は、「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」、「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」を選択している。この結果から、仕事と家庭生活の両立のためには、就労環境だけでなく、家事、育児、介護等への男性の協力が不可欠であることがわかる。したがって、どちらの支援も同時に促進する必要があると考えられる。同時に、自由記述にも保育所の充実を希望する意見が数多くあり、これから働こうとする女性も含めた保育所整備は早急な課題である。

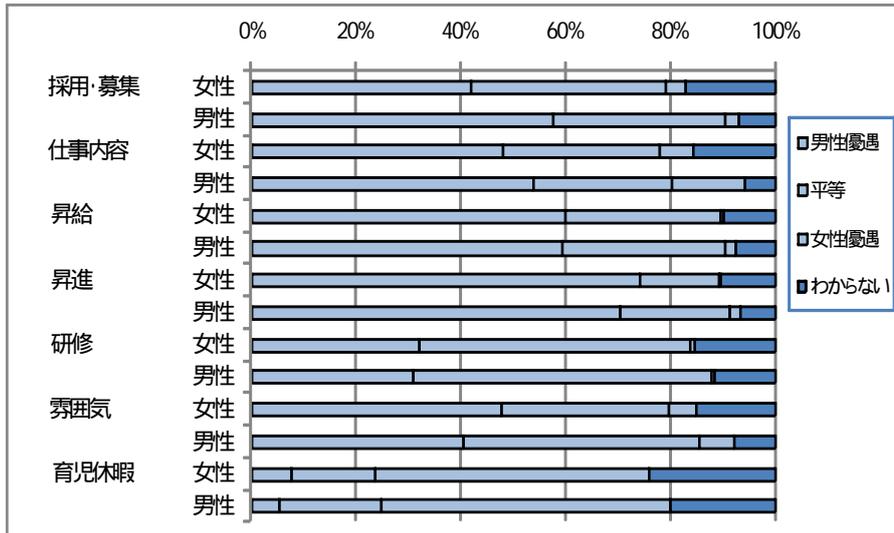
一方、男性は、問 22「働く上で大切なこと」として、いずれの年代においても、回答者のほぼ半数が、「厚生年金などの社会保障が整っていること」を選択しており、雇用主に社会保障を望んでいることがうかがえる。その一方で、20 歳代から 60 歳代までの男性のほぼ半数が、「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」を選択しており、仕事と家庭生活等の両立を希望していることが示唆できる。

また、「職場に介護、育児休業制度があること」と「介護、育児休業制度がとりやすい職場の雰囲気があること」を選択している割合がほぼ同じであることから、制度等の整備だけでなく、それを利用できる職場づくりの支援が必要であることがわかる。したがって、事業主等への制度に対する理解啓発の促進は、重要な課題であると考えられる。

<雇用の場における男女平等感>

問 16「雇用の場における男女平等感」を雇用者に焦点を当てて分析すると、女性、男性ともに「平等になっている」の割合が最も高いのは、「研修の機会や内容」であり、ほぼ半数がそのように考えている（図表 4）

図表4 「雇用の場における男女の平等感」



項目	性別	男性優遇	平等	女性優遇	わからない
採用・募集	女性 N=210	41.9%	37.1%	3.8%	17.1%
	男性 N=288	57.6%	32.6%	2.7%	6.9%
仕事内容	女性 N=212	48.1%	29.7%	6.6%	15.6%
	男性 N=290	53.8%	26.6%	13.8%	5.9%
昇給	女性 N=212	59.9%	29.7%	0.5%	9.9%
	男性 N=289	59.2%	31.1%	2.1%	7.6%
昇進	女性 N=212	74.0%	15.1%	0.5%	10.4%
	男性 N=285	70.5%	20.7%	2.2%	6.7%
研修	女性 N=209	32.0%	51.7%	1.0%	15.3%
	男性 N=286	30.7%	57.0%	0.6%	11.5%
雰囲気	女性 N=210	47.7%	31.9%	5.3%	15.2%
	男性 N=288	40.6%	44.8%	6.6%	8.0%
育児休暇	女性 N=211	52.1%	16.1%	7.6%	24.2%
	男性 N=283	55.1%	19.4%	5.3%	20.1%

注) 無回答は除く

質問項目は本書71ページ図6-2参照

一方、「男性が優遇されている(「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)」と考える割合が高いのは「昇進・昇格、管理職への登用」であり、女性の74.0%、男性の70.5%が選択している。逆に、「女性が優遇されている(「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)」と回答している割合が高い項目は、女性、男性ともに「育児・介護休暇のとりやすさ」である。また、「働き続けやすい雰囲気」は、女性の方が不平等感が強い傾向にあるようだ。このような結果は、男女雇用機会均等法の改正などにより、採用や募集、および入社後の研修の機会等については改善されてきたものの、昇進や管理職への登用において、男性の方が優遇されているため、昇給に影響を及ぼすことになると考えられる。しかし、昇進、管理職への登用のためには、ある程度の勤続年数が必要とされる場合もある。したがって、女性が昇進や管理職となるためには、結婚、出産、育児、介護等を経ても継続的に働ける環境づくりが大切である。その一方で、男性が育児・介護休暇を取得できる職場づくりが望まれる。

おわりに

以上、市民の労働の実態および意識を「地域社会の環境整備」の視点から見てきた。今回の調査では、「今後仕事につきたいか」、「働き続ける、働き始めたいと考える場合、大切なこと」など、前回調査では見えなかった新たなことが明らかになった。今後は、市民が必要とする就業支援の具体的な方法なども、調査していくことが望まれる。

第二章 DV とセクシュアル・ハラスメント

大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程
白岩 優姫

はじめに

本章では、DV とセクシュアル・ハラスメントの調査結果について分析する。その前にここでは、DV とセクシュアル・ハラスメントの歴史を概観しておきたい。

まず DV は、1993 年に国連が「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」を採択したのを契機として、国際社会において根絶の対象となった。日本では DV の防止と被害者の保護を図るため、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が 2001 年 10 月に施行され、2004 年、2007 年に改正されている。

次にセクシュアル・ハラスメントについて述べる。この言葉は、日本で 80 年代半ばに使われ始めた。1989 年のセクシュアル・ハラスメントを理由とした日本初の民事裁判をきっかけに、同年の流行語大賞を獲得するほどに広まった。1997 年の男女雇用機会均等法改正では、職場におけるセクシュアル・ハラスメントへの配慮が盛り込まれた。2007 年の改正では範囲が拡大され、女性のみならず男性も配慮の対象となっている。

このような国内外の大きな動きの中、豊中市も「豊中市男女共同参画計画」に沿って、DV とセクシュアル・ハラスメント防止に向けて様々な施策を行ってきた。それではこのような取り組みは、市民の生活や意識にどのように影響しているのだろうか。

そこで本章においては、第一節で DV、第二節でセクシュアル・ハラスメントを、それぞれ考察することにしたい。

第一節 DV

< 豊中市における DV の定義 >

まず、豊中市における DV の定義について確認しておく。

「ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、夫や恋人、婚約者、同棲相手、前夫など現在あるいは以前に親密な関係にある (あった) 男性から女性に対してふるわれる暴力をいう。(以下略)」『夫・パートナーからの女性に対する暴力報告書』(2001)

「配偶者等への暴力。夫・恋人など親密な関係にある男性から女性に対する暴力。暴力には身体的暴力だけでなく、言葉や威嚇などによる精神的暴力、人とのつき合いを制限するなどの社会的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力、性行為の強要などの性的暴力があります。」『豊中市男女共同参画計画』(2004) 『豊中市男女共同参画計画 中間見直し』(2008)

以上のような定義は、男性被害者が想定されていないという点で不十分であると言わざるを得ないのではなかろうか。2011 年 3 月に策定された最新の「豊中市 DV 対策基本計画」では、豊中市も「配偶者や恋人など、親密な関係にある人からの暴力 (以下略)」と定義が拡張された。だが後に改めて示すように、男性被害者が少なからず存在することが、今回の調査から明らかとなっている。従って「被害者を女性に限定していない」と、定義に明記することが必要であると考えられる。

< 豊中市の取り組み >

豊中市は 2004 年に「DV 防止ネットワーク会議」を設置し、2005 年には DV 被害者緊急一時保護 (避難) 制度の創設、2009 年 4 月には DV 被害者救済のための基金及び給付制度を創設している。加えて同

年 8 月には、定額給付金や子育て応援特別手当を受給できない DV 被害者等のために、臨時生活支援金の給付事業を実施した。

現在豊中市において行われている DV についての具体的施策は、DV 被害者の保護・救済・支援、DV 防止にかかわる関係機関の連携、DV 被害女性への支援、DV 被害女性への生活支援、民間シェルターへの支援、DV を予防するための広報・啓発、である。『財団法人とよなか男女共同参画推進財団 2009 年度事業報告』によれば、相談事業における DV 相談件数は 370 件であり、全相談件数の約 17.9% を占めている。豊中市は相談者の現状の整理や、他機関とのケース会議、一時保護機関への連絡や動き方のアドバイス、臨時生活支援金の支給の取り組み、他機関からの紹介などを通して DV に悩む女性を支援している。また、若い人たちへの DV(デート DV)相談にも力を入れ、「デート DV 特別相談」として携帯電話による電話相談を行っている。

<男女における認識の違い どんな行為を DV と見なすか>

ここで見るのは、DV の認識率である。

まず、問 23 について年代別に見ると、男女とも 40 歳代以下の方がそれ以上の年代よりも、ほとんどの項目において「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が高い【本書 97 ページ表 7 - 1 参照】。

DV という概念が広まり、法律が施行・改正され様々な施策が行われていく中で、特に 40 歳代以下の若い世代に、親密な関係から発生する問題の一部が DV という「人権侵害」とであると認識されやすくなったといえよう。しかし豊中市の男女の特徴として大阪府調査(2004 年)と比較すると、全ての項目について「どんな場合でも暴力にあたると思う」が下回っている。

問 23 《DV に対する認識「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合/本調査と大阪府調査の比較》

	無視	大声	監視	「甲斐性なし」	叩く	ポルノ	性的行為の強要
女性	23.8%	29.3%	40.1%	51.3%	73.2%	51.0%	56.8%
	38.7%	45.8%	40.1%	58.9%	91.9%	58.1%	69.7%
男性	17.6%	20.1%	32.4%	36.8%	70.7%	42.7%	50.3%
	40.1%	33.0%	39.7%	51.6%	92.3%	58.3%	67.6%

上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査(大阪府 2004 年)

質問項目は本書 99 ページ表 7 - 3 参照

加えて、どのレベルの行為が DV とみなされるかについては、男女共通の認識が得られているとは言えない。「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、「命の危険を感じるほどの暴行をされる」以外のほとんどの項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。つまり男性回答者は、豊中市の DV 定義の言葉を借りれば、「精神的暴力」や「社会的暴力」、「経済的暴力」、「性的暴力」についての認識が、女性回答者と比べて低いということが言える。また市の前回調査(2005 年)と比較すると、男性は全ての項目について「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低くなっている。従ってこの結果より、男性への啓発の必要性を指摘することができる。

問 23 《DV に対する認識 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合/本調査と市前回調査の比較》

	無視	大声	壊す・捨てる	監視	人づきあい	お金	「甲斐性なし」	脅し
女性	23.8%	29.3%	50.6%	40.1%	40.6%	55.8%	51.3%	62.8%
	27.4%	26.7%	56.9%	45.5%	41.9%	62.2%	56.6%	67.9%
男性	17.6%	20.1%	47.0%	32.4%	25.8%	44.8%	36.8%	54.4%
	20.5%	21.1%	52.8%	38.6%	30.5%	52.8%	44.1%	56.9%
	投げる	押す・掴む	叩く	傷害	暴行	ボルノ	避妊せず	性的行為の強要
女性	68.7%	64.1%	73.2%	74.6%	75.1%	51.0%	45.7%	56.8%
	74.9%	68.6%	79.4%	81.0%	81.2%	50.9%	50.2%	64.4%
男性	62.8%	53.7%	70.7%	76.9%	77.3%	42.7%	36.3%	50.3%
	73.8%	64.0%	79.9%	83.9%	83.9%	44.3%	38.6%	56.5%

上段：本調査結果 下段：市前回調査（豊中市 2005 年）

質問項目は本書 98 ページ表 7 - 2 参照

< 調査からうかがえる男性像 >

女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答する割合が高いことは先に指摘した通りである。それは裏を返せば、DV 被害に遭っている男性は、それを認識し辛いということではないだろうか。

加えて、DV 被害経験者のうち「相談しようと思わなかった」女性は、どの年齢層で見ても 30.0%～45.8% であるのに対して、男性は 55.6%～60.6% と大きな開きがあった。

ここから推察できるのは、「DV 被害を認識し辛いのに、たとえ被害を認識していても『相談しようと思わない』男性像」だ。従ってこのような男性被害者に配慮して、男性被害者向けの啓発事業を立ち上げることも重要な課題なのではないだろうか。DV 被害者のうち「相談したかったが、相談しなかった」人に尋ねた理由で、「どこ（だれ）に相談していいかわからなかったから」が女性 23.1% に対して男性 41.7% になっている。この明らかな違いは、男性向けの相談事業の必要性を如実に物語っているのではないだろうか。DV 被害者対策が女性のためのみならず、男性のためにも必要であることは明らかである。

問 24 《性・年齢別 DV の相談状況》

		家族や親族	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察	公的機関の相談窓口、電話相談など	保健所・保健センターの保健師	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセリング機関など）	医療関係者	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった	無回答
女性	20 歳代 N=30	16.7%	33.3%	-	3.3%	-	-	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	30.0%	13.3%
	30 歳代 N=66	36.4%	33.3%	-	-	-	-	-	3.0%	4.5%	3.0%	33.3%	10.6%
	40 歳代 N=70	17.1%	24.3%	1.4%	1.4%	-	-	1.4%	-	1.4%	7.1%	44.3%	17.1%
	50 歳代 N=56	16.1%	10.7%	-	-	-	-	-	1.8%	-	7.1%	44.6%	26.8%
	60 歳代 N=83	20.5%	14.5%	-	1.2%	1.2%	1.2%	-	-	-	8.4%	45.8%	15.7%
	70 歳以上 N=75	17.3%	5.3%	-	2.7%	-	-	1.3%	-	1.3%	9.3%	34.7%	33.3%
男性	20 歳代 N=10	10.0%	20.0%	-	-	-	-	-	-	-	10.0%	60.0%	10.0%
	30 歳代 N=33	9.1%	3.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	60.6%	30.3%
	40 歳代 N=51	9.8%	5.9%	-	-	-	-	-	-	2.0%	3.9%	56.9%	21.6%
	50 歳代 N=42	9.5%	4.8%	-	-	-	-	-	-	-	7.1%	57.1%	21.4%
	60 歳代 N=59	5.1%	6.8%	-	-	-	-	-	-	-	6.8%	59.3%	22.0%
	70 歳以上 N=45	11.1%	6.7%	-	-	2.2%	-	-	-	-	4.4%	55.6%	24.4%

<DVの性質と相談先>

問24、DVの相談状況について、「経験あり」と回答した人のうち「相談しようと思わなかった」のが女性39.7%、男性57.9%、である。そして「相談したかったが、しなかった」、「相談しようと思わなかった」という2つの理由について男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く過半数を超えている(女性54.8%、男性59.6%)のである【本書106ページ図7-4参照】。

先述した通りDVという概念は、身体を直接的に痛めつけるような行為だけを指すのではなく、「精神的暴力」や「社会的暴力」、「経済的暴力」、「性的暴力」を含む。しかしそれらは被害が目に見える形ではっきりと表れるわけではない。従って被害は、非常に私的なことで「相談するほどのことではない(と思ったから)」と認識されてしまう傾向があるのだ。それにも関わらず、相談先としてあげられているのは男女ともに私的な関係性にある「家族や親族」が最も高い(女性21.1%、男性8.8%)。しかし「家族や親族」への相談は、かえってその私的な関係性が障害となって、解決が難しくなることもありうる。むしろこの種の問題は第三者である公的な機関のほうが、問題解決により有効に機能する場合もあろう。DV撲滅のために公的な機関ができることは大きく、その役割は非常に重要である。この相談事業は優先順位を最大にし、行政が今後一層拡充して取り組むべきことであると言える。

また「相談したかったが、しなかった」女性の理由では、「相談してもむだだと思ったから」が42.3%と最も高くなっている。これは、せっきくの相談窓口という有効な取り組みが、あまり市民に認識されていないことを示している。今後のさらなる広報活動が必要だ。

問25 《問24で「相談したかったが、しなかった」と答えた人の理由》

	愛情表現	我慢	相談は無駄	恥ずかしい	自分も悪い	世間体	相談するほどのことではない	相談して傷つきたくない	相談先が分からない
女性 N=26	5.1%	23.1%	42.3%	3.8%	23.1%	19.2%	30.8%	15.4%	23.1%
男性 N=12	0%	33.3%	33.3%	16.7%	58.3%	25%	25%	8.3%	41.7%

質問項目は本書106ページ図7-4参照

第二節 セクシュアル・ハラスメント

これまではDVについて考察してきたが、第二節ではセクシュアル・ハラスメントについて考察を進めていく。

<豊中市の取り組み>

豊中市においては、1999年に「市役所職場におけるセクシュアル・ハラスメント防止に関する指針及びセクシュアル・ハラスメントについての苦情又は相談の処理に関する要綱」が制定された。2003年10月に施行した「豊中市男女共同参画推進条例第2条」ではセクシュアル・ハラスメントが定義された。現在は「豊中市男女共同参画計画 中間見直し」(2008)によると「職場や学校、地域等で起きる性的いやがらせ。相手の意に反した、性的な言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさの流布、衆目に触れる場所へのわいせつな写真の提示等が含まれます。」という定義が利用されている。

この定義に沿って、現在豊中市において行われている具体的施策は 雇用の場におけるセクシュアル・ハラスメント防止促進と被害者支援、教育・保育・療育機関におけるセクシュアル・ハラスメント防止推進、地域におけるセクシュアル・ハラスメント防止促進、市役所・市施設・学校・一部事務組合・市の出資法人におけるセクシュアル・ハラスメント防止推進、である。

< 「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合 >

前回調査と比較すると、問 26「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」について、男女ともにほとんどの項目において肯定する割合が増加している。特に女性よりも男性の方が大きく増加している。男女とも「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」が6割を超えるのが、「故意に身体にふれられる」、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」、「着替え中の更衣室に、異性に入られる」という項目である【本書 107 ページ図 7 - 5 参照】。このような性的かつ直接的な行為は、セクシュアル・ハラスメントとして男女が同じように認識していると言える。

< 豊中市男女のセクシュアル・ハラスメントの経験 >

豊中市の男女は職場、学校、地域という具体的なシーンで「セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある」と回答する割合が低い。しかし職場、学校、地域において「セクシュアル・ハラスメントを経験したことがない」と回答しているのは、女性 19.0~20.0%、男性 17.0~17.9%である。裏を返せば、8割前後の男女が何らかのセクシュアル・ハラスメントを経験している可能性があると言えるのではないだろうか。

豊中市の男女は、職場・学校・地域のなかで最も「職場」でのセクシュアル・ハラスメントを経験した割合が高い。このことから、職場でのセクシュアル・ハラスメント対策は重視されなければならない課題であると言える。データを見ると女性は、男性と比べて圧倒的に被害にあっている。特に「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」は女性 17.2%に対して男性 4.8%と開きがあり【本書 111 ページ表 7 - 7 参照】、女性被害者に重点を置いた対策が必要であろう。

おわりに

本調査では、DV とセクシュアル・ハラスメント双方において、被害の実態を把握するには、回答欄に限りがあった。個別の被害の実態を把握するような、今後のより詳しい質的調査・研究が望まれるところである。

なお、その際には性的マイノリティ（単純に男女という典型的な分類に分けられないような人々。例えば、身体的に性別が不明瞭な人や、性的な要求が両性や同性に向かう人、自分の身体の性に違和感をもつ人、他人への性的な要求をもたない人、など。）を軸にすえた調査設計が必要である。DV とセクシュアル・ハラスメントは、男女だけではなく、性的マイノリティにとっても深刻な問題であると思われるからである。今後は男女のみならず全ての人々を想定した調査と対策が重要な課題である。

はじめに

豊中市は大阪府のなかでも、男女共同参画社会形成の取り組みを最も早くから開始した市の一つである。1983年には市内に「豊中市婦人問題推進本部」を設置し、その翌年に「豊中市女性問題推進会議」を開催した。1985年にこの「豊中市女性問題推進会議」は、「豊中市における女性のための199の提言」により、女性の地位向上を目指すための課題を具体的に示した。

「豊中市男女共同参画推進条例」は2003年に施行、「豊中市男女共同参画計画」が同年に策定され、翌2004年度に実施されたアンケート調査分析に基づいて、「豊中市男女共同参画計画中間見直し」が2008年に策定された。この計画において、市が基本計画の見直しを行ったテーマのうちの2つが「労働」と「DV」であった。本報告書において、第一章で「労働」(藤田執筆)、第二章で「DV」(白岩執筆)にそれぞれ焦点をあてたのはこのためである。

本調査を、今後の豊中市における男女共同参画社会形成にいかすためには、「労働」と「DV」に加え、「性別役割分担意識」についても考察する必要がある。というのも、今回の調査では、前回豊中市調査(2005年)、全国調査(2009年)、大阪府調査(2009年)のいずれと比べても、性別役割分担意識を支持する割合が大きいという傾向が示されたからである。

そこで以下では、まず第一節で、豊中市における性別役割分担意識の実態を明らかにし、次に第二節で、性別役割分担意識の「肯定派」・「否定派」別に、日常生活の「理想」と「現実」とをとりえ、最後に第三節では、第一章と第二章で得られた知見も踏まえつつ、豊中市行政の課題をまとめることにしたい。

第一節 豊中市民の性別役割分担意識の傾向

< 性別役割分担「肯定派」の高い割合(性・年代別) >

今回の調査結果で明らかにされたのは、前回調査に比べ、性別役割分担意識の「肯定派」の割合が上昇したことである。男女別にみると、性別役割分担「肯定派」が女性では56.4%、男性では71.7%と、男性の方が高い割合を占めている。

[表1 性別役割分担に対する意識]

	肯定派(%)		否定派(%)	
	女性	男性	女性	男性
今回の豊中市調査	56.4	71.7	32.0	19.7
前回の豊中市調査	28.0	48.4	41.9	29.1
全国(内閣府)	37.3	45.9	58.6	51.1
大阪府	46.9	56.7	52.9	42.3

注) 肯定派とは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に「賛成」+「どちらかといえば賛成」を指す。また否定派とは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に「反対」+「どちらかといえば反対」を指す。

表1は、性別役割分担に対する意識に関する、前回豊中市調査(2005年)、全国調査(2009年)、大阪府調査(2009年)との比較である。前回調査では女性の「肯定派」より「否定派」が上回っていたが、今回調査で逆転が生じ、女性の「肯定派」の割合は、前回は著しく上回った。男性の「肯定派」の割合は、前回は比べてやはり増加している。「肯定派」の割合は、全国調査や大阪府調査と比べても、男女問わず高い傾向にある。

そこで「肯定派」に注目し、その傾向をみることにしたい。性別・年代別に「肯定派」をみると、20代と30代、50代の女性を除いては、どの世代においても「肯定派」が男女を問わず半数を超え、またいずれの世代でも「肯定派」は、男性が女性を上回っていることがわかる【本報告書50ページ参照】。

<性別役割分担を肯定する理由>

男性の「肯定派」が回答した割合が最も高いのは、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」で、53.2%(複数回答)であった(なお女性「肯定派」は43.7%)。この理由を挙げる背景には、分担する役割をできるだけ少なくし、限られた役割に集中することは効率がよいとする現実があると推察される。

他方、女性の「肯定派」が最も高い割合を示しているのは、「子どもの成長にとってよいと思うから」で、51.2%(複数回答)であった(なお男性「肯定派」は45.8%)。また「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が43.7%と、二番目に高かった。加えて、女性・男性の賛成派のいずれも3割前後が「個人的にそうありたいと思うから」と答えている。

だが実際に、「仕事」、「家事」、「育児」の全ての役割において、性別で分担されるのが理想とされているのであろうか。この点を明らかにするために、一体どのような役割分担が理想とされているのか、またその理想がどの程度現実のものとなっているのかについて、より詳しくみておく必要がある。そこで次節では性別役割分担に焦点付けた分析を行うことにしたい。

第二節 性別役割分担の「肯定派」、「否定派」それぞれの理想と現実

本節では、問9の性別役割分担(「男性は仕事、女性は家事・育児」)を次の3つ、「生活費を得る」、「日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」、「育児」に分け、それぞれの「理想」と「現実」についての分析を行う。

<生活費を得る>

[表2-1 「生活費を得る」の理想と現実]

	女性				男性			
	肯定派(%)		否定派(%)		肯定派(%)		否定派(%)	
	理想 N=247	現実 N=252	理想 N=148	現実 N=149	理想 N=324	現実 N=318	理想 N=75	現実 N=74
夫婦・カップルで同じくらい	14.2	10.0	49.3	25.0	13.9	12.0	45.3	28.0
主に夫・パートナー(男性)	83.8	86.0	49.3	73.0	84.9	86.0	53.3	67.0
主に妻・パートナー(女性)	2.0	4.0	1.4	1.0	1.2	2.0	1.3	5.0
その他の人	0	0	0	1.0	0	0	0	0

注)性別役割分担の理想と現実の比較を行うため、「配偶者あり」に限っている。

また肯定派、否定派のみにし、「わからない」「無回答」を省いた。

表の2-1は「生活費を得る」における役割分担の、「理想」と「現実」を比較したものである。

まず女性の「肯定派」をみると、「理想」、「現実」ともに「主に夫・パートナー(男性)」がそれぞれ

83.8%、86.0%と高い割合を示しているものの、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合がほぼ1割ある。

次に女性の「否定派」をみると、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合が49.3%と約半数を占めるものの、「主に夫・パートナー（男性）」を「理想」とする割合も同数の49.3%を占める。また「現実」においては、「主に夫・パートナー（男性）」が73.0%にのぼる。

第三に男性の「肯定派」をみると、女性の「肯定派」と同様、「理想」、「現実」とともに「主に夫・パートナー（男性）」がそれぞれ84.9%、86.0%と高い割合を示しているものの、「理想」を「夫婦・カップルで同じくらい」と回答する割合がほぼ1割ある。

第四に男性の「否定派」をみると、女性の「否定派」と同様、「理想」においては「夫婦・カップルで同じくらい」が45.3%と約半数を占めるものの、「主に夫・パートナー（男性）」と回答する割合はやや高い53.3%を占める。また「現実」においては、「主に夫・パートナー（男性）」が67.0%にのぼる。

< 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯） >

[表 2-2 「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」の理想と現実]

	女性				男性			
	肯定派(%)		否定派(%)		肯定派(%)		否定派(%)	
	理想 N=244	現実 N=258	理想 N=147	現実 N=150	理想 N=323	現実 N=320	理想 N=72	現実 N=72
夫婦・カップルで同じくらい	27.0	10.0	71.4	19.0	20.7	13.0	61.1	24.0
主に夫・パートナー（男性）	0	1.0	0.7	3.0	1.2	2.0	0	1.0
主に妻・パートナー（女性）	73.0	88.0	27.9	77.0	78.0	85.0	38.9	74.0
その他の人	0	1.0	0	1.0	0	0	0	1.0

注) 性別役割分担の理想と現実の比較を行うため、「配偶者あり」に限っている。

また肯定派、否定派のみにし、「わからない」「無回答」を省いた。

表 2-2 は「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」における役割分担の、「理想」と「現実」を比較したものである。

まず女性の「肯定派」をみると、「理想」、「現実」とともに「主に妻・パートナー（女性）」は、それぞれ78.0%、88.0%と高い。「夫婦・カップルで同じくらい」が「現実」である割合は1割と少ないものの、「理想」とする割合は20.7%である。

次に女性の「否定派」をみると、「理想」においては61.1%が「夫婦・カップルで同じくらい」としてしている。だが「現実」では19.0%と低く、「主に妻・パートナー（女性）」が77.0%にのぼっている。

第三に男性の「肯定派」をみると、「理想」、「現実」とともに「主に妻・パートナー（女性）」は、それぞれ78.0%、85.0%と高い。「夫婦・カップルで同じくらい」が「現実」である割合は13.0%と少ないものの、「理想」とする割合は20.7%である。

第四に男性の「否定派」をみると、「理想」においては「夫婦・カップルで同じくらい」が61.1%と過半数を占めるものの、「主に妻・パートナー（女性）」と回答する割合は38.9%ある。また「現実」においては、「主に妻・パートナー（女性）」が74.0%と高い。

< 育児 >

[表 2-3 「育児」の理想と現実]

	女性				男性			
	肯定派(%)		否定派(%)		肯定派(%)		否定派(%)	
	理想 N=128	現実 N=121	理想 N=83	現実 N=85	理想 N=187	現実 N=171	理想 N=44	現実 N=43
夫婦・カップルで同じくらい	63.3	19.0	88.0	22.0	38.0	16.0	81.8	28.0
主に夫・パートナー(男性)	0	0	0	1.0	0	0	2.3	2.0
主に妻・パートナー(女性)	36.7	81.0	12.0	76.0	62.0	84.0	15.9	70.0
その他の人	0	0	0	1.0	0	0	0	0

注) 性別役割分担の理想と現実の比較を行うため、「配偶者あり」、「子どもと同居」に限っている。

また肯定派、否定派のみにし、「わからない」「無回答」を省いた。

表 2-3 は「育児」における役割分担の「理想」と「現実」を比較したものである。

まず女性の「肯定派」をみると、「主に妻・パートナー(女性)」を「理想」とする割合は 38.7%にとどまっており、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合の方が 63.3%とより高い。しかしながら「現実」では、「主に妻・パートナー(女性)」が 81.0%にのぼっている。

次に女性の「否定派」をみると、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合は 88.0%と高い。だが女性「否定派」の「現実」では、「主に妻・パートナー(女性)」が 76.0%を占め、「夫婦・カップルで同じくらい」は 22.0%にとどまっている。

第三に男性の「肯定派」をみると、「主に妻・パートナー(女性)」を「理想」とする割合は 62.0%と高く、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合は、女性の「肯定派」には及ばないものの 38.0%いることがわかった。しかしながら「現実」では、「主に妻・パートナー(女性)」が 84.0%を占めている。

第四に男性の「否定派」では、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合が 81.8%を占め、「主に妻・パートナー(女性)」を「理想」とする割合を大きく上回っている。だが「現実」では、「主に妻・パートナー(女性)」が 70.0%にのぼっている。

< まとめ >

以上、性別役割分担の役割ごとの比較を行うことにより、「肯定派」も「否定派」も決して一様ではないという、前回調査では示されなかった、豊中市民の性別役割分担意識の内実が明らかとされた。例えば、性別役割分担意識の「肯定派」は、必ずしも「男性は仕事、女性は家事・育児」が望ましいとしているわけではなく、「夫婦・カップルで同じくらい」を「理想」とする割合が少なからずあることがわかった。今後は市民の「理想」に「現実」を近づけるために、いかなる行政政策が必要であるかが具体的に検討される必要がある。

第三節 豊中市行政の課題

本節では、藤田分析、白岩分析を含め、豊中市行政の課題をまとめる。

1. 啓発の新しい段階

これまでの分析から、豊中市行政は男女共同参画に関わる啓発の、新しい段階を迎えているということが言えよう。ここでは二つを提案しておく。

第一に、男女平等の理念からだけでなく、市民一人ひとりの生涯の暮らしを守るという側面を強調

することが必要である。すなわち男女共同参画社会の形成により、豊中市民の暮らしにどのような実益がもたらされるのかを、一層周知させていくような啓発を提案したい。

男女共同参画社会とは、多様な生き方を認め、育児や介護休暇を取得することが人生に不利にならない社会である。これに対し、現在の性別役割分担を基本とする社会は、一見効率的に見えながら、家族の生活基盤を失うリスク（危険に遭う可能性）が高い社会である。この点が市民に理解されるために、ライフキャリア教育（生涯を視野に入れた生活設計を行う能力を育てる学び）を啓発に組み込むことが検討されてよい。

第二に、女性のみが社会的弱者になりうるという印象を与える啓発から、男性を含めあらゆる人々もまた、社会的弱者となりうるという啓発に転換させることを提案したい。特に DV に関わる啓発においては急務である。

2．行政支援事業

仕事と育児・介護等の両立、離職後の再就職の実現、また DV・セクハラ対策においては、行政の積極的な支援なしには実現することは難しい。具体的には、以下の支援が挙げられる。

第一に、保育所や介護施設の完備、保育・介護サービスの一層の充実のみならず、特に乳幼児をもつ女性に対しては、育児支援と就業支援を一体で考える必要性があり、そのような施設の整備が望まれる。

第二に、家族の複数が家事・育児・介護に関わることのできる環境づくりのためにも、長時間労働の抑制に結びつく制度の創出がなされなければならない。

第三に、高年齢者の就労意欲が高いことを踏まえれば、人生の様々な段階で再就職を実現する、地域の雇用創出も含めたさらなる就業支援だけでなく、人材募集の際の年齢制限撤廃の徹底を含む、事業主等への働きかけも不可欠である。

第四に、相談窓口の充実も必要とされる。DV・セクハラ男性被害者向けの新たな相談窓口はもちろんのこと、離職者の多様な要望に応える就業支援窓口を完備させていくことが重要である。

3．行政と市民との新しい関係構築の必要性

市民こそ市民生活の専門家である。従って市民から寄せられたアイデアを採用する等、市民とともに制度を充実させてゆくことが望ましい。

一例を挙げるならば、DV やセクハラ相談業務がいかに問題解決に結びついたかの知見を、相談者の声を通して明らかにされることで、市民の利用が促進されるだけでなく、より効果的な方法を、市民全体で検討できるのではなかろうか。

行政が市民と市民とを繋ぎあわせ、より多くの市民と協働しうる体制を組むことこそ、地に足のついた男女共同参画社会の推進が可能となると考える。

おわりに

紙数に限りがあり、本報告書で扱ったのは、本調査で明らかにされたことのごく一部に過ぎない。今回、割愛せざるを得なかった内容として、特に指摘したいのは、自由記述の体系的な分析である。自由記述には、豊中市には男女共同参画の議論を活性化させ、より暮らしやすい地域づくりに貢献しようとする豊かな人材がいることが示されている。

本調査を豊中市政のためにいかすことは、調査に協力いただいた豊中市民に対する当然の責務であろう。今後も引き続き本調査の包括的な分析を行い、インタビュー調査等で市民意識をより詳しく探ってゆきつつ、豊中市における男女共同参画社会の形成に向けた、課題の探究や方法論の構築に寄与することを、分析を行った私たちの課題としたい。

調查票

問4 あなたと一緒に住んでいる方につけてください。(はいいくつでも)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 子ども |
| 3. 孫 | 4. 父 |
| 5. 母 | 6. 祖父母 |
| 7. 兄弟・姉妹 | 8. その他(具体的に) |
| 9. 同居家族はいない | |

「お子さんと一緒に住んでいる」と答えられた方におたずねします。

問4-1 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(は1つ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 3歳未満 | 2. 3歳以上就学前 |
| 3. 小学生 | 4. 中学生 |
| 5. 高校生相当の年齢 | 6. 高校生相当の年齢より上 |

問5 あなたとあなたの配偶者・パートナー(事実婚を含む)の職業をお答えください。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。(はそれぞれ1つずつ)

＜あなたの職業＞	＜あなたの配偶者・パートナーの職業＞
1. 自営業主(独立して、自分で事業をしている人。経営者)	1. 自営業主(独立して、自分で事業をしている人。経営者)
2. 家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している人)	2. 家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している人)
3. 雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)	3. 雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)
4. 家事専業(主婦・主夫)	4. 家事専業(主婦・主夫)
5. 無職(年金生活を含む)	5. 無職(年金生活を含む)
6. 学生	6. 学生
7. その他(具体的に)	7. その他(具体的に)

「3. 雇用者(会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)」と答えられた方におたずねします。

問5-1 勤務形態は、次のどれにあたりますか。(は1つ)

＜あなたの勤務形態＞	＜あなたの配偶者・パートナーの勤務形態＞
1. 常勤(フルタイム)	1. 常勤(フルタイム)
2. パートタイム(週30時間以上)	2. パートタイム(週30時間以上)
3. パートタイム(週30時間未満)	3. パートタイム(週30時間未満)
4. その他(具体的に)	4. その他(具体的に)

続いて、順番に質問にお答えください。

問6 あなたは、次の ~ の項目についてどのように思いますか。
 (~ は各項目にそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない と思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4	5
結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ	1	2	3	4	5
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
自分の子どもには、男女にかかわりなく同程度の教育・学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5
子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5
育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい	1	2	3	4	5

問7 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。
 (~ の項目について、理想と現実それぞれ各項目に ~ は1つ)

全員が お答えください				配偶者・パートナーのいる方のみ お答えください				
理想				現実				
夫婦 カップル で同	主に夫・ パートナー (男性)	主に妻・ パートナー (女性)		夫婦 カップル で同	主に夫・ パートナー (男性)	主に妻・ パートナー (女性)	その他の人	該当しない
1	2	3	生活費を得る	1	2	3	4	5
1	2	3	家計の管理	1	2	3	4	5
1	2	3	日常の家事 (食事のしたく、掃除、洗濯)	1	2	3	4	5
1	2	3	育児	1	2	3	4	5
1	2	3	高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5

問 8 あなたは、一般的に、次の ~ の各分野で男女は平等になっていると思いますか。
 (は各項目にそれぞれに1つ)

	男性の方が優遇されている	どちらの方が優遇さ	平等になっている	どちらの方が優遇さ	女性の方が優遇さ	わからない
家庭生活で	1	2	3	4	5	6
職場で	1	2	3	4	5	6
学校教育の場(児童・生徒の立場から)	1	2	3	4	5	6
法律や制度で	1	2	3	4	5	6
政治の場で	1	2	3	4	5	6
地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
社会全体で	1	2	3	4	5	6

問 9 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。
 (は1つ)

- 1 . 賛成
 2 . どちらかといえば賛成

- 3 . 反対
 4 . どちらかといえば反対
 5 . わからない

問 9 - 1 その理由は、以下のどれに近いですか。(はいくつでも)

- 1 . 役割分担をした方が効率がよいと思うから
- 2 . 小さい頃からそう教えられてきたから
- 3 . 子どもの成長にとってよいと思うから
- 4 . 個人的にそうありたいと思うから
- 5 . その他(具体的に)
- 6 . 理由を考えたことがない

問 9 - 2 その理由は、以下のどれに近いですか。(はいくつでも)

- 1 . 男女平等に反すると思うから
- 2 . 小さい頃からそう教えられてきたから
- 3 . 男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから
- 4 . 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから
- 5 . その他(具体的に)
- 6 . 理由を考えたことがない

【全員がお答えください】

問 10 自分に子ども（未成年）がいると仮定したら、あなたは、将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（ は各項目にそれぞれ1つ）

	女子・男子 の両方に	特に 女子に	特に 男子に
社会的な地位を得る	1	2	3
経済的に自立した生活をする	1	2	3
人間性豊かな生活をする	1	2	3
家族や周りの人たちと円満に暮らす	1	2	3
社会に貢献する	1	2	3
本人の個性や才能を生かした生活をする	1	2	3
本人の意思に任せる	1	2	3
その他（具体的に)	1	2	3

問 11 あなたが学校、特に小・中学校で進めてほしい男女平等の取り組みは、どれですか。（ はいくつでも）

- 1．男女で協力して家事ができるようにする
- 2．人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる
- 3．性暴力^()、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる（性暴力^()：DV(ドメスティック・バイオレンス)、デートDV等を含む)
- 4．男女にかかわらず、その子どもの個性や能力を生かせるようにする
- 5．こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う
- 6．男女にかかわらず、働くことの意義を教える
- 7．男女にかかわらず、校長・教頭に登用するよう努める
- 8．保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ
- 9．その他（具体的に)
- 10．現状のままでよい

問 1 2 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものを選んでください。
 (は各項目にそれぞれ1つ)

	参加した、参加している		参加したことがない	
	し 今 た 後 い も 参 加	し 今 た 後 は 参 加 し た く な い	し 今 た 後 い は 参 加	し 今 た 後 は 参 加 し た く な い
自治会・町内会の活動	1	2	3	4
P T A や子ども会の活動	1	2	3	4
地域における趣味・スポーツ・学習の活動	1	2	3	4
N P O (非営利団体) やボランティアの活動	1	2	3	4
民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動	1	2	3	4

「今後は(も)参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問 1 2 - 1 それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 . 仕事が忙しいから | 2 . 家事・育児・介護で忙しいから |
| 3 . 健康状態がおもわしくないから | 4 . 活動に魅力がないから |
| 5 . 人間関係がわずらわしいから | 6 . 活動の情報が得られないから |
| 7 . 参加するきっかけがないから | 8 . あまり関心がないから |
| 9 . その他(具体的に) | |

【全員がお答えください】

問 1 3 あなたが高齢期の生活について、特に不安に思っていることはありますか。
 (はいくつでも)

- 1 . 生きがいを見つけられるか
- 2 . 健康で過ごせるか
- 3 . 一人になったときの孤独
- 4 . 一人になったときの身の回りのこと
- 5 . 経済的にやっていけるか
- 6 . 病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか
- 7 . その他(具体的に)
- 8 . 特にない

【現在「収入を得る仕事をしている」方におたずねします】

問 17 1日のうちで、あなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護等をしている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。（ はそれぞれ1つずつ）

（1）仕事（在宅就労を含む） 通勤時間を含めた時間を記載してください。

平日（ は1つ）	休日（ は1つ）
1. なし	1. なし
2. 4時間未満	2. 4時間未満
3. 4時間～6時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 6時間～8時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 8時間～10時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 10時間～12時間未満	6. 10時間～12時間未満
7. 12時間以上	7. 12時間以上

（2）家事・育児・介護等

平日（ は1つ）	休日（ は1つ）
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

【全員がお答えください】

問 18 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。（ は1つ）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活(*)」を優先したい (*)地域活動、学習・趣味・付き合い等
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. その他（具体的に)

問 19 それでは、あなたの現実の生活に最も近いものはどれでしょうか。（ は1つ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. その他（具体的に)

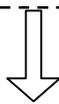
【現在「収入を得る仕事をしていない」方におたずねします】

問 20 あなたが働いていないのはどうしてですか。(は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. やりたい仕事がない | 2. 求職中である |
| 3. 応募しても断られる | 4. 家事や育児をしている |
| 5. 介護・看護をしている | 6. 定年退職した |
| 7. 健康上の問題 | 8. 学生である |
| 9. 働く必要がない | 10. 働きたくない |
| 11. その他(具体的に) | |

問 21 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. ぜひ、仕事につきたい | 3. 仕事につきたいと思わない |
| 2. できれば、仕事につきたい | 4. わからない |



問 21 - 1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。
(はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 自分のしたい仕事につけるか | 2. 自分の資格や能力が通用するか |
| 3. 職場の人間関係がうまくいくか | 4. 賃金など、望む労働条件が得られるか |
| 5. 自分の健康状態や体力 | 6. 家事、育児、介護との両立ができるか |
| 7. 保育所・園、学童保育などを利用できるか | 8. 年齢制限 |
| 9. その他(具体的に) | 10. 特にない |

【全員がお答えください】

問 22 もし、あなたが働き続けたい、あるいは、働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(はいくつでも)

1. 男女が協力して家事や育児・介護などをすること
2. 保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること
3. 働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること
4. 労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実していること
5. 再就職を希望する女性のための講座、セミナーが充実していること
6. 生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること
7. 厚生年金など社会保障が整っていること
8. 募集・採用、配置・昇進などの職場での男女間の格差がないこと
9. 残業がない、あるいは少ないこと
10. 職場に介護、育児休業制度があること
11. 介護、育児休業制度がとりやすい職場の雰囲気があること
12. その他(具体的に)

問 23 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。また、これまで次のようなことをされたことがありますか。 ~ それぞれについてお答えください。(は各項目それぞれに1つ)

暴力にあたると思いますか。				相手からされたことがありますか。		
思 つ	ど ん な 場 合 で も	あ る う で な い 場 合 が そ れ		何 度 も あ っ た (あ る)	あ っ た 1、 2 度 (あ る)	ま っ た く な い
1	2	3	何を言っても長期間無視される	1	2	3
1	2	3	大声でどなられる	1	2	3
1	2	3	あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	1	2	3
1	2	3	あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	1	2	3
1	2	3	実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1	2	3
1	2	3	あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	1	2	3
1	2	3	「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	1	2	3
1	2	3	げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	1	2	3
1	2	3	ものを投げつけられる	1	2	3
1	2	3	押したり、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる	1	2	3
1	2	3	身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	1	2	3
1	2	3	骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	1	2	3
1	2	3	命の危険を感じるほどの暴行をされる	1	2	3
1	2	3	あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
1	2	3	避妊に協力してくれない	1	2	3
1	2	3	あなたの意に反して性的な行為を強要される	1	2	3

1、2に1つでもつけた人は問24へ
すべて3につけた人は問26へ

【問 23で、「何度もあった(ある)、1、2度あった(ある)」と答えた人のみお答えください】

問 24 あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。(はいいくつでも)

- 1. 家族や親族
- 2. 友人・知人
- 3. 配偶者暴力相談支援センター
- 4. 警察
- 5. 公的機関の相談窓口、電話相談など
- 6. 保健所・保健センターの保健師
- 7. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど)
- 8. 医療関係者
- 9. その他(具体的に)
- 10. 相談しなかったが、しなかった
- 11. 相談しようと思わなかった

【問 24で、「10. 相談しなかったが、しなかった」「11. 相談しようと思わなかった」と答えた人のみお答えください】

問 25 あなたは、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。

(はいいくつでも)

- 1. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
- 2. 自分さえがまんすればすむと思ったから
- 3. 相談してもむだだと思ったから
- 4. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 5. 自分にも悪いところがあると思ったから
- 6. 世間体が悪いと思ったから
- 7. 相談するほどのことではないと思ったから
- 8. 相談することで自分が傷つきたくなかったから
- 9. どこ(だれ)に相談していいかわからなかったから
- 10. その他(具体的に)

【全員がお答えください】

問 26 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)にあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。(はいいくつでも)

セクシュアル・ハラスメント と思われる	職場、学校、地域		
	職場 で さ れ た	学 校 で さ れ た	地 域 で さ れ た
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10
11	11	11	11

問 27 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(はいくつでも)

1. 市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実する
2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する
4. 職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける
5. 男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり、表彰する
6. 女性の能力開発や就労支援を充実する
7. 労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う
8. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
9. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
10. 保育の施設・サービスを充実する
11. 高齢者の施設や介護サービスを充実する
12. 市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす
13. お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする
14. 女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実する
15. その他(具体的に)

問 28 男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会をつくるために、あなたご自身は何ができると思いますか。(はいくつでも)

1. 仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う
2. 経済的に自立する
3. 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
4. 男女の分け隔てをしないで、子どものしつけや教育をする
5. 夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす
6. 相手の立場に立って物事を理解するよう努める
7. 自分の意思を相手に伝える技術を身につける
8. 男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する
9. 男女共同参画を周囲に働きかける
10. 仕事に費やす時間を短くする
11. その他(具体的に)

問 29 男女共同参画社会実現のために、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました